

令和5年度
事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

学校法人 高知学園

目 次

	頁
I 法人の概要	1
[1] 学校法人基本方針	2
[2] 学校法人の沿革	7
[3] 設置する学校等の状況	10
[4] 設置する学校等の学生生徒等数の状況	14
[5] 役員・評議員の概要	16
[6] 教職員の概要	21
[7] その他	22
II 設置学校の事業報告	23
[1] 高知学園短期大学附属高知幼稚園	25
[2] 高知小学校	27
[3] 高知中学高等学校	31
[4] 高知リハビリテーション専門職大学	37
[5] 高知学園大学・高知学園短期大学	55
III 財務の概要	
令和5年度決算の概要	83

I 法人の概要（教育方針）

本学園は、明治32年、現在の高知市桜井町に創立された「江陽学舎」が前身で、令和5年度には創立124周年を迎えた。創立者は、独学で漢学や英語を習得された信清権馬（南国市出身）である。

学園の沿革をたどると、大正8年に城東商業学校を設置し、昭和23年に新教育制度により城東高等学校、城東中学校を設置した。昭和26年に川島源司（昭和37年に初代学園長に就任）が同高等学校、中学校の学校長に就任され、昭和27年には幼稚園を設置した。昭和31年には校名を高知高等学校、高知中学校に改称、昭和32年に現在地に移転し、同年に小学校を設置して、総合学園としての基礎が確立された。

昭和42年に短期大学を、昭和43年にリハビリテーション学院を設置、平成31年4月には、全国に先駆けて実践的・創造的な専門職業人の養成を目的とした高知リハビリテーション専門職大学を開学した。さらに、令和2年4月に高知学園短期大学の学科構成を4学科2専攻から3学科に改組し、1学部2学科の高知学園大学（四年制大学）を開学した。

初代学園長・川島源司先生は、「教育の常道を歩むために、如何なることをなすにも、すべて至誠をもって事に当たるという精神を生徒の基本方針とし、絶えず反復しこれにつとめれば、必ず他人に信頼される人となる。この『人に信頼される人物の育成』こそ、本学園教育の第一の着眼点である。」と述べている。

現在では、幼稚園から小学校、中学校、高校、短期大学、専門職大学、大学までの7部門、合わせて2,682人（令和5年5月1日現在）の児童、生徒、学生たちが学び、本学園の教育のシンボルである「世界の鐘」に込められた「この鐘の音のとどろくところ 永遠の真理と希望に輝き 世界の平和と友愛にみつ」の精神のもと、幼稚園から大学までを擁する充実した総合学園として更なる発展を目指している。

（基本情報）

法人の名称 学校法人 高知学園

主たる事務所の住所 〒780-0956 高知市北端町100番地 TEL 088-840-1167 FAX 088-840-1223
<http://www.kochi-gakuen.org>

設置各校

・ 高知学園大学・高知学園短期大学

〒780-0955 高知市旭天神町292-26 TEL 088-840-1121 FAX 088-840-1123
<http://www.kochi-gu.ac.jp>（大学） <http://www.kochi-gc.ac.jp>（短大）

・ 高知リハビリテーション専門職大学

〒781-1102 土佐市高岡町乙1139-3 TEL 088-850-2311 FAX 088-850-2323
<http://www.kpur.ac.jp>

・ 高知中学校・高知高等学校

〒780-0956 高知市北端町100番地 TEL 088-840-1111 FAX 088-844-7578
<http://www.kochigakuen.jp>

・ 高知小学校

〒780-0956 高知市北端町100番地 TEL 088-844-4331 FAX 088-871-1474
<http://www.kochigakuen.ed.jp>

・ 高知学園短期大学附属高知幼稚園・高知学園短期大学附属認可外保育所

〒780-0956 高知市北端町100番地 TEL 088-840-5005 FAX 088-840-5551
<http://www.kochi-yochien.jp>



令和5年度 学校法人基本方針

基本方針を策定する背景(なぜ策定するのか)

1

【現状】と【課題】と【対策】

【現状】

- 社会情勢：コロナ禍、少子化の進展、経済の縮小
- 直近の大きな取り組み
 - 令和元年度 高知リハビリテーション専門職大学開学
 - 令和2年度 高知学園大学開学

【課題】

1. 定員割れの状況
2. 財務の悪化(収支赤字)
3. 現有施設の老朽化



基本方針を策定する背景(なぜ策定するのか)

2

【現状】と【課題】と【対策】

【対策】(課題解決への取り組み)

1. 文部科学省AC調査の指摘事項(①～④)への対応
 - ①定員確保が喫緊の課題
 - ②財務改善計画の取り組み
(収支均衡を前提とした中長期的な財務計画の策定・実行など、経営基盤の安定確保への取り組み)
 - ③監事・会計監査人・内部監査室(三様監査)との連携強化
 - ④コンプライアンス遵守への取り組み
2. 監事からの提言(職務権限の明確化)への対応
3. 私立学校法改正(令和7年4月予定)への対応



学校法人 高知学園

令和5年度 学校法人基本方針

3

① 定員確保

→ 志願者数・入学者数は外部評価(学生生徒・保護者)のパロメーター

② 組織強化(ガバナンスの強化)

→ 理事会・評議員会の活性化
→ 職務権限の明確化 → 組織の透明性

③ 監査体制の強化

→ 三様監査の充実、特に内部統制(内部監査)の強化
→ 監事のあり方を再確認

④ 財務改善

→ 「経営企画室」の創設 → 令5.4.1設置
→ 財務計画の策定・実行 → 令5年度から各学校と経営企画室とのヒアリング開始

⑤ コンプライアンスの徹底・社会通念上守らなければならないことに留意

・規程やルールを守る組織や行動
→ 教職員研修会の開催、外部通報窓口の設置(令和5年12月設置)

経営基盤の安定確保



学校法人 高知学園

令和5年度 学校法人基本方針 実施報告

4

① 定員確保について

- ・令5.7.6 高知学園大学・短期大学とのヒアリング①(理事長、本部長、学長、副学長他)
- ・令5.7.13 高知リハビリテーション専門職大学とのヒアリング(理事長、本部長、学長、副学長他)
- ・令5.8.8 高知学園短期大学附属高知幼稚園とのヒアリング①(理事長、本部長、園長他)
- ・令5.8.15 高知学園大学・短期大学とのヒアリング②(理事長、本部長、学長、副学長他)
- ・令5.8.17 高知中学・高等学校とのヒアリング(理事長、本部長、校長、教頭他)
- ・令5.11.21 高知学園短期大学附属高知幼稚園とのヒアリング②(理事長、本部長、園長他)



令和5年度 学校法人基本方針 実施報告

5

② 組織強化(ガバナンスの強化)について

〈理事会・評議員会の活性化〉

- ・令5.5.30 第1回評議員会においてセミナー実施(講師:日本開発構想研究所研究員 山田氏、長島氏 題名:監事のあり方等)
- ・令5.8.23 第2回評議員会においてセミナー実施(講師:山岡真博弁護士 題名:役員、評議員対象コンプライアンスセミナー)

〈職務権限の明確化〉について

- ・令和5年度中に理事長指針 → 令和6年度から具体的に取り組む方向



令和5年度 学校法人基本方針 実施報告

6

③ 監査体制の強化について

- ・令5.5.1 監事・公認会計士・内部監査室による三者連携協議①（理事長参加）
- ・令5.5.18 監事・所属長による業務監査（理事長に報告）
- ・令5.5.30 第1回評議員会においてセミナー実施（講師：日本開発構想研究所研究員 山田氏、長島氏 題名：監事のあり方等）
- ・令5.9.22 監事・内部監査室との情報懇談会（理事長参加）
- ・令5.11.9 内部監査室による内部監査（全学対象 11.9～11.10 テーマ「いじめ、不登校への対応状況」）
- ・令5.11.30 監事・公認会計士・内部監査室による三者連携協議②（理事長参加）



学校法人 高知学園

令和5年度 学校法人基本方針 実施報告

7

④ 財務改善について

- ・令5.4.1 経営企画室の設置
- ・令5.6.15 第3回幹部会において令和4年度決算状況説明
- ・令5.7.6 高知学園大学・短期大学とのヒアリング（理事長、本部長、学長、副学長他）
- ・令5.7.18 高知リハビリテーション専門職大学とのヒアリング（理事長、本部長、学長他）
- ・令5.8.8 高知学園短期大学附属高知幼稚園とのヒアリング（理事長、本部長、園長他）
- ・令5.8.17 高知中学・高等学校とのヒアリング（理事長、本部長、校長、教頭他）
- ・令5.8.23 第2回評議員会において令和4年度決算確定に伴う財務概要の説明（報告事項）
- ・令5.11.21 高知幼稚園にて園長等管理職に財務概要の説明（理事長、本部長、園長他）



学校法人 高知学園

令和5年度 学校法人基本方針 実施報告

8

⑤ コンプライアンスの徹底について

- ・令5.7.20 理事長による高知小学校教職員対象のコンプライアンスセミナー実施(約20名)
- ・令5.7.21 理事長による高知中高教職員対象のコンプライアンスセミナー実施(約70名)
- ・令5.8.23 第2回評議員会においてセミナー実施(講師:山岡真博弁護士 題名:役員、評議員対象コンプライアンスセミナー)
- ・令5.8.23 第2回理事会において外部相談窓口設置に係る関係規程の改正議案審議
- ・令5.10.4 山岡真博弁護士による幼小中高教職員対象のコンプライアンスセミナー実施(約80名)
- ・令5.12.1 外部相談(通報)窓口の設置(担当:高野亜紀弁護士)
- ・令5.12.26 山岡真博弁護士による高知リハビリテーション専門職大学教職員対象のコンプライアンスセミナー実施(約30名)



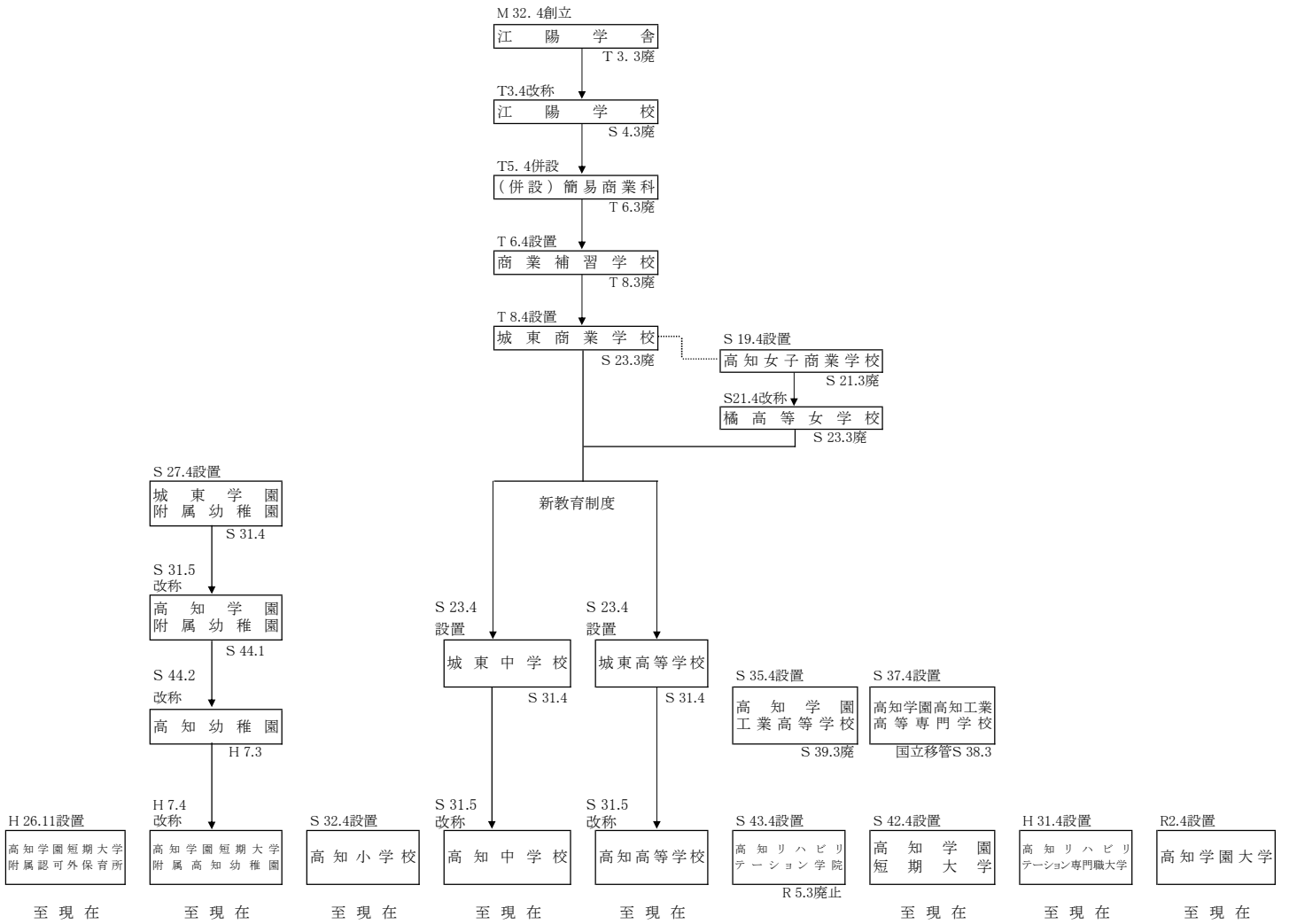
学校法人 高知学園

[2] 学校法人の沿革

法人の 沿革	明治32年 4月	高知市中新町に江陽学舎創立（創立者 信清 権馬）
	明治36年 4月	江陽学舎を江陽学校と改称
	明治39年 4月	高知市中新町より北新町84に移転
	大正 5年 4月	江陽学校に簡易商業科併設
	大正 7年 4月	簡易商業科を廃止し、商業補習学校設置
	大正 7年12月	乙種商業学校文部大臣認定
	大正 8年 4月	商業補習学校を廃止し、城東商業学校（乙種修業年限3年）設置
	大正10年12月	財団法人城東商業学校設置
	大正15年 3月	城東商業学校を甲種（修業年限5年）に昇格
	昭和 4年 3月	江陽学校廃止
	昭和19年 4月	高知女子商業学校設置
	昭和21年 4月	高知女子商業学校を橘高等女学校と改称
	昭和23年 3月	新教育制度により城東高等学校、城東中学校設置
	昭和26年 3月	財団法人城東高等学校を学校法人城東高等学校に組織変更
	昭和27年 4月	学校法人城東高等学校を学校法人城東学園に組織変更、城東学園附属幼稚園設置
	昭和31年 5月	学校法人城東学園を学校法人高知学園に組織変更、城東高等学校を高知高等学校（普通科、商業科）に、城東中学校を高知中学校に、城東学園附属幼稚園を高知学園附属幼稚園に改称
	昭和31年12月	高知小学校設置認可
	昭和32年 3月	高知市北新町より高知市北端町100番地に移転
	昭和32年 4月	高知小学校設置
	昭和34年 9月	高知学園附属幼稚園園舎を高知市北新町2の122に移転
	昭和35年 1月	高知学園高知工業高等学校設置
	昭和37年 1月	高知学園高知工業高等専門学校設置
	昭和38年 3月	高知高等学校の商業科廃止 高知学園高知工業高等専門学校廃止（国立高知工業高等専門学校に移管のため）
	昭和39年 3月	高知学園高知工業高等学校廃止
	昭和42年 1月	高知市旭天神町字陣ヶ森292の26に高知学園短期大学設置認可（食物栄養科）
	昭和42年 3月	高知学園短期大学食物栄養科を栄養士養成課程として指定
	昭和43年 2月	高知学園短期大学に衛生技術科設置認可、高知リハビリテーション学院設置認可（各種学校 修業年限3年）
昭和43年 3月	高知学園短期大学食物栄養科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（中学校教諭二級普通免許（保健・家庭）） 高知リハビリテーション学院を理学療法士及び作業療法士法第11条第1号の規定による理学療法士養成施設として指定	
昭和43年 4月	高知学園短期大学衛生技術科を衛生検査技師養成学校として指定	
昭和44年 2月	高知学園短期大学に幼児教育科設置認可、高知学園短期大学幼児教育科を保育士養成学校として指定、高知学園短期大学幼児教育科を幼稚園教諭二級普通免許を得させるための課程として認定 高知学園附属幼稚園を高知幼稚園と改称、園舎を高知市北新町より高知市北端町100番地に移転	
昭和45年 1月	高知学園短期大学に保健科設置認可	
昭和45年 2月	高知学園短期大学保健科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（中学校教諭二級普通免許（保健）、養護教諭二級普通免許）	
昭和45年 4月		
昭和46年 4月	高知学園短期大学衛生技術科を臨床検査技師学校養成所指定規則第2条の規定に基づき臨床検査技師養成学校として指定	
昭和50年 3月	高知リハビリテーション学院の修業年限3年を4年に変更承認	
昭和53年12月	高知学園短期大学に専攻科設置（幼児教育専攻科修業年限1年）	

法人の 沿革	昭和55年12月	高知リハビリテーション学院を各種学校から専修学校として認可
	昭和62年12月	高知学園短期大学保健科に保健専攻、歯科衛生専攻設置
	昭和63年1月	高知学園短期大学保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（中学校教諭二種普通免許（保健）、養護教諭二種普通免許）
	昭和63年3月	高知学園短期大学保健科歯科衛生専攻を歯科衛生士学校養成所指定規則第3条第1項の規定に基づき歯科衛生士学校として指定
	平成2年3月	高知学園短期大学食物栄養科、幼児教育科及び保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の正規の課程として認定（食物栄養科・中学校教諭二種免許状（家庭）、幼児教育科・幼稚園教諭二種免許状、保健科保健専攻・中学校教諭二種免許状（保健）、養護教諭二種免許状）
	平成5年4月	高知リハビリテーション学院に作業療法学科設置（理学療法士及び作業療法士法第12条第1号の規定による作業療法士養成施設として指定）
	平成7年4月	高知幼稚園を高知学園短期大学附属高知幼稚園と改称
	平成9年4月	高知リハビリテーション学院に言語療法学科設置
	平成10年10月	高知リハビリテーション学院校舎を土佐市高岡町乙1139-3に移転
	平成11年4月	高知リハビリテーション学院言語療法学科を言語聴覚士法第33条第1号及び附則第2条の規定による言語聴覚士養成所として指定
	平成12年2月	高知学園短期大学幼児教育科及び保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を習得させるための大学の正規の課程として認定（幼児教育科・幼稚園教諭二種免許状、保健科保健専攻・中学校教諭二種免許状（保健）、養護教諭二種免許状）
	平成13年3月	高知学園短期大学専攻科（幼児教育専攻）廃止
	平成13年4月	高知学園短期大学専攻科（応用生命科学専攻）設置
	平成17年4月	高知学園短期大学食物栄養科を生活科学学科に、幼児教育科を幼児保育学科に科名変更
	平成17年12月	高知リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科・言語療法学科の修了者に対し「高度専門士」の称号を付与することができる学校として指定
	平成18年3月	高知学園短期大学保健科保健専攻廃止
	平成18年4月	高知学園短期大学に医療衛生学科設置
	平成19年10月	高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻、歯科衛生専攻を臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律第15条第1号、歯科衛生士法第12条第1号に定める学校として指定
	平成19年12月	高知学園短期大学看護学科を保健師助産師看護師法第21条第1項に定める学校として指定
	平成19年12月	高知学園短期大学看護学科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（養護教諭二種免許状）
	平成20年3月	高知学園短期大学衛生技術科及び保健科歯科衛生専攻廃止
	平成20年4月	高知学園短期大学看護学科設置
	平成22年8月	高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻を保健師助産師看護師法第19条第1号に定める学校として指定
	平成23年2月	高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（養護教諭一種免許状）
	平成23年4月	高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻設置
	平成26年11月	高知学園短期大学附属認可外保育所設置
	平成29年2月	高知リハビリテーション学院を職業実践専門課程として認定
平成30年10月	高知リハビリテーション専門職大学設置認可	
平成31年1月	高知学園短期大学生活科学学科、幼児保育学科及び看護学科を教員の免許状授与の所要資格を得させるための学科等の課程として認定（栄養教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状、養護教諭二種免許状）	
平成31年4月	高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻を教員の免許状授与の所要資格を得させるための専攻科の課程として認定（養護教諭一種免許状）	
平成31年4月	高知リハビリテーション専門職大学設置	
令和元年11月	高知学園大学設置認可	
令和2年4月	高知学園大学設置 高知学園短期大学医療衛生学科歯科衛生専攻を歯科衛生学科に科名変更	
令和4年3月	高知学園短期大学生活科学学科廃止	
令和5年3月	高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻及び専攻科応用生命科学専攻廃止 高知リハビリテーション学院廃止	

学校法人高知学園の沿革



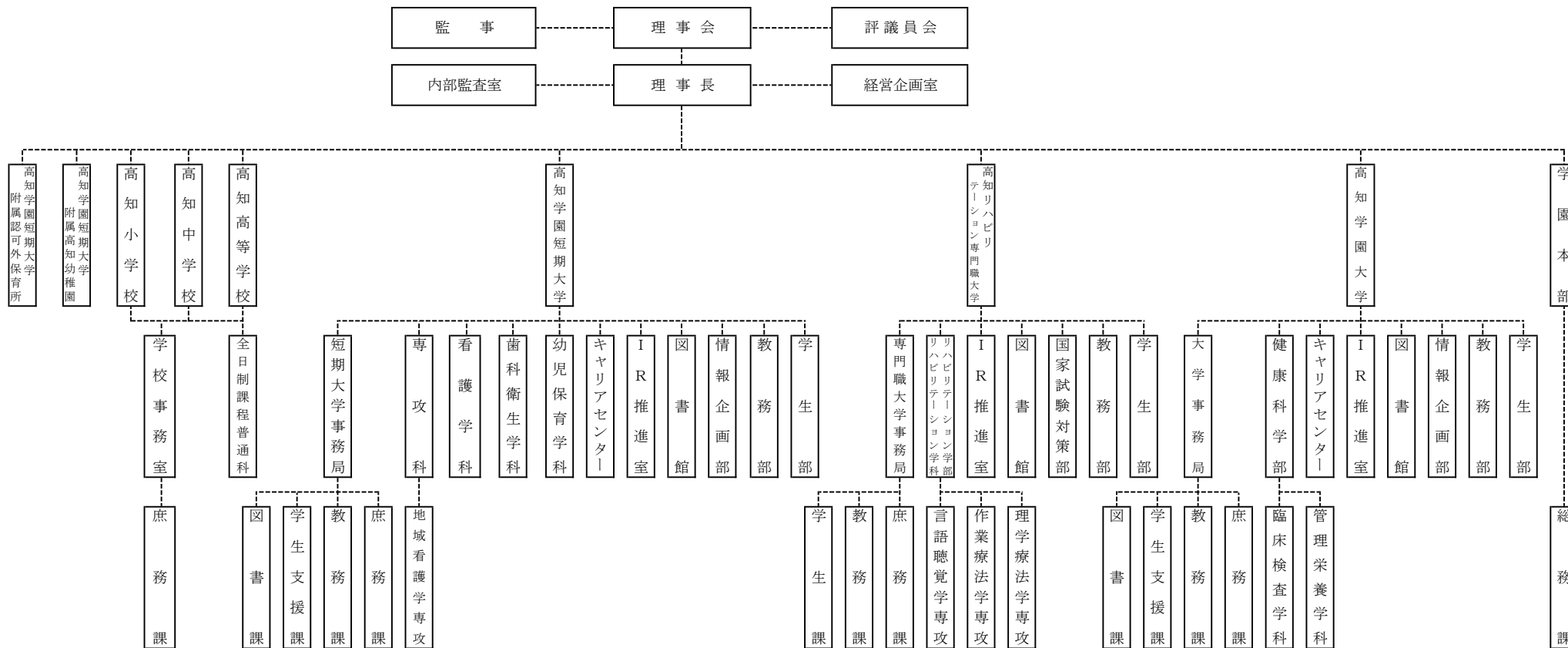
[3] 設置する学校等の状況

高知学園設置学校等

令和 5年 5月1日現在

学 校 名 等	理 事 長 ・ 所 属 長		電 話
学 校 法 人 高 知 学 園 高 知 学 園 本 部 高知市旭天神町292-26	理 事 長 本 部 長	高 瀬 久 志 福 田 道 則	代 840-1167
高 知 学 園 大 学 高知市旭天神町292-26	学 長	小 島 一 久	代 840-1121
高 知 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 専 門 職 大 学 土佐市高岡町乙1139-3	学 長	宮 川 哲 夫	代 850-2311
高 知 学 園 短 期 大 学 高知市旭天神町292-26	学 長	小 島 一 久	代 840-1121
高 知 高 等 学 校 高知市北端町100	校 長	永 野 隆 史	代 840-1111
高 知 中 学 校 高知市北端町100	校 長	永 野 隆 史	代 840-1111
高 知 小 学 校 高知市北端町100	校 長	山 岡 大 二	代 840-1111 直 844-4331
高 知 学 園 短 期 大 学 附 属 高 知 幼 稚 園 高知市北端町100	園 長	鈴 木 省 一	代 840-1121 直 840-5005

高知学園組織



高知学園配置図

- 高知学園本部
- 高知学園大学
- 高知学園短期大学

【所在地】高知市旭天神町292-26

- 高知高等学校
- 高知中学校
- 高知小学校
- 高知学園短期大学附属高知幼稚園（認可外保育所併設）

【所在地】高知市北端町100番地

	学校名	校地		校舎	
	(所在地)	現有面積		現有面積	
校地	高知学園本部・高知学園大学・高知学園短期大学 (高知市旭天神町292-26)	50,319	m ²	17,488	m ²
	高知高等学校・高知中学校・高知小学校 (高知市北端町100番地)	87,999	m ²	23,754	m ²
校舎	高知学園短期大学附属高知幼稚園 (高知市北端町100番地)	1,837	m ²	777	m ²
	合計	140,155	m ²	42,019	m ²



● 高知リハビリテーション専門職大学

【所在地】 土佐市高岡町乙1139-3

校地	学校名	校地		校舎	
	(所在地)	現有面積 (借用)		現有面積	
	高知リハビリテーション専門職大学	26,354	m ²	9,596	m ²
校舎	(土佐市高岡町乙1139-3)				
	合計	26,354	m ²	9,596	m ²



[4] 設置する学校等の学生生徒等数の状況

(令和5年5月1日現在)

フリガナ 学 校 名 (所在地)	学部・学科等名	開 設 年 度	入 学 定 員	入 学 者 数	収 容 定 員	現 員	性別	
							男	女
コウチガクエンダガク 高知学園大学 (高知市旭天神町292-26)	健康科学部	R 2	130	93	520	372	91	281
	管理栄養学科	R 2	70	49	280	191	33	158
	臨床検査学科	R 2	60	44	240	181	58	123
	計		130	93	520	372	91	281
コウチリハビリテーションセンショクタガク 高知リハビリテーショ ン専門職大学 (土佐市高岡町乙1139-3)	リハビリテーション学部	H 31	150	110	600	452	235	217
	リハビリテーション学科	H 31	150	110	600	452	235	217
	理学療法学専攻	H 31	70	70	280	271	175	96
	作業療法学専攻	H 31	40	20	160	93	37	56
	言語聴覚学専攻	H 31	40	20	160	88	23	65
計		150	110	600	452	235	217	
コウチガクエンタキダガク 高知学園短期大学 (高知市旭天神町292-26)	幼児保育学科	S 44	80	77	160	137	6	131
	歯科衛生学科	R 2	40	16	120	83	0	83
	看護学科	H 20	60	63	180	198	26	172
	高知学園短期大学計		180	156	460	418	32	386
	専攻科 地域看護学専攻	H 23	20	22	20	23	1	22
コウチコウトウカク 高知高等学校 (高知市北端町100)	全日制課程	S 23	420	213	1,260	628	414	214
コウチチュウカク 高知中学校 (高知市北端町100)		S 23	330	128	990	351	216	135
コウチショウカク 高知小学校 (高知市北端町100)		S 32	80	70	480	346	164	182
コウチガクエンタキダガク クワダクコウチヨウチエン 高知学園短期大学附属 高知幼稚園 (高知市北端町100)		S 27	40	11	120	83	38	45
コウチガクエンタキダガク クワダクケンカク 外イキョ 高知学園短期大学附属 認可外保育所 (高知市北端町100)		H 26	15	7	15	9	6	3
合 計			1,365	810	4,465	2,682	1,197	1,485

学費

2023年度（令和5年度）学費一覧

■大学

(単位：円)

	学 年	入学金	授業料	実験実習費		図書費	合計
健康科学部 管理栄養学科	1	220,000	830,000	140,000	-	30,000	1,220,000
	2~4	-	830,000	140,000	-	30,000	1,000,000
健康科学部 臨床検査学科	1	220,000	900,000	350,000	-	50,000	1,520,000
	2~4	-	900,000	350,000	-	50,000	1,300,000

■専門職大学

(単位：円)

	学 年	入学金	授業料	実験実習費	拡充費	図書費	合計
リハビリテーション学 部 リハビリ テーション学科	1	290,000	590,000	330,000	310,000	30,000	1,550,000
	2~4	-	590,000	330,000	310,000	30,000	1,260,000

■短期大学

(単位：円)

	学 年	入学金	授業料	実験実習費		図書費	合計
幼児保育学科	1	200,000	770,000	110,000	-	30,000	1,110,000
	2	-	770,000	110,000	-	30,000	910,000
歯科衛生学科	1	200,000	770,000	130,000	-	30,000	1,130,000
	2~3	-	770,000	130,000	-	30,000	930,000
看護学科	1	200,000	770,000	180,000	-	30,000	1,180,000
	2~3	-	770,000	180,000	-	30,000	980,000
専攻科 地域看護学専攻	1	50,000	770,000	180,000	-	30,000	1,030,000

■高等学校以下

(単位：円)

	学 年	入学金	授業料	-	-	-	合計
高知中学・高等学校	1	160,000	456,000	-	-	-	616,000
	(月額)		(38,000)				(38,000)
	2~3	-	456,000	-	-	-	456,000
	(月額)		(38,000)				(38,000)
高知小学校	1	60,000	336,000	-	-	-	396,000
	2~6	-	336,000	-	-	-	336,000
	(月額)		(28,000)				(28,000)

(単位：円)

	学 年	入学金	授業料	教材費	協力費	施設設備費（入学一時金）	合計
高知学園短期大学附属 高知幼稚園	5歳児以外	40,000	312,000	12,000	12,000	10,000	386,000
	5歳児	40,000	312,000	12,000	12,000	5,000	381,000
	(月額)		(26,000)	(1,000)	(1,000)		(28,000)

(単位：円)

	学 年	入学金	授業料	教材費	協力費	施設設備費（入学一時金）	合計
高知学園短期大学附属 認可外保育所	2歳児	40,000	312,000	12,000	12,000	10,000	386,000
	(月額)		(26,000)	(1,000)	(1,000)		(28,000)

[5] 役員・評議員の概要

(1) 歴代理事長

(令和2年8月現在)

氏名	在任期間
橋田早苗	大正10年 12月 ~
山本忠秀	~ 昭和11年 10月
中島和三	昭和11年 10月 ~ " 18年 5月
川島正件	" 18年 6月 ~ " 23年 11月
坂本重寿	" 23年 12月 ~ " 38年 4月
(代)井上重陽	" 38年 5月 ~ " 40年 2月
藤田三郎	" 40年 3月 ~ " 46年 1月
川島源司	" 46年 1月 ~ " 51年 3月
藤本孟	" 51年 4月 ~ " 55年 7月
岡林濯水	" 55年 7月 ~ " 62年 4月
汲田精一	" 62年 4月 ~ 平成元年 5月
竹内明義	平成元年 6月 ~ " 10年 8月
西野恭正	" 10年 8月 ~ " 16年 4月
(代)下山晃	" 16年 4月 ~ " 16年 8月
成田十次郎	" 16年 8月 ~ " 20年 8月
小笠原俊明	" 20年 8月 ~ " 26年 8月
吉良正人	" 26年 8月 ~ 令和2年 8月
高瀬久志	令和2年 8月 ~ 至現在

注(代)は、理事長代理

(2) 歴代学園長

氏名	在任期間
川島源司	昭和37年 4月 ~ 昭和46年 3月
高石次郎	" 46年 4月 ~ " 49年 3月
山崎重明	" 49年 4月 ~ " 51年 3月

昭和51年4月 学園長の職制廃止

(3) 役員・評議員の氏名等

① 役員

(令和5年5月30日現在)

理事	定数	10人	任期	2年※	選任条項別定数実数		(注) 選任区分の各号は寄附行為第6条第1項の各号
	(※1号理事及び2号理事を除く)				区分	定数	
実数	常勤	5人	非常勤	5人	号	人	人
	計	10人			1	2	2
	うち	5人	外部理事		2	1	1
					3	3	3
監事	定数	2人	任期	2年	4	4	4
実数	常勤	0人	非常勤	2人			
	計	2人					
	うち	2人	外部監事				

理事・監事の 区別	職名又は 担当職務	代表権の 範囲	氏名	常勤・非常勤 の別	就任年月日 (重任年月日)	選任区分等	
						項又は は号	選任区分
理事	理事長	法人の全ての業務	高瀬 久志	常勤	R2.8.31 (R4.8.31)	3号	評議員 (理事会選任)
〃	—	—	小島 一久	〃	R5.4.1	1号	学校長の互選
〃	—	—	宮川 哲夫	〃	R4.4.1	1号	〃
〃	—	—	永野 隆史	〃	R3.4.1	1号	〃
〃	—	—	福田 道則	〃	R3.8.31	2号	学園本部長
〃	—	—	田中 正澄	非常勤	H28.8.31 (R4.8.31)	3号	評議員 (理事会選任)
〃	—	—	岩井 俊二	〃	R3.4.1 (R4.8.31)	3号	〃
〃	—	—	岡崎 千佐子	〃	R4.12.7	4号	学識経験者 (理事会選任)
〃	—	—	竹内 康雄	〃	H18.8.31 (R4.8.31)	4号	〃
〃	—	—	前田 好正	〃	R元.11.15 (R4.8.31)	4号	〃
監事	監事		行田 博文	非常勤	H18.8.31 (R4.8.31)	—	—
〃	〃		濱田 順久	〃	R2.8.31 (R4.8.31)	—	—

(備考) 1 責任限定契約の締結状況：非常勤の役員全員と締結済

2 役員賠償責任保険契約の状況：役員との間で損害賠償責任に関する保険契約を締結済

② 評 議 員

定数 実数 任期	21 人 21 人 2 年	(注) 選任区分の各号 は寄附行為第24条第1 項の各号	選 任 条 項 別 定 数 実 数		
			区分	定数	実数
			号	人	人
			1	3	3
			2	6	6
			3	5	5
			4	3	3
			5	4	4
氏 名	就 任		選 任 区 分 等		
	就任年月日	重任年月日	項又は号	選任区分	
永野 隆史	R3. 5. 28	R4. 8. 31	1号	法人職員 (理事会選任)	
山岡 大二	R5. 5. 30	—	1号	〃	
鈴木 省一	R5. 5. 30	—	1号	〃	
高瀬 久志	R2. 8. 31	R4. 8. 31	2号	法人設置学校卒業者 (理事会選任)	
岩井 俊二	R3. 4. 1	R4. 8. 31	2号	〃	
大倉 三洋	R2. 8. 31	R4. 8. 31	2号	〃	
野々村 雅代	H22. 8. 31	R4. 8. 31	2号	〃	
西森 美恵	H28. 8. 31	R4. 8. 31	2号	〃	
北川 眞智子	H26. 8. 31	R4. 8. 31	2号	〃	
岡崎 千佐子	R4. 12. 7	—	3号	理事の互選	
前田 好正	R元. 11. 15	R4. 8. 31	3号	〃	
小島 一久	R5. 5. 30	—	3号	〃	
宮川 哲夫	R4. 5. 30	R4. 8. 31	3号	〃	
福田 道則	R3. 8. 31	R4. 8. 31	3号	〃	
三好 宏幸	R5. 5. 30	—	4号	在学生の父母若しくは 保護者 (理事会選任)	
堀尾 勇次	R5. 5. 30	—	4号	〃	
武田 倫和	R4. 5. 30	R4. 8. 31	4号	〃	
竹内 康雄	H18. 8. 31	R4. 8. 31	5号	学識経験者 (理事会選任)	
田中 正澄	H28. 8. 31	R4. 8. 31	5号	〃	
秋山 保之	H26. 8. 31	R4. 8. 31	5号	〃	
山地 好市	H23. 6. 2	R4. 8. 31	5号	〃	

(4) 理事会・評議員会の開催状況

理事会

回	年月日	議案
第1回	令和5年5月30日 (火) (午前10時～午後12時)	第1号議案 評議員の選任 第2号議案 高知リハビリテーション専門職大学名誉教授規程の制定 第3号議案 高知リハビリテーション専門職大学名誉教授の承認 第4号議案 令和4年度事業報告 第5号議案 令和4年度学校法人高知学園決算報告事項 令和4年度資金の管理運用状況
第2回	令和5年8月23日 (水) (午後2時～午後2時15分)	第1号議案 (該当議案なし) 第2号議案 公益通報に関する規程の一部改正 第3号議案 ハラスメントの防止等に関する規程の一部改正
第3回	令和5年12月7日 (木) (午後4時10分～午後4時20分)	第1号議案 (評議員会議案により省略) 第2号議案 高知学園大学学則の一部改正 第3号議案 高知学園短期大学学則の一部改正 第4号議案 役員及び評議員の報酬等規程の一部改正 第5号議案 理事長候補者の選考会議委員の指名 報告事項 令和5年度高知県人事委員会勧告
第4回	令和6年2月5日 (月) (午後5時25分～午後5時50分)	第1号議案 (評議員会議案により省略) 第2号議案 令和5年度第1回補正予算 第3号議案 高知リハビリテーション専門職大学学則の一部改正 第4号議案 給与規程の一部改正 第5号議案 継続雇用に関する規程の一部改正 報告事項 中学高等学校からの報告
第5回	令和6年3月14日 (木) (午後6時33分～午後6時42分)	第1号議案 高知学園大学学長選考会議委員の選出 第2号議案 高知学園短期大学学長選考会議委員の選出 第3号議案 高知学園大学学長候補者の推薦 第4号議案 高知学園短期大学学長候補者の推薦
第6回	令和6年3月19日 (火) (午後2時50分～午後3時13分)	第1号議案 令和5年度第2回補正予算 第2号議案 令和6年度事業計画 第3号議案 令和6年度収支予算 第4号議案 補正予算の専決処分 第5号議案 高知学園大学学則の一部改正 第6号議案 高知学園短期大学学則の一部改正 第7号議案 高知リハビリテーション専門職大学学則の一部改正

		第 8 号議案 第 9 号議案 第 10 号議案 第 11 号議案 第 12 号議案 第 13 号議案 報告事項 1 報告事項 2	高知中学校・高等学校学則の一部改正 入学金及び授業料減免規程の一部改正 内部監査規程の制定 給与規程の一部改正 役員賠償責任保険契約の締結 高知学園大学学長及び高知学園短期大学学長の任命報告 高知小学校からの報告 令和 6 年度資金の管理運用計画
--	--	--	--

評議員会

回	年月日	議案	
第 1 回	令和 5 年 5 月 30 日 (火) (午後 12 時 5 分～午後 12 時 40 分)	第 1 号議案 第 2 号議案 第 3 号議案 第 4 号議案 第 5 号議案 報告事項 1 報告事項 2	(理事会議案につき省略) (理事会議案につき省略) (理事会議案につき省略) 令和 4 年度事業報告 令和 4 年度学校法人高知学園決算 寮会計の会計報告 高知学園大学教員との調停
第 2 回	令和 5 年 8 月 23 日 (水) (午後 2 時 55 分～午後 4 時 20 分)	報告事項 1 報告事項 2 報告事項 3 報告事項 4	財務の概要 令和 6 年度からの小学校土曜日授業の見直しに関する試行的実施 学生寮の有効活用に関する検討状況 令和 5 年度学校法人基本方針の進捗状況
第 3 回	令和 5 年 12 月 7 日 (木) (午後 2 時～午後 4 時 5 分)	第 1 号議案 第 2 号議案 第 3 号議案 第 4 号議案 報告事項	令和 5 年度事業計画等に関する中間報告 高知学園大学学則の一部改正 高知学園短期大学学則の一部改正 役員及び評議員の報酬等規程の一部改正 ガバナンス・内部統制の充実
第 4 回	令和 6 年 2 月 5 日 (月) (午後 2 時～午後 5 時 20 分)	第 1 号議案 第 2 号議案 第 3 号議案 協議事項 1 協議事項 2	令和 6 年度事業計画 令和 5 年度第 1 回補正予算 高知リハビリテーション専門職大学学則の一部改正 給与制度改革に向けて 内部監査規程の制定について
第 5 回	令和 6 年 3 月 14 日 (木) (午後 6 時～午後 6 時 27 分)	第 1 号議案 第 2 号議案	高知学園大学学長選考会議委員の選出 高知学園短期大学学長選考会議委員の選出

第6回	令和6年3月19日 (火) (午後2時～午後2時40分)	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案 第6号議案 第7号議案 第8号議案 第9号議案 第10号議案 第11号議案	令和5年度第2回補正予算 (理事会議案につき省略) 令和6年度収支予算 補正予算の専決処分 高知学園大学学則の一部改正 高知学園短期大学学則の一部改正 高知リハビリテーション専門職大学学則の一部改正 高知中学校・高等学校学則の一部改正 入学金及び授業料減免規程の一部改正 内部監査規程の制定 高知学園大学学長及び高知学園短期大学学長の任命報告
-----	------------------------------------	---	---

[6] 教職員の概要

令和5年5月1日現在

学校名	教 員		職 員		合 計
	専 任	兼 任	専 任	兼 任	
学 園 本 部	0	0	5	2	7
高 知 学 園 大 学	46	55	7	7	115
高知リハビリテーション専門職大学	33	91	13	14	151
高知学園短期大学	41	58	9	0	108
高 知 高 等 学 校	37	14	4	11	66
高 知 中 学 校	25	7	2	1	35
高 知 小 学 校	17	16	1	5	39
高知学園短期大学 附属高知幼稚園	5	8	0	4	17
高知学園短期大学 附属認可外保育所	0	1	0	0	1
合 計	204	250	41	44	539

[7] その他

(1) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）の進捗状況

近年の少子高齢化をはじめとする学校を取り巻く環境がますます厳しくなっている状況を踏まえ、今後、幼稚園から大学までを擁する充実した総合学園として更なる発展を目指すため、令和2年度から5ヵ年の財務計画を令和2年3月に策定した。

教育の充実とともに経営基盤の安定化を図るため、本計画は毎年の事業の実績報告等を基に進捗状況を確認のうえ適宜見直すこととしており、令和5年度決算額の確定を踏まえた計画の見直しを行うとともに、次期5ヵ年計画（令和7年度～令和11年度）の策定に向けて取り組む予定である。

Ⅱ 設置学校の事業報告

令和5年度 事業報告書 (高知学園短期大学附属高知幼稚園)

1. 現状と課題

(1) 入園児の確保

① 現状

区分	定員数	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		5月1日 園児数	年度末 園児数	5月1日 園児数	年度末 園児数	5月1日 園児数	年度末 園児数
満2組		6	6	6	7	9	5
満3組		1	14	1	14	2	16
年少組		41	40	18	19	20	20
年中組		32	33	40	38	22	21
年長組		35	35	34	35	39	39
合計	満3歳組以上の 定員数120名	115	128	99	113	92	101

② 課題

令和4年度、令和5年度ともに年少組の園児数がそれぞれ19名、20名と大幅に減少した。新型コロナウイルスの影響が考えられるが、今後募集活動を強化し、入園児の確保に努める必要がある。また、教育内容をさらに充実させ、保護者から選んでもらえる幼稚園になるよう努めていく必要がある。

(2) 出口状況(高知小学校への進学率)

① 現状

区分	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	卒園児数	高知小進学者数	進学率	卒園児数	高知小進学者数	進学率	卒園児数	高知小進学者数	進学率
年長組	35名	17名	49%	35名	19名	54%	39名	13名	33%

高知小学校への進学率は、令和3年度、令和4年度は約50%前後まで上昇してきたが、今年度は33%であった。(なお、令和5年度の卒園生の中に、高知小学校への入学を希望していたが、転勤のため入学できなかった園児が4名いたことも進学率が低下したことに繋がっている。)

② 課題

高知幼稚園の園児には、高知小学校への入学を希望して入園してきている園児、高知小学校か地元の小学校か未決定の園児、明確に地元の小学校に入学を決めている園児の大きく3つに分けられる。そうした園児たちに高知小学校への入学を勧めるために、幼少連携の活動を強化し、高知小学校の魅力を感じてもらえる機会を作ることが必要である。さらに、園児の保護者に対し、高知小学校の情報を今まで以上に発信することも必要である。

(3) 教育研究計画

① 現状

- ・「のびのび」が育つ幼稚園として、自ら気づき、考え、判断して行動することのできる「生きる力」の基礎を養い、心身ともに健康でたくましい子どもを育てる。
- ・教職員の資質向上(研究授業の実施・各種研修会、講演会への参加)を図り、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を常に意識して教育にあたる。
- ・防災教育の充実(月1回の園児の避難訓練の実施)。
- ・総合学園を生かした幼児教育の実施。

② 課題

- ・総合学園という強みを生かした短大や小学校、中高、学園大学、リハビリテーション専門職大学との連携の強化。

2. 令和5年度の取組

(1) 園児募集に関する取組

① 園庭開放と体験入園説明会

- ・毎週水曜日の園庭開放「あそびにおいでよ」を充実させ、保育室も開放して様子を見てもらい、また来園者を入園に繋げるため、事後連絡を密にした。また、園児の兄弟姉妹への園庭開放参加を呼びかけた。
- ・体験入園説明会(年4回)の充実による幼稚園の特色のアピールを行った。未就園児と教員が一緒に遊ぶ場を設定し、園児と同じような体験をすることで、幼稚園への期待感を高める取り組みを行った。

② 広報活動

- ・HPの更新、ブログの継続更新により、幼稚園から積極的な情報発信を行った。
- ・ポスティングによる園のチラシ配布を継続して行った。
- ・RKC子育て応援団に協賛し、キャンペーンCMを流し、また、すこやかWinter(中央公園)に参加し、2日間ブースを設け幼稚園の情報を対面で発信した。
- ・秋の運動会へ未就園児の参加を積極的に働きかけた。
- ・第64回中・四国保育学生研究大会(高知大会)において、『「高知幼稚園児と「よさこい鳴子踊り」を踊ろう」のコーナーに参加し、高知幼稚園の踊りを披露した。

③ その他

- ・保護者のニーズに対応した課外活動(学研教室、NSPスイミング教室など)を研究し、導入を検討した。

(2) 教育研究計画

- ① 危機管理の情報共有と対応の強化。
- ② 公開保育実施による教職員の資質向上。
- ③ 年間一人1回の校内研究授業を実施し、園外の研修会等にも参加した。

(3) その他の計画

- ① 園だよりや学級通信による保護者への園の情報発信の強化。
- ② 高知小学校との幼少連携を実施。
- ③ 高校・短大・リハビリテーション専門職大学の実習等の受け入れを行った。

3. 令和5年度の取組結果

(1) 園児募集

- ・令和6年5月1日現在園児数

満2組	満3組	年少組	年中組	年長組	合計
6	1	25	21	21	74

令和5年度は卒園生が39名であったため園児数が減少した。ただ年少組が25名と増加傾向にあり、また年度末までに例年10名前後入園してくる。

- ・園庭開放参加者で10名、体験入園説明会参加者で17名(重複有)が入園した。
- ・課外活動として、毎週水曜日の降園後、「学研高知幼稚園教室」が開設されることになった。

(2) 教育研究計画

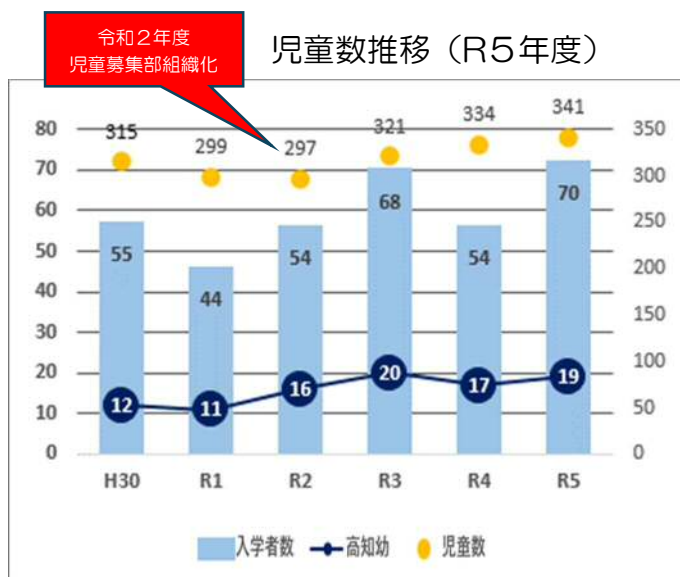
- ・私立幼稚園連合会のECEQ(公開保育を活用した幼児教育の質向上システム)に参加し、高知幼稚園を会場に公開保育を実施した。公開保育にあたり、事前研修3回、事後研修1回のECEQコーディネーターの指導による研修を行い、教職員の資質向上を図った。
- ・私立幼稚園連合会の夏季研修会(3日間)、四国研修会(2日間・香川)に参加した。

(3) その他の計画

- ・高知小学校との幼少連携として、年長組が学校探検で小学校を訪問して1年生に案内してもらったり、2年生と一緒にサツマイモのつるを植えたりして交流し、園児が高知小学校に親しみを持つようにした。また、年長組の参観日に、高知小学校校長より保護者対象に講話をお願いし、高知小学校の魅力を伝えてもらった。
- ・高知高校生による夏休みのボランティア活動を受け入れ実施した。
- ・高知学園短期大学 幼児保育学科の「教育実習」、「教職実践演習」、歯科衛生学科の「歯磨き指導実習」、「健康教育演習」、看護学科の「小児看護実習」を受け入れ実施した。
- ・高知リハビリテーション専門職大学 言語聴覚学専攻の「言語聴覚療法地域支援実習」を受け入れ実施した。

1. 現状と課題

(1) 入学生(入口)の確保現状と経営適正規模



R2年度の児童募集部組織化以来、入学児童数はある程度安定的な数を確保できており、R5年度には70名(35名×2学級)の入学生を確保した。また同時に児童総数もここ数年は上昇傾向にある。

しかし、1学級35名という規模は、学校施設面や指導の困難性から適切ではないと考える。理想的には1学年60名の編制で全校360名規模が適正であると考え、その実現に向け努力する必要がある。中でも高知幼稚園からの入学者数を伸ばすことが肝要である。園児数が減少する中でいかに高知小への進学者を増やしていくのか、幼小連携の共通課題として取り組む必要がある。

(2) 出口の状況

R5年度の高知中学校への進学率は、ここ数年で一番高く29%であった。当初から進学希望していた者、学力状況から希望校を変更した者など様々であるが、昨今の高知中高のSNSをみて気持ちが動いた者もいるようである。

現状においては、本校に入学当初から他の私立中学校を目標に掲げている家庭が多く、その実現を保障していく

とも致し方ないと考えている。

このような中で、幼小中高・リハ専・短大・大学と繋がる総合学園としての魅力をいかに伝えていくかが大切になる。中学校との連携だけでなく、学園全体との連携を進めることや情報を積極的に提供していくことも必要であると考えます。

高知中学校への進学率の推移

	R1	R2	R3	R4	R5
卒業生数	51	40	40	59	55
高知中 進学者数	14	8	8	15	16
高知中 進学率	27%	20%	20%	24%	29%

(3) 教育内容の特色化・魅力化推進

- ①英語教育の充実と魅力化：本校は1年生から週2時間の英語指導を行っている。このことは公立学校ではないことで、本校教育の一番の特色である。R5年度は、ICT機器の有効活用により、さらに中身が充実した。また、学んだ英語力をアウトプットする機会として台湾慈濟大学附属高級中学小学部との交流の道筋ができた。
- ②書く力を育てる指導の推進：近年、「高知小児童の作文力はすごい。」という評価をよくいただく。これは長年日記指導や短作文指導に地道に取り組んできた成果である。この成果を、R6年度9月に「小砂丘賞作文教育研究会」の発表校として披露する予定である。
- ③専科指導の充実：英語はもちろん、図工・音楽・書写という専門性が問われる教科指導を低学年から専科教員が担っている。このことにより多数のコンクール等への出品が可能となり、また学級担任の負担軽減にも効果があり、一つ一つの授業の質向上につながっている。オープンスクールや見学会では専科授業を必ず紹介し公立学校との差別化を図っている。

(4)安心・安全な学校づくりの推進

①R5年度の「いじめ」認知件数：7件

⇒早期発見・早期対応を行うため、日頃からどのような指導や取組が必要なのか、学校としての共通理解が不足していたとの反省に立ち、教員研修の充実とマニュアル作成に取り組んだ。今後もいじめ未然防止のための継続的な取組・研修が必要であると考えている。

②R5年度の不登校(傾向)児童数：長期欠席(30日以上)10名、内特に不登校が心配される児童3名

⇒集団の中で、良好な人間関係を構築することが苦手な児童が、徐々に学校や教室に来にくくなっている。公立学校では、様々な人的・物的環境を整えることで対応・支援を行うことが可能だが、本校においては、どうしても限界があり対応に苦慮している。子どもや保護者自身に「見捨てられ感」を抱かせないよう、寄り添う気持ちをもって粘り強く関わることを大切だと考えている。

(5)施設設備の更新

○雨漏り防止のための屋上防水工事・外壁修復塗装工事

⇒雨漏りを防ぐことが主目的ではあるが、外壁の劣化による爆裂等でブロックの落下の心配がある。幸い、R6年度予算にて工事の見通しが立った。

○大災害時の学校保管備蓄品の充実及び保管場所の確保

⇒R6年元旦の能登半島地震、4月の宿毛市での震度6弱の地震などにより、保護者野中では南海トラフ地震対策への意識がさらに高まっている。そうした中、学校管理下で大災害が発生したときの備蓄品が、現在は大変不十分である。早急に改善を図りたいが、本校には備蓄する場所がなく、高台である中・高施設内も適切な場所がない状態である。幼小中高共通の避難マニュアルの作成・確認とともに、共同の備蓄庫が必要だと感じている。

○学童保育(なかよし)の受け入れ体制及び将来的な施設拡張の検討

⇒希望者が増加し受け入れが困難な状況が間近となっているため対策の検討が必要である。

2. 令和5年度の実施

(1)児童募集に関する取組

①学校紹介イベント開催

- オープンスクール(6月):名参加(R4:65名)
- トライスクール(11月):62名参加(R4:67名)
- 学校見学(年6回開催):延べ25名参加
- 個別相談会(12月):7名参加

②広報活動

- 教員による幼稚・保育園へのチラシ等の配布(高知市・香南市・香美市・土佐市:計115園)
- SNSによる学校紹介:日頃の学校生活の様子等を積極的に紹介した。
- ホームページのリニューアル:よりわかりやすく、知りたい情報を得られやすくした。
- TVCMの時期を絞った活用:11月～12月の願書受付期間に集中的に実施した。
- 毎月発行の学校便り「たちばな」にて、各種コンクール・大会等での入賞実績を紹介した。
- 英語検定・漢字検定・算数検定の準会場としての実績を紹介した。

③放課後習い事教室等の充実

- 英会話教室(86名)・ピアノ教室(51名)・硬筆教室(94名)、バスケットボール(新規開設)
:外部委託(英語強化コース・学研教室・体操・水泳・ロボ団・野球・サッカー)
- 学童保育:利用者(74名登録)は、英会話教室・ピアノ教室・硬筆教室利用の場合は無料。

(2)教育研究計画

①確かな学力の定着と学力の向上に向けた取組

- 教員1人1回の研究授業の実施(国・算・理・英):年間13回
- 基礎学力の定着と学力の向上:全校漢字(年13回)・全校計算(年13回)・補習(週3日)を実施
- ICT機器の有効利用:AI型学習教材「キュービナ」を5・6年に試験的に導入、効果あり⇒R6全校導入
- 全国学力・学習状況調査(6年)の実施及び学力分析による授業改善
- 私学テスト(5・6年)の実施及び調査結果を踏まえた個別面接の実施

②豊かな人間性の育成といじめのない学校づくりに向けた取組

- いじめ防止教室(高知県少年サポートセンター):12月に全学年で実施。
- いじめ・不登校未然防止に向けた教員研修(2月):広島大学大学院教授 栗原慎二 先生 招聘
- Q-Uの活用、学校カウンセラーとの連携

3. 令和5年度の取組結果

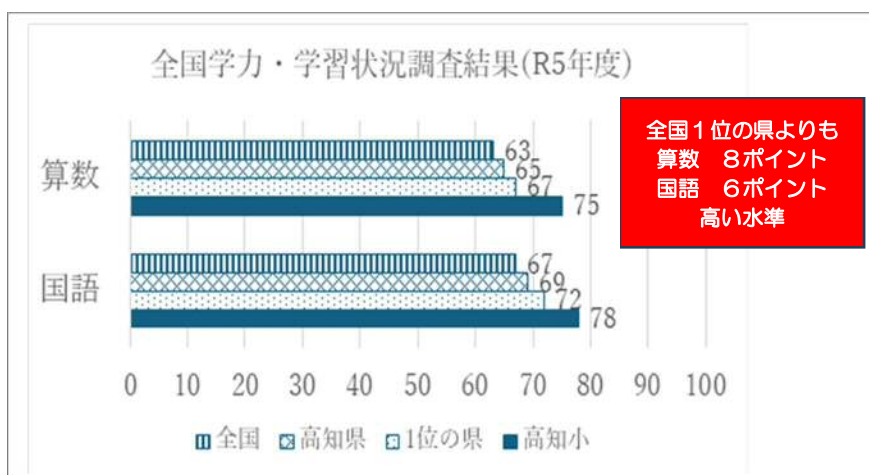
(1) 定員確保

入学年度	志願者	合格者	入学者	欠席・辞退
令和6年4月	66	60	59	欠席4・辞退1
令和5年4月	76	70	70	欠席・辞退なし
令和4年4月	54	54	54	欠席・辞退なし
令和3年4月	77	71	68	欠席2・辞退3
令和2年4月	71	64	56	欠席4・辞退7・転出1
平成31年4月	52	45	45	欠席1

※規則上の定員は80名であるが、R5年度校内で検討し、適正規模を1学年60名、全校360名と考えた。このことに基づき、辞退等を考慮し定員64名としたいと考えている。

(2) 教育研究計画

① 全国学力・学習状況調査(6年)の結果



ここ数年、高知県平均も全国で上位に位置しているが、本校は例年、左記と同様の結果を維持している。この結果は、PTA委員会や学校便りで全校に紹介し、保護者から「もっとアピールすべき。」との声も頂戴した。学校説明会等の場面で積極的に紹介してきた。

② 進学実績

高知中学校	16	明德義塾中学校	1
土佐中学校	11	土佐女子中学校	1
学芸中学校	14	県内公立中学校	4
土佐塾中学校	3	県外私立・海外	5

【令和5年度合格実績】

岡山中学校、愛光中学校、山陽学園中学校、ラサール中学校、神戸海星中学校

(3) 長期欠席(年間30日以上)児童

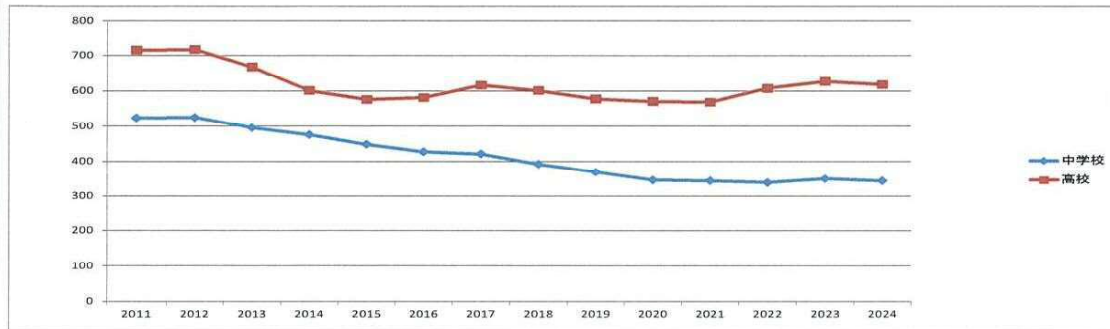
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
人数	2	1	0	2	2	3

以上の児童のうち、一週間以上連続して欠席(不登校傾向が強い)している児童は、3名である。各児童については、担任を中心に家庭と連絡を取り合い見守り、支援を行ってきた。

1 現状と課題

(1) 生徒数確保

① 生徒数の推移



中学生及び高校生の確保については、減少傾向にある中、近年は改善傾向にある。しかし、令和6年度の生徒数は令和5年度を下回った。入学者数の減少及び転・退学者の増加が要因である。(令和5年度 高校転・退学数 14人)
 少子化に伴う志願者数の減少(高校推薦 82→76、一般 148→119、中学 140→116)、中学・高校入学後の欠席生徒や学力不足の生徒への対応が課題となる。

② 高知中学校から高知高等学校への進学率の推移

年度	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
卒業生数	133	110	120	111	107
高知高進学者数	112	99	110	94	92
高知高進学率	84%	90%	92%	85%	86%

高知高校への進学率90%を目標としているが、近年は達成できていない。専門高校への進学者が存在する。中高一貫教育の魅力化を一層啓発・体感させることが課題と考える。

(2) 教員の資質・指導力の向上と授業改善

- ・時代に即した教育内容に見合う教員の資質、指導力の向上→各種の研修機会への参加
- ・生徒の論理的思考力を鍛えるためのプログラム開発→探究学習や小論文指導の充実

(3) 学習指導・進路指導の充実

- ・きめ細かな進路指導と進学の実績→国公立大学進学者 17人(前年度 9人)
- ・医療・健康系の進路に関心ある生徒の育成→法人内大学進学 29人(前年度 28人)

(4) 生徒一人一人の心をたがやす生徒指導

- ・「至誠」の精神の喚起、自主、自律の精神の涵養、規範意識等の醸成→日々の声かけ、面談週間での対面指導
- ・生徒の尊厳、個性に沿った生徒指導→生徒をひとりの人間として、また、個々の多様な価値観を尊重した指導

2 令和5年度の取組

(1) 生徒数確保

① 生徒募集に関する取組

- ・ 学習塾の訪問、学習塾との情報交換会を行った。(約 20 塾訪問)
- ・ 高知小学校保護者を対象に学校説明会を開催した。(7/24,10/23 計 23 家庭)
- ・ 高知市内及び近郊の小学校並びに中学校への学校案内・生徒募集要項等の配付を行った。
- ・ 公立中学校に出向き、高知中高の魅力を伝えた。(8校)
- ・ 6月に小中生を対象としたオープンスクールを開催した。(参加者数 91人)
- ・ 小中生を対象とした地区別学校説明会を開催した。(安芸・南国・土佐・四万十、参加者合計 19人)
- ・ 8月に高校説明会を三日間開催した。(参加者 34人)
- ・ 10月に小中生を対象とした入試説明会を本校において開催した。(参加者数 79人)
- ・ 11月に公立中学校進路指導担当者説明会を開催した。(参加申込 11校)
- ・ 2月には、Ⅱ期中学入試の説明会を開催した。(参加者数 2人)
- ・ 学校行事や生徒の様子などを学校ホームページはもとより、SNSでも配信した。(face book、 X、Instagram、YouTube、 Tik Tok)
- ・ 部活動において入試説明会時に、また、別途に体験活動を実施した。
- ・ 私学フェア(7/27、イオンモール 10:00～21:00)に参加し、学校情報や生徒募集に関する情報の発信に努めた。

(2) 教員の資質・指導力の向上と授業改善

- ・ 中高教頭2人を副校長教頭等中央研修(つくば)に派遣。(7/3～7, 10/2～6)
- ・ 全国私学教育研究集会香川大会に派遣。(11/9～10、3人)
- ・ 国公立大学進学に成果を上げている高校(福岡女子商業高校)に教員派遣。(12/11、2人、3/9～10、5人)
- ・ 進路に関する校内研修会の開催。(9/8)
- ・ 生徒理解に関する研修会の開催。(4/26、10/11)
- ・ コンプライアンスに関する校内研修会の開催。(10/4)

(3) 学習指導・進路指導の充実

- ・ 大学進学講座(放課後)、大学進学特別講座(土曜日)、小論文指導(特設)、面接指導(特設)、勉強合宿(夏期休業中)、生徒を県外大手予備校の講座に参加(河合塾大阪校 8/7～11、5人、駿台予備学校上本町校 12/24～28、3人)させるなどの取組を行った。
- ・ ICT教育の推進(高校1年生全員パソコン活用学習)

(4) 生徒一人一人の心をたがやす生徒指導

- ・ 「至誠」の精神を喚起するための至誠賞の授与、自主、自律の精神や学校生活3原則の実践、規範意識の醸成のため、教員による日ごろからの生徒への声かけ、注意喚起を行った。
- ・ 至誠プログラムに基づく礼法学習の実施
中1各学級7時間
中2各学級3時間
中3各学級3時間
- ・ Q-U(学級満足度調査)の分析と取組
- ・ 中学生のサポート室対応(午前中:職員一人が対応・自主学習・課題学習)
対象者13人
- ・ 中学時不登校傾向の高校生への対応(声かけ、居場所づくり・人間関係の構築)
- ・ 生徒指導上課題のある生徒への対応(ケース会の開催、関係機関との連携)
- ・ SC(スクールカウンセラー)との教育相談内容を記録化し、生徒・保健部長・管理職で共有

3 令和5年度の取組結果

(1) 生徒数確保

① 生徒数の推移 5/1 付け

年度	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6
高知中学校	347	345	340	351	345
高知高校	571	569	608	628	619
合計	918	914	948	979	964

② 志願者数・入学者数(入学年度)

区分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
高知中学校	119	112	123	118	140	128	116	109
高知高校	320	202	347	226	333	213	302	202
合計	439	314	470	344	473	341	418	311

(2) 教員の資質・指導力の向上と授業改善

① 教頭の中央研修会派遣2人

② 私学研究集会派遣3人

③ 先進校派遣5人

④ 各種校内研修会の開催4回以上

(3) 学習指導・進路指導の充実

① 中学特進コースの学力(全国との比較)

令和5年度 12/01 実施・東京書籍・標準学力検査・平均正答率比較

年度	国語	社会	数学	理科	英語
第1学年平均	67.1	58.0	66.3	72.6	58.8
全国平均	62.0	58.8	53.7	60.8	54.2
第2学年平均	76.1	53.5	74.6	74.2	63.9
全国平均	67.8	45.2	48.8	57.0	50.1
第3学年平均	78.7	49.6	64.9	53.5	73.6
全国平均	72.6	52.0	46.1	59.6	59.6

※第3学年は^hネット総合学力調査結果 5/2 実施

② 大学進学状況※短期大学を含む現役生。当該年度入試結果

区分	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
国公立大学	10	9	13	9	17
法人内大学	22	28	31	28	29
大学進学者	133	111	128	137	152
進学率	69.3%	60.6%	69.9%	76.5%	77.5%

(4) 生徒一人一人の心をたがやす生徒指導

① 学校評価・「思いやりの心」肯定的数値(高校92.0%、中学校95.7%)

・「楽しい学校」 肯定的数値(高校85.5%、中学校89.8%)

・「将来の目標を見つけることができる情報提供」

肯定的数値(高校86.4%、中学校86.2%)

② いじめの認知件数及び解決数値(別紙参照)

③ 中学時長期欠席者(30日以上欠席・不登校を含む。)、高校入学後の転・退学者数 令和4年度 7/13 令和5年度 2/7

令和5年度 高知中学高等学校の取組資料

1 進路講演会

近畿大学の屋木清孝先生及び高校英語「ユメタン」の著者で作家の木村達哉先生による高校生を対象とした進路講演会を開催しました。

また、保護者を対象にした進路講演会も併せて開催しました。

令和6年度も両名による講演会や特別授業を予定しています。



2 BYODによる授業の様子

(Bring Your Own Device) 私的な情報端末(デバイス)を持ち込む

高校1年生全員がパソコンを持参し、授業や諸活動において利活用することで、卒業後も高いICT活用能力を持つ生徒の育成を目指します。

年次進行で、令和6年度も新1年生のパソコンの利活用を推進します。



3 礼法の授業の様子

道徳や特別活動を通じて「至誠の育成」を目指し、取組を進めています。

学習を通して、礼節を身に付けること、日本の伝統・文化の意義や大切さを学ぶなかで、本校建学の精神「至誠を以て事にあたり人や社会に信頼される人物の育成」の具現化を図ります。



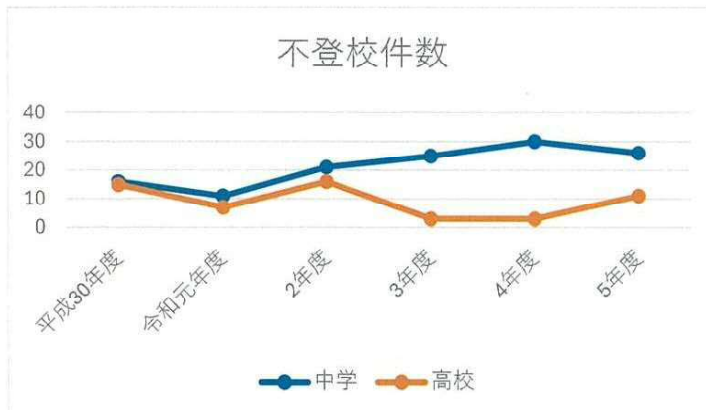
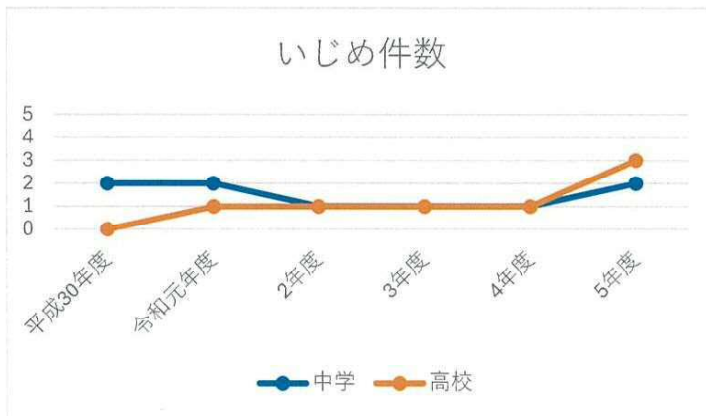
平成30年度～令和5年度 いじめ・不登校件数

□いじめ

		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	合計	6年度
中学	1年	2	1	1	1	1	1	7	0
	2年	0	1	0	0	0	1	2	0
	3年	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	2	2	1	1	1	2	9	0
高校	1年	0	0	1	1	1	2	5	0
	2年	0	1	0	0	0	1	2	0
	3年	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	1	1	1	1	3	7	0

□不登校

		平成30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	合計	6年度
中学	1年	5	5	3	6	11	7	37	1
	2年	3	2	13	3	11	8	40	3
	3年	8	4	5	16	8	11	52	3
	合計	16	11	21	25	30	26	129	7
高校	1年	6	3	10	0	2	3	24	3
	2年	2	4	5	3	1	9	24	0
	3年	7	0	1	0	0	0	8	2
	合計	15	7	16	3	3	11	55	5



1. 現状と課題(主なもの)

◎文部科学省「学校基本調査」のデータによると、四国の18歳人口は2019年から2031年の間に約17%(約6千人)減少すると予測されている。なかでも高知県は約20%と減少率が高い。

◎専門職大学コンソーシアムのアンケート調査では、専門職大学の課題は「専門職大学の認知度が低いこと」、現在の課題は「学生募集に苦労している」であり、ともに約90%が回答している。

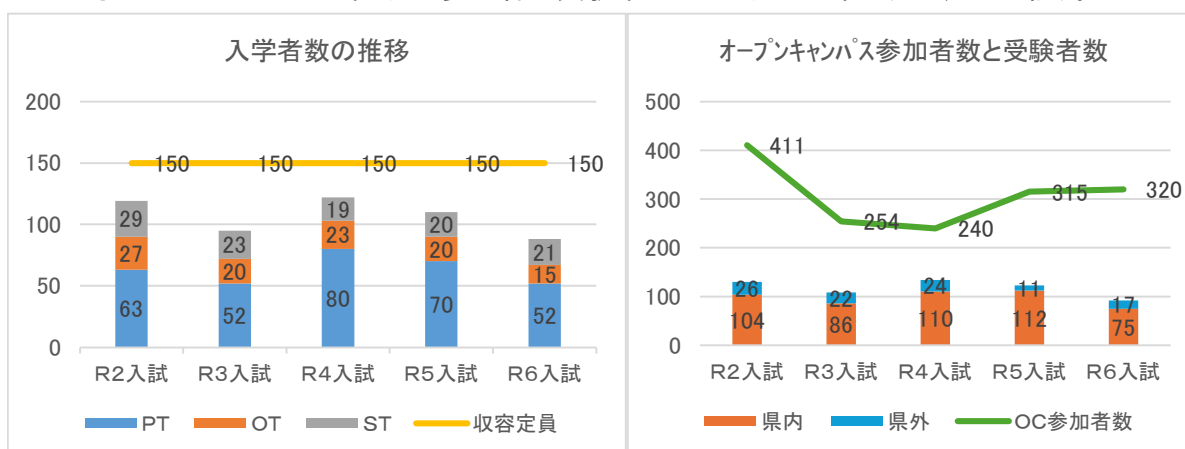
(1) 学生募集

【現状】

○開学以来、入学者数は定員未充足の状態が続いている。

○オープンキャンパス参加者数はコロナ以前の状態には戻っていない。

○オープンキャンパス2回以上参加者の受験率は80%以上である(R4、R5入試)。



※PT:理学療法、OT:作業療法、ST:言語聴覚療法

【課題】

○オープンキャンパス参加者数を増加させる方策の検討。

○県外受験者数を増加させる方策の検討。

(2) 教育研究

【現状】

○退学率、休学率、留年率が増加傾向にある。

○国家試験合格率が低下している。(R4⇒R5)

PT:100%⇒90.6%

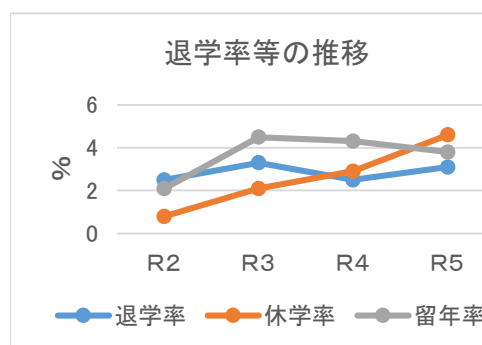
OT:95.8%⇒79.3%

ST:95.2%⇒88.5%

○教員の研究実績が少ない。

科学研究費助成金:申請4件うち採択0(R4)

生命の基金:2件(R4)



【課題】

○学修支援体制を更に充実させる。

○国家試験合格率を向上させる方策の検討。

○教員の研究活動を促進させる方策の検討。

2. 令和5年度の取組

(1) 学生募集

○入試広報委員会において年間計画を策定し、計画的な募集活動に取り組んだ。オープンキャンパスの開催や訪問活動、資料送付などの取組に加えて、SNSを積極的に活用し、情報発信に努めた。

① オープンキャンパス7回、web形式6回開催。(延べ参加者数 320 名(高校生のみ))

・HP、SNS の活用など広報強化による参加者増への取組みや、キッチンカーの活用などによる魅力のあるオープンキャンパスの開催に取り組んだ。

② 学校訪問、学校見学会等の実施。

・学生募集活動非常勤職員を1名増の2名体制とし充実・強化を図り、延べ 395 回 44 校を訪問した。
・高校教員やPTA等による学校見学会を行った(10 回)。
・本学の学生が母校を訪問し、本学のPRや大学生活の魅力を紹介する「goto母校」を実施した。

③ 広報活動の強化

・専門業者とのアドバイザー契約によりHP、SNS を活用した広報活動を強化した。
・進学情報誌を活用したPR、駅構内の電照広告など効果的な広報を継続。

④ 大学説明会等の実施

・本学主催で県内高校の進路指導を対象に3回開催。(延べ 33 校 35 名参加)
・業者及び高校主催の進路相談会に県内 31 会場、県外 21 会場、オンライン相談会に3回参加。
・岡山・広島など中国地方に加えて、関西圏への募集活動も展開した。

⑤ 学生支援制度の継続実施及び広報の強化

・学生支援奨学金制度(家賃補助:月額2万円)
・土佐市就学奨励費(5千円/月)
・奨学生制度(学納金の返還制度:各学年、各専攻の成績優秀な学生1名)

(2) 教育研究

○基礎学力の向上、専門知識、技能習得のために必要な基本的教科の教育指導を進めるとともに、本学の特徴である展開科目においては、他分野の知識や技術を習得し汎用能力を育成することを目指した。

○教員の研究能力向上のために、科学研究費申請を奨励し、個人での申請に加え共同研究プロジェクトを組織するなど、研究活動の促進に取り組んだ。

① 学修支援

・入学時より「学修ポートフォリオ」を導入し、学生個々の学修指導を行った。また、単位修得状況が芳しくない学生を対象に、「学習サポート制度」を導入し定期的に指導を行うなど、学修支援に務めた。

② 国家試験対策

・過去問学修の指導徹底を行うとともに、統一模擬試験を実施した。
・成績下位者に対する学修支援教員によるサポートを行った。
・図書館の休日開館や開館時間を延長するなど、学修環境の改善を図った。

③ 研究

・科学研究費助成事業説明会を開催(2回 53 名参加)、また、研究倫理に関する研修会を実施した。

(3) その他

① 進路選択・キャリア形成

・年度当初からマナー講習・面接対策や履歴書セミナーを実施し、教職員によるフォローアップも行った。
・就職相談室(キャリアセンター)を設置し、教職員による個別相談体制を整備した。

② 地域貢献

・3つのサポートセンター活動拠点を整備し、活動の充実・強化を図った。

③ 国際化への取組

・海外研修制度を継続するとともに、ハワイ大学等との連携を強化した。

④ 将来構想の検討

・大学院及びクリニックについて、定期的に協議を行うとともに専門家の助言を受けるなど、具体的な検討を行った。

3. 令和5年度の取組結果

(1) 学生募集

- ・入試区分別、専攻別、受験者数、合格者数

	受験者数			合格者数			入学者数		
		うち総合型	うち指定校		うち総合型	うち指定校		うち総合型	うち指定校
PT	54	10	34	54	10	34	52	10	34
OT	16	8	6	16	8	6	15	8	6
ST	23	7	9	23	7	9	21	7	9
合計	93	25	49	93	25	49	88	25	49

(2) 教育研究

① 学修支援

- ・退学者数、休学者数、留年者数等

	在籍者数	退学者数	休学者数	留年者数	退学率	休学率	留年率
PT	271	8	13	14	3.0%	4.8%	5.2%
OT	93	0	2	1	0.0%	2.2%	1.1%
ST	88	6	6	2	6.8%	6.8%	2.3%
合計	452	14	21	17	3.1%	4.6%	3.8%

② 国家試験対策

- ・合格率、全国との比較、

	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
PT	64	58	90.6%	95.3%
OT	29	23	79.3%	91.3%
ST	26	23	88.5%	72.4%

③ 研究

- ・科学研究費助成事業申請件数 13 件と前年度4件から大幅に増加し、うち1件が採択となった。
- ・「生命の基金」では、3件が採択された。

(3) その他

① 進路選択・キャリア形成

- ・就職率、県内、県外、業種別(病院、施設など)

	就職率	就職実績(人)					業種別			
		県内		県外		医療機関	一般企業	行政職	その他	
PT	100%	58	22	37.9%	36	62.1%	52	1	1	4
OT	100%	26	11	42.3%	15	57.7%	23	2	1	0
ST	100%	24	10	41.7%	14	58.3%	24	0	0	0
合計	100%	108	43	39.8%	65	60.2%	99	3	2	4

② 将来構想の検討

- ・クリニックは、令和6年度中に開設する。
- ・大学院については、令和8年4月開学を目指して取り組みを進める。

令和5年度 学生アンケートについて

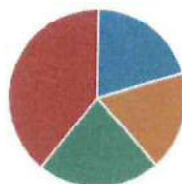
179 応答

04:20 完了するのにかった平均時間

アクティブ 状態

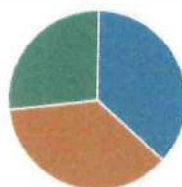
1. あなたの学年を教えてください。

● 1年	36
● 2年	32
● 3年	40
● 4年	70



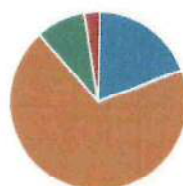
2. あなたの専攻はどちらですか。

● 理学療法専攻	65
● 作業療法専攻	65
● 言語聴覚専攻	48



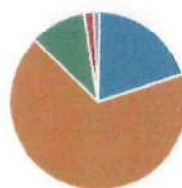
3. あなたは、本学での基礎科目の授業について、どのくらい満足していますか。

● 大変満足	34
● まあ満足	123
● やや不満	16
● 不満	5
● 受講していない	0



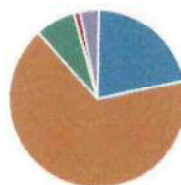
4. あなたは、本学での専門支持科目（基礎医学・臨床医学など）の授業について、どのくらい満足していますか。

● 大変満足	35
● まあ満足	119
● やや不満	18
● 不満	3
● 受講していない	2



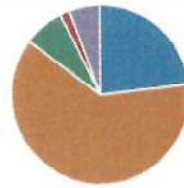
5. あなたは、本学での専門基幹科目（臨床実習以外の各専攻評価学・治療学）の授業について、どのくらい満足していますか。

● 大変満足	38
● まあ満足	118
● やや不満	13
● 不満	2
● 受講していない	6



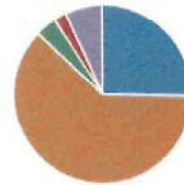
6. あなたは、本学の学内での実習科目（臨床実習以外）の授業における実習室の使用状況について、どのくらい満足していますか。

大変満足	41
まあ満足	109
やや不満	13
不満	3
受講していない	10



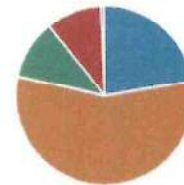
7. あなたは、本学以外の場所で行う臨床実習の授業について、どのくらい満足していますか。

大変満足	45
まあ満足	109
やや不満	7
不満	4
受講していない	12



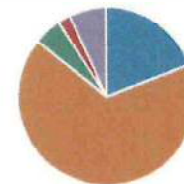
8. あなたは、本学での展開科目の授業について、どのくらい満足していますか。

大変満足	40
まあ満足	99
やや不満	19
不満	18
受講していない	1



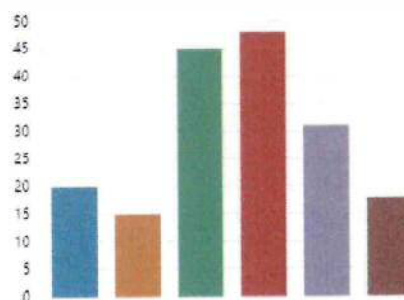
9. あなたは、本学での総合科目（地域支援実習・総合演習など）の授業について、どのくらい満足していますか。

大変満足	34
まあ満足	118
やや不満	9
不満	4
受講していない	12



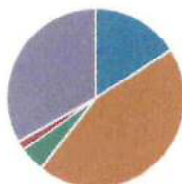
10. あなたは、授業以外の学習時間として、1週間の平均どのくらいの時間を使いますか。

6時間以上	20
4時間以上6時間未満	15
2時間以上4時間未満	45
1時間以上2時間未満	48
30分以上1時間未満	31
30分未満	18



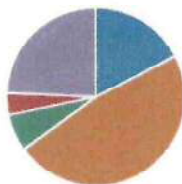
11. 本学における学習支援体制についてお聞きします。
成績不振となっている学生に対する「学習サポート制度」について、どのように評価しますか。

● 大変良い	28
● まあ良い	78
● あまり良くない	8
● 良くない	3
● わからない	58



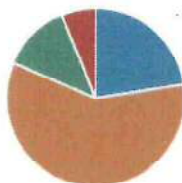
12. 学生自身が学修内容の振り返りと自己評価を行う「学修ポートフォリオ」を活用した指導について、どのように評価しますか。

● 大変良い	31
● まあ良い	84
● あまり良くない	12
● 良くない	7
● わからない	43



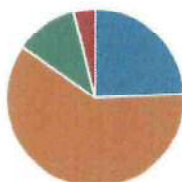
13. あなたは、本学の教室や実習室の設備について、どのくらい満足していますか。

● 大変満足	40
● まあ満足	104
● やや不満	22
● 不満	11



14. あなたは、本学の自習室について、どのくらい満足していますか。

● 大変満足	43
● まあ満足	107
● やや不満	20
● 不満	7



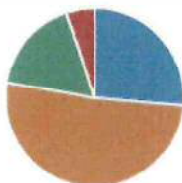
15. あなたは、本学の海外との交流（グローバルな取り組み）について、どのくらい満足していますか。

● 大変満足	36
● まあ満足	106
● やや不満	20
● 不満	15



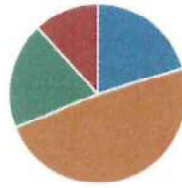
16. あなたは、本学のインターネット設備について、どのくらい満足していますか。

● 大変満足	46
● まあ満足	90
● やや不満	30
● 不満	9



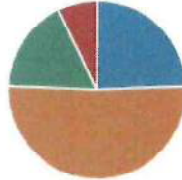
17. あなたは、本学の食堂について、どのくらい満足していますか。

大変満足	36
まあ満足	86
やや不満	34
不満	21



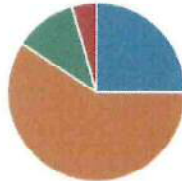
18. あなたは、本学の自動販売機設備について、どのくらい満足していますか。

大変満足	43
まあ満足	91
やや不満	30
不満	13



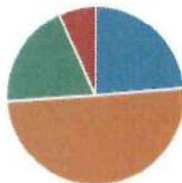
19. あなたは、本学のトイレや更衣室について、どのくらい満足していますか。

大変満足	44
まあ満足	104
やや不満	20
不満	8



20. あなたは、本学の駐車場や駐輪場について、どのくらい満足していますか。

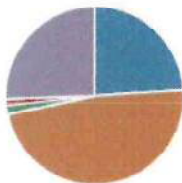
大変満足	42
まあ満足	89
やや不満	34
不満	12



21. 本学における学生支援の体制についてお聞きます。

学生相談窓口（1F事務局窓口、メール相談受付、投書箱）について、どのように評価しますか。

大変良い	42
まあ良い	84
あまり良くない	3
良くない	2
わからない	45



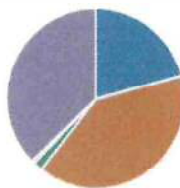
22. カウンセリング室について、どのように評価しますか。

大変良い	33
まあ良い	54
あまり良くない	1
良くない	1
わからない	88



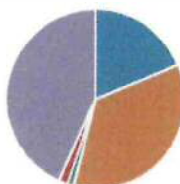
23. 保健室について、どのように評価しますか。

● 大変良い	37
● まあ良い	70
● あまり良くない	3
● 良くない	1
● わからない	66



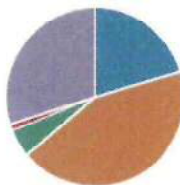
24. ハラスメントに関する相談・支援について、どのように評価しますか。

● 大変良い	33
● まあ良い	62
● あまり良くない	2
● 良くない	3
● わからない	76



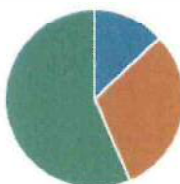
25. 学生への合理的配慮（学生個別対応）に関する相談・支援について、どのように評価しますか。

● 大変良い	36
● まあ良い	77
● あまり良くない	9
● 良くない	2
● わからない	53



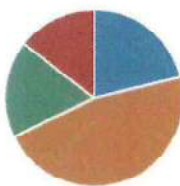
26. 本学のスクールバスについてお聞きします。
あなたは、スクールバスを利用していますか。

● 利用している	23
● 利用したことがある	54
● 利用したことはない	100



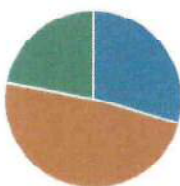
27. 上記の26にて1または、2を選んだ方にお聞きします。
あなたは、スクールバスの運行に（便数・時間）に、どのくらい満足していますか。

● 大変満足	19
● まあ満足	42
● やや不満	16
● 不満	13



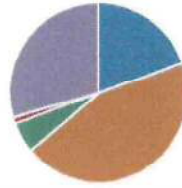
28. 本学独自の奨学金制度「土佐市修学奨励費（土佐市で一人暮らしを対象）、学生支援奨学金制度（家賃充当・給付型）、高知リハビリテーション専門職大学奨学生制度（成績優秀者を対象）」についてお聞きします。
あなたは、上記の3つの奨学金について知っていますか。

● 全て知っている	52
● 一部知っている	86
● 知らない	39



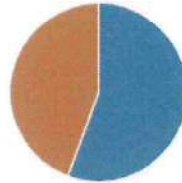
29. 本学の奨学金制度について、どのように評価しますか。

大変良い	35
まあ良い	78
あまり良くない	10
良くない	2
わからない	52



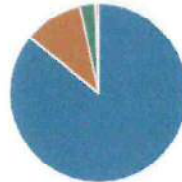
30. 本年度4回にわたり開催した「学生体験イベント」について、お聞きます。
あなたは、このイベントについて知っていましたか。

知っていた	98
知らなかった	78



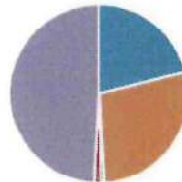
31. あなたは、このイベントに参加しましたか。

0回	151
1回	19
2回	5
3回以上	1



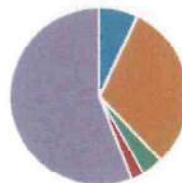
32. このイベントについて、どのように評価しますか。

大変良い	37
まあ良い	49
あまり良くない	1
良くない	2
わからない	86



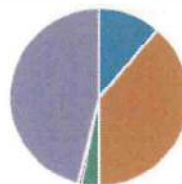
33. 本学のキャリア支援（就職・進学支援）について、1年生～3年生にお聞きます。
就職合同説明会について、どのくらい満足していますか。

大変満足	9
まあ満足	39
やや不満	5
不満	3
支援を受けていない	71



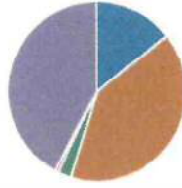
34. キャリアガイドンについて、どのくらい満足していますか。

大変満足	18
まあ満足	61
やや不満	5
不満	1
支援を受けていない	73



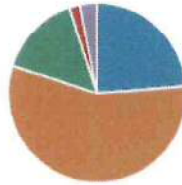
35. マナー講座（履歴書・面接マナー）について、どのくらい満足していますか。

大変満足	23
まあ満足	64
やや不満	4
不満	1
支援を受けていない	67



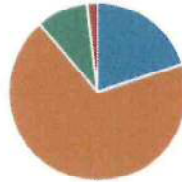
36. あなたは、本学に入学して良かったと思いますか。

とても良かった	38
まあ良かった	90
どちらともいえない	24
あまり良くなかった	3
良くなかった	5



37. 入学時に比べて、あなたのセラピストとしての能力（専門知識・技術の活用力・コミュニケーション能力・生命の尊厳と人格を尊重した実践力・問題発見解決力・自律的で意欲的な態度）は、どのように変化しましたか。

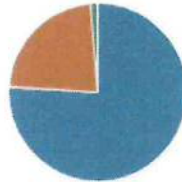
大いに高まった	32
高まった	110
変わらない	15
低くなった	3



38. あなたは、本学でセラピストとしての能力（専門知識・技術の活用力・コミュニケーション能力・生命の尊厳と人格を尊重した実践力・問題発見解決力・自律的で意欲的な態度）を身につけることが、どのくらい重要だと思っていますか。

※ 1～3年生はここまです。

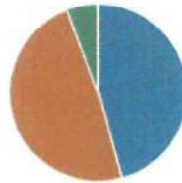
とても重要である	117
少し重要である	35
あまり重要でない	2
全く重要でない	0



39. ここからの質問は4年生に対してお聞きします。

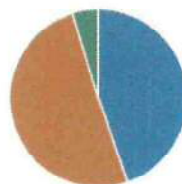
あなたは、本学の国家試験対策の教員による学修指導について、どのくらい満足していますか。

大変満足	32
まあ満足	34
やや不満	4
不満	0



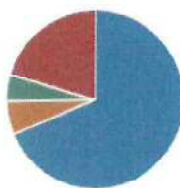
40. あなたは、本学の国家試験対策時の図書館や教室等の開放状況について、どのくらい満足していますか。

大変満足	38
まあ満足	43
やや不満	4
不満	0



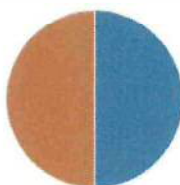
41. 本学の就職支援についてお聞きします。
あなたの就職活動状況について教えてください。

● 第一希望に内定	57
● 第二希望に内定	5
● 就職活動中	4
● いずれでもない	17



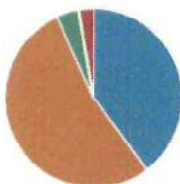
42. 卒業後の進路が決まっている方にお聞きします。
進路先についてどのくらい満足していますか。

● 大変満足	33
● まあ満足	33
● やや不満	0
● 不満	0



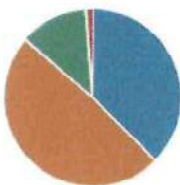
43. 4年次の就職・進学支援体制についてどのくらい満足していますか。

● 大変満足	29
● まあ満足	39
● やや不満	3
● 不満	2



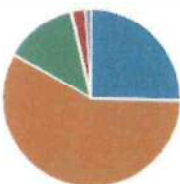
44. 総合的に見て、あなたの本学での学生生活は充実していましたか。

● とても充実していた	30
● 充実していた	39
● あまり充実していなかった	10
● 充実していなかった	1



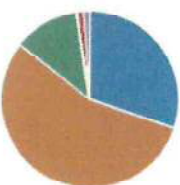
45. 本学のディプロマポリシーについてお聞きします。
あなたは、本学の5つの「卒業認定・学位授与の方針＝ディプロマポリシー」について、それぞれどのくらい達成できたと思いますか。
①専門知識・技術の活用力：専門職として必要とされる教養、専門的な知識や理論、技術態度を習得し、状況に応じて総合的に活用できる。

● 達成できた	21
● やや達成できた	48
● どちらともいえない	11
● あまり達成できなかった	2
● ほとんど達成できなかった	1



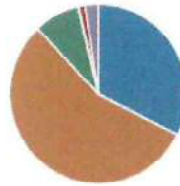
46. ②コミュニケーション能力：対象者と円滑なコミュニケーションをとることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築できる。また、社会及び地域のニーズに対応できる柔軟な協調性を身につけ、多職種との連携・協働を行うことができる。

● 達成できた	25
● やや達成できた	46
● どちらともいえない	10
● あまり達成できなかった	1
● ほとんど達成できなかった	1



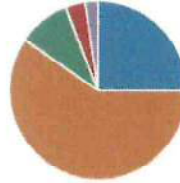
47. ③生命の尊厳と人格を尊重した実践力：対象者が持つ背景や価値観の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができる。また、実践場面において、いかなる場合でも専門職としての役割を倫理的に判断し、行動することができる。

● 達成できた	27
● やや達成できた	46
● どちらともいえない	7
● あまり達成できなかった	1
● ほとんど達成できなかった	2



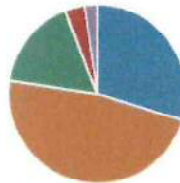
48. ④問題発見・解決力：対象者の問題や課題の解決に向けて、必要な倫理的・実践的知識及び資源を活用し、根拠に基づいた適切な方法を選択・計画し、安全かつ的確に行動することができる。

● 達成できた	21
● やや達成できた	50
● どちらともいえない	8
● あまり達成できなかった	3
● ほとんど達成できなかった	2



49. ⑤自律的で意欲的な態度：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として医療の進歩や社会のニーズの変化に対応できる専門技術や知識を習得するために、生涯にわたり探求心をもち自己研鑽を継続できる。

● 達成できた	25
● やや達成できた	40
● どちらともいえない	14
● あまり達成できなかった	3
● ほとんど達成できなかった	2



2023年度入学者アンケート

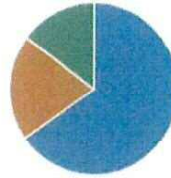
95 応答

08:45 完了するのにかった平均時間

アクティブ 状態

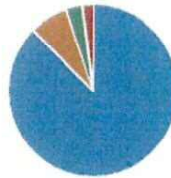
1. あなたの専攻はどちらですか。

● 理学療法専攻	62
● 作業療法専攻	19
● 言語聴覚専攻	14



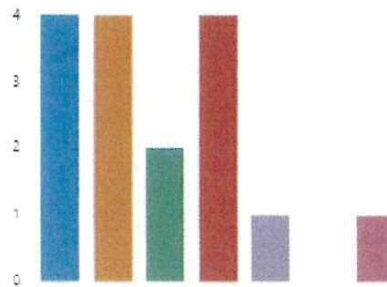
2. 本学の志望順位についてお答えください。

● 第一志望	83
● 第二志望	7
● 第三志望	3
● その他 ()	2



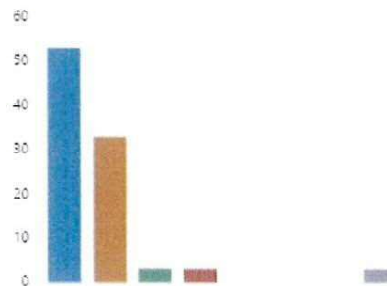
3. 2で①以外を選択された方に質問します。第一志望の学校についてお答えください。

● 県内国公立	4
● 県外国公立	4
● 県内私大	2
● 県外私大	4
● 県内専門学校	1
● 県外専門学校	0
● その他 ()	1



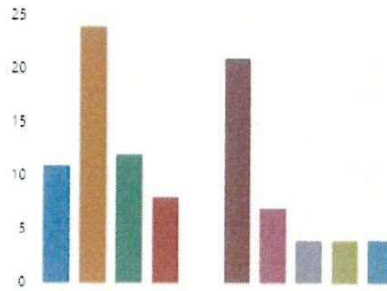
4. 進路決定にあたりもっとも相談をした相手は誰ですか。

● 家族・親族	53
● 担任の先生	33
● 進路の先生	3
● 部活の先生	3
● 塾の先生	0
● 友人	0
● 先輩	0
● その他 ()	3



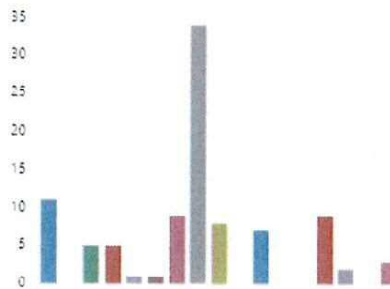
5. 本学を知ったきっかけは何でしたか。

進路指導室で資料を見て	11
高校の先生に紹介してもらった	24
進学説明会に参加して	12
ホームページを調べて	8
S N Sを見て	0
保護者の勧め	21
本学在校生・卒業生の勧め	7
友人の勧め	4
進学関連雑誌・サイトを見て	4
その他（	4



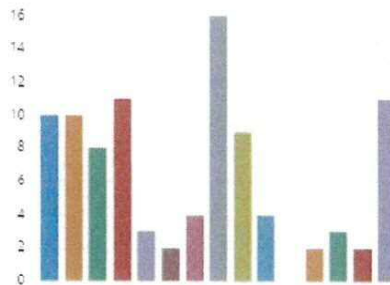
6. 本学の入学を決めた理由は何でしたか。

カリキュラム（展開科目等）	11
授業料等	0
先生（高校）の勧め	5
家族・親族の勧め	5
本学学生及び教職員の対応	1
本学卒業生や在学生に知人がいる	1
施設・設備が整っている	9
大学卒の資格が取れる	34
オープンキャンパスの雰囲気	8
高知県の風土や自然	0
就職先への期待や多様な就職先	7
S N S	0
課外活動・社会貢献活動	0
国家試験合格率	9
進級率・卒業率	2
本学の奨学金制度	0
その他（	3



7. 専攻を決めた理由は何でしたか。

カリキュラム（展開科目等）	10
魅力的な研究分野がある	10
先生（高校）の勧め	8
家族・親族の勧め	11
本学学生及び教職員の対応	3
本学卒業生や在学生に知人がいる	2
施設・設備が整っている	4
オープンキャンパスの体験授業	16
就職分野への期待	9
多様な就職先	4
S N S	0
社会貢献活動	2
国家試験合格率	3
進級率・卒業率	2
その他（	11



8. 本学の入学生を増やす方法について意見をお聞かせください。

78
応答

最新の回答
"高校とかに行ってお話をする"

9回答者 (12%) この質問に 学校回答しました。



9. 本学のオープンキャンパス参加数を増やす方法について意見をお聞かせください。

77
応答

最新の回答
"問8と同じ"

11回答者 (14%) この質問に 体験回答しました。



10. 本学のホームページやSNSにUPしたら良い内容などありましたらお教えてください。

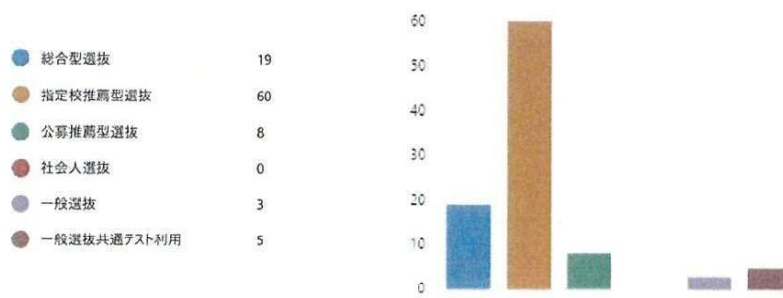
62
応答

最新の回答
"生徒が動画に出る"

18回答者 (29%) この質問に 授業回答しました。

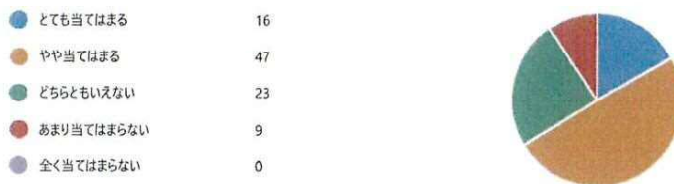


11. 本学への入学が決まった入試区分についてお答えください。

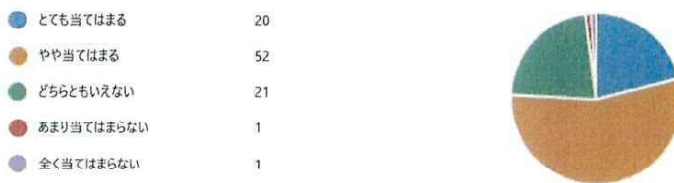


12. 本学の「入学者受け入れ方針＝アドミッションポリシー（以下A P）」について自己評価をお答えください。※入学時の状況を思いだして答えてください。

I 知識・教養：本学の専門分野を学ぶために、高等学校で身につける文科系・理科系にわたる基礎的な知識・教養を持つ人



13. II 思考力・判断力：自分の行動に責任を持ち、自ら考え、自ら問題を見つけ、これを解決できる人



14. III 協働性：幅広い人間性、柔軟性と協働性を有し、周囲の人と良好な関係を保つことができる人

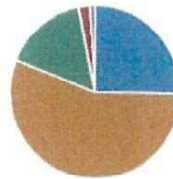


15. IV 探求心：専門分野への探求心をもち、社会の変化に合わせて自分も進化させることができる人



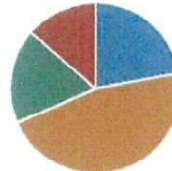
16. V 関心・意欲：保健医療福祉に対する意欲や関心度が高く、この分野に貢献したいという目的意識と情熱を持つ人

● とても当てはまる	24
● やや当てはまる	53
● どちらともいえない	15
● あまり当てはまらない	2
● 全く当てはまらない	1



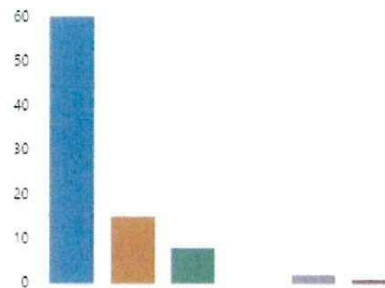
17. 本学受験の際、A Pの理解度についてお答えください。

● A Pをよく理解して受験した	21
● A Pを読んだうえで受験した	44
● A Pについて詳しく知らなかった	17
● A Pを全く知らなかった	13



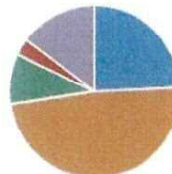
18. 1 7で①～③を選択された方に質問します。A Pをどこで知りましたか。(複数回答可)

● 本学パンフレット	60
● 募集要項	15
● 本学HP	8
● 本学の教職員	0
● 高校の先生	2
● その他()	1



19. A Pはあなたの入試区分において、提出資料や試験内容に反映されていたと思いますか。

● そう思う	23
● まあそう思う	46
● どちらかというと思わない	9
● まったく思わない	3
● わからない	14

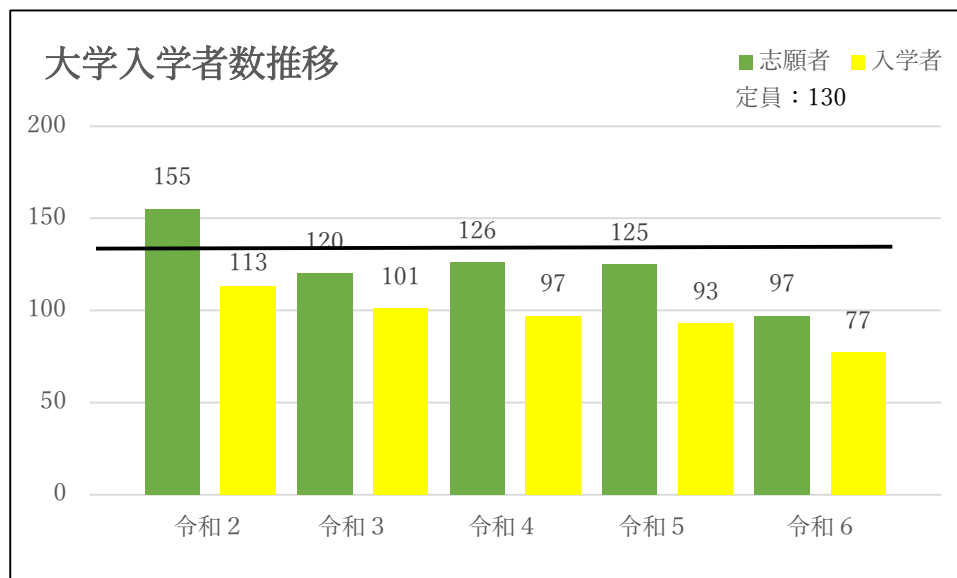


I. 現状と課題及び今年度の計画

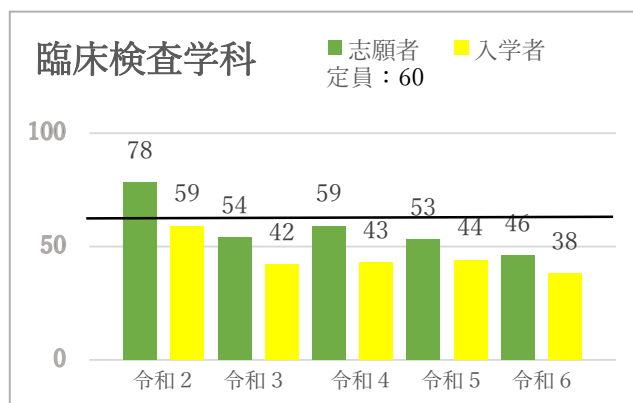
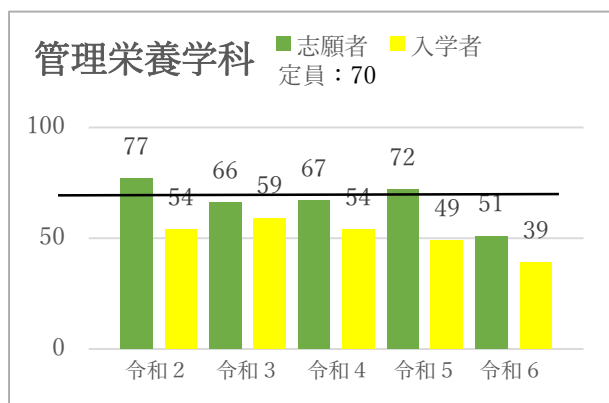
I-1 入口の状況

日本私立学校振興・共済事業団の調査によると、令和5年度においては全596私立大学の内、定員充足をしている大学は280、未充足が316であり、未充足大学の割合は53.3%であって、この年度に初めて50%を超えた。【資料1】(参考)部分

本学においては、開学以来定員未充足状況が続いており、年々減少しているのが現状である。令和6年度入学生の定員充足状況は59.2%で、18歳人口及び出生数などの加速度的減少という社会情勢にあつて、大学存続のために今後どのような方策をとるかを全教職員で模索していかなければならない。



各学科の志願者及び入学者の推移は次の通り。



I-2 学生募集活動

入学者数の確保にあつて令和5年度に実施した活動

- ① 高等学校教員対象の進学説明会（高知市、四万十市、安芸市）
- ② オープンキャンパスの開催（6・7・8・9月）：高校生・保護者の参加は全体で1000名超え）
- ③ 毎日がオープンキャンパス
- ④ 進学ガイダンスへの参加
- ⑤ 高等学校への個別訪問
- ⑥ 高知高校との連携強化（医療・健康系進学プログラムを含む）
- ⑦ 「まるごと！学大・学短フェア」（8月：四万十市、11月高知市で実施）

⑧ 「管理栄養士の仕事を体験しよう!」「臨床検査技師をのぞいてみよう!」

「臨床検査技師をのぞいてみよう!」には40名を超える参加者があり、またその企画が出願にも結び付いていることから、令和5年度はその企画を幡多地区でも行った。高知県臨床検査技師会の全面的な協力を得ることもできた。管理栄養学科でも同様の企画を立ち上げて実施し、30名を超える参加者を得た。このような企画を今後とも継続して行う必要がある。

進学ガイダンスは、高知県内に限らず四国内、中国地方のガイダンスにも積極的に参加した。その他、テレビCMで大学の紹介やオープンキャンパスの案内なども行ったが、ここ数年、あまり効果がみられていないというのが現状である。

I-3 入学者の概況～令和6年度入学時アンケート¹から（【資料2】）

① 受験

例年通り、県内の高校からの進学が圧倒的に多数であり、推薦型・総合型選抜が9割近くを占めている（図16）。また、約8割の入学者は、本学以外の大学/短大/専門学校を受験していない（図17）。

進学先選びで重視したこととして、管理栄養学科では、「資格取得状況」が44.7%で最も多く、「学科の特色」39.5%、「授業内容」36.8%と続く。次いで「教育方針・校風」が18%、「学費・奨学金」が11%である（図22）。一方、臨床検査学科では、「資格取得状況」が60%と突出して、次いで「授業内容」「就職状況」が33%、「教員の人柄」が23%となっている（図23）。

② 入試以前

両学科入学者の約7割は高校時代に全く塾や予備校に通っていない（図18）。

本学を最初に知った時期としては、9割超が高校時以降である（図19）。高知学園大学という意味で捉えたとしても、開学は中学時のはずであり、年代を超えた知名度の向上が課題である。また、進学する学科（専攻）を決めた時期についても、9割超が高校時以降であった（図21）。

本学を知ったきっかけとしては、67%が家族・先生・友人等からであり、ポスター・パンフレット等の印刷物やWebサイトという回答は少数、テレビCMの回答はゼロであった（図20）。Studyplusトレンド研究所の調査²では、YouTubeを含むデジタルチャンネルがきっかけとなっているケースも多く、本学のデジタルチャンネルの強化が必要である。

本学入学者のオープンキャンパス参加率は、両学科で8割を超えており（図27）、これはマイナビ調査³の51%に比べても非常に高い。

I-4 学生生活とICT関連の施策（【資料2】）

① 教育目的と学修～令和5年度卒業時アンケート⁴から

本学の教育目的とそれに基づいて定められた学習成果について、学生の自己評価では2学科とも概ね達成されている（図3）。「在学期間中、身についたスキル」として、管理栄養学科では、半数以上が「チームでの協働力」を挙げ（図4）、臨床検査学科では、半数以上が「チームでの協働力」「相手の意見を丁寧に聴く力」「専門分野の知識・技術を理解する力」を挙げている（図5）。また、成長を感じられたきっかけとしては、実習や国家試験が挙げられており、本学が重視することが成長への契機となっている（図10）。

② 学生生活～令和5年度卒業時アンケートから

学生生活の満足度は、平均では短大より低いものの、両学科とも90%以上が5点満点中3点以上を回答しており、概ね満足感を得て卒業している（図11、図12）。

「学友や同じ道を志す仲間が得られたか」の質問に対しては、95%以上は「たくさん」または「ある程度」得られたと回答しており、大学がネットワーク作りの場として機能していることがわかる（図13）。

本学のよかったところでは、図書館、実習環境、キャリアサポートについて、昨年同様、高い評価となった。学食、学園祭などのイベント、自習環境は昨年よりも高いポイントとなっている（図14）。これは、令和5年5月に新

¹ 高知学園大学・高知学園短期大学の令和6年度入学生（専攻科を除く）を対象として、令和6年4月15日～30日にMicrosoft Formsでのアンケートを実施し、88.7%の新入生から回答を得たものである。

² 『“スマホ時代”の受験生進路モデル』（Studyplusトレンド研究所、2022）<https://www.trend-lab.studyplus.jp/post/20240305>

³ 2021年3月卒マイナビ進学メンバー対象高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査 調査報告書 <https://souken.shingaku.mynavi.jp/home/wp-content/uploads/2021/07/2021年3月実施高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート.pdf>

⁴ 高知学園大学・高知学園短期大学の令和5年度卒業生を対象として、令和6年3月16日～31日にMicrosoft Formsでのアンケートを実施した。

型コロナウィルス感染症の5類移行が実施されたことに伴い、学内の仕組み等に変更を行ったためと考えられる。

一方、本学の改善すべきところとして、昨年に続き、過半数が「トイレ」を指摘している（図 15）。また、「校舎」「PC・インターネット環境」も3割以上が改善すべきとしており、これらについては何らかの対策を検討する必要がある。

③ ICT 関連の施策について（情報企画部）

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、これまで発生（または発生疑い）時に学生・教職員を対象として行ってきた詳細な聞き取り調査とメールによる報告について、見直しを行い、症状のある本人についてのみ担当が検査結果を感染症発生報告の共有ファイルに記録し、毎日の集計が評議会の報告ファイルで共有される仕組みへの変更を実施した。このファイルは、コロナ及びインフルエンザについての検査結果と公欠期間が記録されるものであり、全学科の発生動向数の履歴を迅速に把握することができる。

④ ICT 関連の令和6年度の計画について（情報企画部）

学生募集強化に向けて、世代を超えた（とくに中学生の）認知度向上を図り、デジタルチャネルでの情報発信を強化するために、本学 Web サイトで以下の方策を計画している。

- (1) 記事作成体制を見直し、各学科の担当者及び委員会等に記事作成アカウントを付与した上で、それぞれの部署でイベント等の記事を作成、情報企画部で公開を承認するものとする。
- (2) IR 推進室で実施している各調査の結果について、再編集し、公開する。
- (3) 研究推進プロジェクトで、教員・研究の紹介ページを企画し、中学生にもわかるよう動画コンテンツを盛り込む。
- (4) サイト内各ページのキーワードとタグを整理し、リンクと関連ページの表示を改善する。
- (5) ソーシャルメディアでサイトの更新情報を発信する。
- (6) GoogleAnalytics（サイトへのアクセス解析ツール）の分析に基づいて、ページ構成やリンク構造を見直す。
- (7) 高知学園大学・短期大学としてのブランド強化のために、公式 Web サイトを短大と統一する。（ドメインについては維持する。）

学内のインフラでは、教育 DX の基盤として、Wi-Fi ネットワークを整備する。学内でのノート PC やタブレット活用のための Wi-Fi 利用は、以前より学生からも強い要望が出ており、令和6年度中に、学生が自由にアクセスするための Wi-Fi コントローラを導入し、学内各所にアクセスポイントを設置する計画である（現在文部科学省に補助金を申請中）。

II. 出口の状況(就職及び国家試験)

II-1 就職状況（【資料2】【資料3】）

管理栄養学科では、卒業生の半数が栄養士・管理栄養士として、また10%が栄養教諭・家庭科教諭として就職しており、学科の特性を活かした仕事に就いている。臨床検査学科では、7割弱が臨床検査技師としての職に就いており、学科の特性がよく現れている。学生の進路についての満足度は2学科とも高く（図1）、進路指導・サポートについての教職員の対応も学生から評価されている（図2）。

① 取り組みの成果と現状

- ・就職支援に関しては、大学・短大共にキャリアセンターで一人一人と面談をし、就職委員と事務局が連携をして進路指導を行った。
- ・進路支援に必要な求人情報の収集、周知、履歴書・ESの添削、面接指導（入退室）、お礼状文章指導などを日常業務として行った。
- ・進路先のデータ化（調査等で必要なため）
- ・就職活動が困難な学生については、カウンセリング委員と情報共有をし、個々に必要な支援を行っている。
- ・各学科で履歴書書き方指導、就職説明会、就職セミナー等、年1回実施している。
- ・卒業生からの相談に応じて就職支援として、情報の公開、求人斡旋。
- ・取り組みの成果として、両学科とも100%の就職率⁵。

令和5年度就職状況

学科	卒業生数	就職希望者数	就職決定数		その他	
			県内	県外		
管理栄養	44	40	40	33	7	進学1、(就職を希望しない) 3
臨床検査	54	36	36	25	11	進学2、卒業後研修生14、(就職を希望しない) 2

⁵ 就職希望者数に対する就職決定数の割合

※進学状況：管理栄養学科(1)：高知県立大学大学院

臨床検査学科(2)：徳島大学大学院、加計学園細胞病理学研究所

② 令和6年度の計画について

- ・SPI(適性検査)等の試験の対策強化として、過去の試験内容の情報提供、参考書の貸し出し、必要であれば、県内の公務員試験内容にあるクレペリン検査の実施指導を行う。
- ・次年度に向けて受験学生からの就職試験内容の聞き取りを強化する。
- ・就職情報のIT化では、ポータルサイトでの周知を行う。
- ・就職委員と事務局が連携して情報共有をし、進路支援に取り組んでいく。
- ・就職活動が困難な学生については、担任・学科長との連携を図り、職業訓練、若年者サポートセンターの利用も考える。
- ・早期化が進む就職活動に対して、学生の就職に対する早期意識付けを行い、各学科で就職委員をはじめ、学科長、担任、事務局が連携し学生への指導にあたる。
- ・大学院進学について、実績を積み上げるとともに進学ルートを確立していく。

II-2 国家試験結果と令和6年度国家試験対策

① 管理栄養学科(管理栄養士国家試験)

➤ 第38回管理栄養士国家試験(令和5年度)新卒

	受験者数	合格者数	合格率(%)
全国	—	—	80.4
高知学園大学	36	27	75.0

(参考)

徳島文理大学	30	24	80.0
四国大学	64	57	89.1
高知県立大学	38	27	71.1

➤ 令和5年度取り組みの概要

3年次後期より

- ・学科教員による「国家試験対策講座」「習熟度試験」
- ・専門業者による模擬試験及び個人面談(学生と担任、担任と学科長による保護者面談)
- ・取り組みから得られた合格要件(今後、更なる分析が必要)

模擬試験において、得点率70%以上が1回以上または同60%以上が複数回、及び得点率40%未満が0回(得点率60%以上が1回以下及び得点率40%未満が1回以上では不合格)

➤ 令和6年度の取り組み(令和5年度の反省から)

- ・学生の自覚を早期から促す。
- ・保護者面談を早期に実施するとともに、丁寧な説明を行う。
- ・管理栄養士免許を必要としない就職先へ就職する学生に対する動機付けを行う。

② 臨床検査学科(臨床検査技師国家試験)

➤ 第70回臨床検査技師国家試験(令和5年度)新卒

	出願者数*	受験者数*	合格者数	合格率(%)
全国	—	—	—	88.0
高知学園大学	54	54	35	64.8

(参考)

新渡戸文化短期大学	70	55	53	96.4
山陽女子短期大学	31	25	22	88.0
宮ノ森医療大学	64	55	54	98.2
京都橘大学	71	65	60	92.3
修文大学	57	56	35	62.5
四日市看護医療大学	23	23	16	69.6

*他大学、短大では出願数と受験数が異なる場合が多くある。

➤ 令和5年度取り組みの概要

4年次

- ・4~7月：月2回の試験(過去問)の実施、解説ノート作成および指導

・8～9月：過去5年分の国家試験問題をシャッフルして実施（月1回）

・9～1月：実力試験の実施（1～2回/月・・・不得意科目の向上）

詳細な解説

成績不審者に対する特別ゼミ（6時間目）

・2月5～9日：集中模試（国試前の準備と確認）

➤ 令和6年度の取り組み（令和5年度の反省から）

・国家試験全員合格を目指す、少なくとも新卒の全国平均以上は確保する。

・4年前期は教員の危機感が学生に伝わらず、国試勉強の開始が遅れた学生がいた。

・3年次の隣地実習終了（1月）から国家試験までに1年以上あるため、学生の受験勉強に対する態度を弛緩させてしまった。

→ 3年後期2月からの実力試験の実施と結果（点数・順位）の公表

間違えた問題の振り返りと、教科ごとの国試対策ノート作成

個人面談の実施による定期的な確認

・特別ゼミでは思うような効果が認められなかった。

→ 成績不審者への勉強方法の聞き取りと、各自に合った勉強方法への改善の助言

・卒業生全員を受験させた。

→ 臨床検査セミナー（演習4単位/現在は選択科目）に合格しないと国家試験受験不可と内規で定める。

来年度入学生からは当該科目を必修化する。

Ⅲ. 今後の方策について

☆大学運営のベースとなる考え方 利益＝売上高－コスト（売上高を増やし、コストを減らす）

Ⅲ-1 売上高の増加：学生数、志願者数の増加

高校生や保護者から「選ばれる大学」になるために、学校としての「売り」（魅力：価値ある独自性）の再構築を図る。

〔具体策〕

（1）教育内容の充実

・各学科の特色ある教育内容の企画・展開

・各学科での留年率、休学率、退学率の減少の解決策の検討。

・学科横断的な健康教育の推進（健康教育の授業の教育内容の精査とカリキュラムの検討）

・FD活動の活性化による個々の教育能力の向上

（2）教員の研究活動の活性化

＝研究の質と量を高めることが授業力を向上させ魅力の発信につながる。

・教員の紀要等への投稿の推進

・研究倫理教育の充実

（3）ICT環境の整備によるICT教育の推進

・ICT教育関連機器やTeamsなどを活用した授業の実施

（4）就職先の確保・開拓

・「就職率100%」の継続 ←教職員による組織的・継続的な援助

（5）高知学園の総合学園としての強みの活用

・高等学校との高大連携事業の再構築

・専門職大学との教育的環境と人材の交流

（6）広報活動の強化

・HPの充実

・進学ガイダンスへの積極的参加

・オープンキャンパスの再構築

・入試の再点検

◎「入口戦略」の一環として、（1）～（5）を確実に進めながら、（6）で本学の魅力を積極的かつ効果的に情報発信を行っていく。

Ⅲ-2 コストの削減：経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の再点検

（1）1（1）の一環としての教員人事の再構築

- (2) 大学・短大として必要な施設・設備・備品の見直し
- (3) 1 (3) による事務手続きの効率化とペーパーレス化の推進

◎大学全体、学部・学科・専攻科、各事務局、さらには教職員一人一人が連携しながら進めていく。限られた予算の中で、どこに何を重点的に配分していくことを経営計画に基づき展開していく。

【喫緊の課題】(文部科学省からの指摘事項(大学))

- ① 収容定員未充足の改善 1 を実施
- ② 教員組織編制の将来構想(高齢教員の多さの改善) 1 (1) および2 (1) を実施

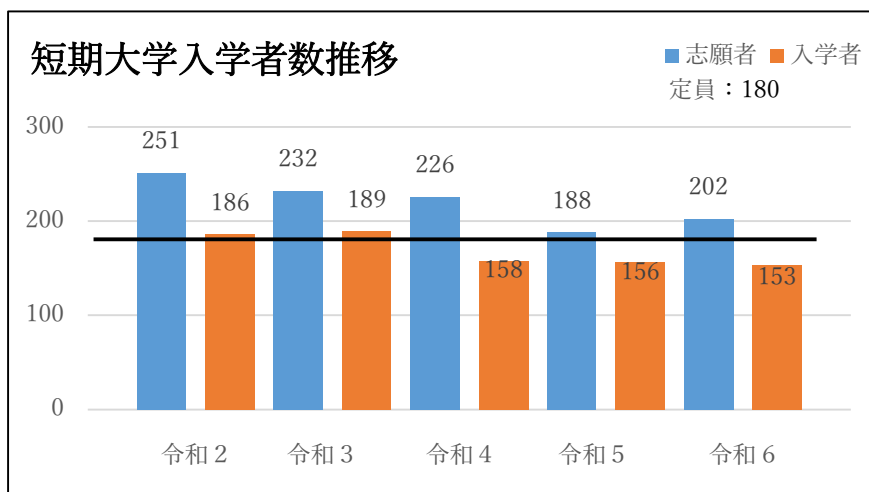
I. 現状と課題及び今年度の計画

I-1 入口の状況

全国的にも短期大学は定員未充足割合が非常に高い。

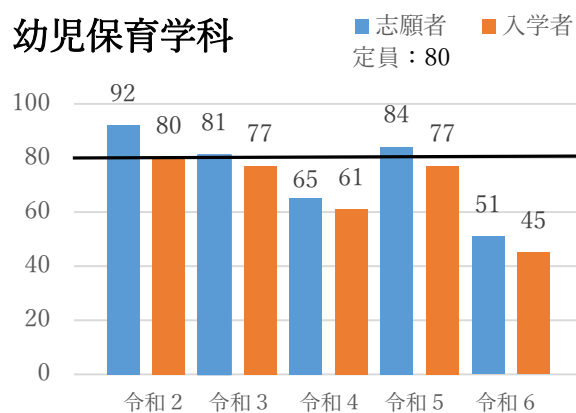
日本私立学校振興・共済事業団の調査によると、令和5年度においては全276短大の内、定員充足をしている短大は22、未充足が254短大であり、未充足短大の割合は92.0%に及ぶ。【資料1】

本学においても次のグラフの通り、令和4年度以降は定員未充足状態にある。短大全体の志願者数は前年度より増加しているものの、入学者数はここ数年漸減しており、令和6年度の定員充足率は85.0%で、過去5年では最も低くなっている。

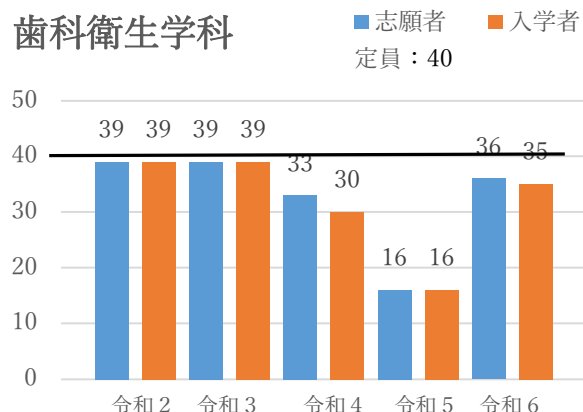


学科別の志願者・合格者数の推移は次の通りであるが、近年減少著しい学科は幼児保育学科である。この傾向は中・四国あるいは全国の私立短期大学協会の総会でもいずれの短大でも頭を悩ませている事項である。

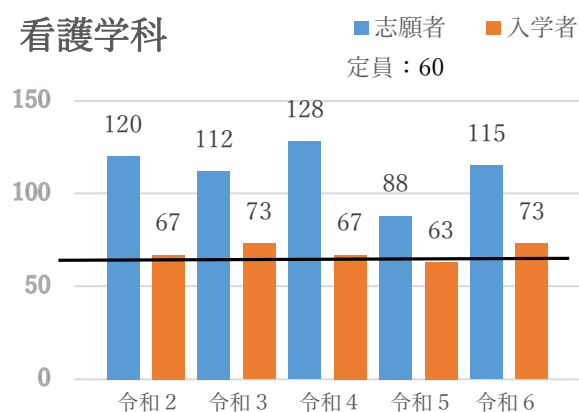
幼児保育学科



歯科衛生学科



看護学科



I-2 学生募集活動

入学者数の確保にあたって令和5年度に実施した活動

- ① 高等学校教員対象の進学説明会（高知市、四万十市、安芸市）
- ② オープンキャンパスの開催（6・7・8・9月）：高校生・保護者の参加は全体で1000名超え
- ③ 毎日がオープンキャンパス
- ④ 進学ガイダンスへの参加
- ⑤ 高等学校への個別訪問
- ⑥ 高知高校との連携強化（医療・健康系進学プログラムを含む）
- ⑦ 「まるごと！学大・学短フェア」（8月：四万十市、11月高知市で実施）

進学ガイダンスは、高知県内に限らず四国内、中国地方のガイダンスにも積極的に参加した。その他、テレビCMで大学の紹介やオープンキャンパスの案内なども行ったが、ここ数年、あまり効果がみられていないというのが現状である。

I-3 入学者の概況～令和6年度入学時アンケート¹から（【資料2】）

① 受験

例年通り、県内の高校からの進学が圧倒的に多数であり、推薦型・総合型選抜が9割超を占めている（図16）。また、幼児保育学科と歯科衛生学科の9割以上の入学者は、本学以外を受験していない一方で、看護学科では3割程度が他校も受験した上で本学を選択している（図17）。

進学先選びで重視したこととして、3学科とも「資格取得状況」が最も多く、半数程度が挙げている。次いで、「授業内容」「学科の特色」「就職状況」であった。（図24、図25、図26）。

歯科衛生学科のみ「教育方針・校風」が2番目に多い率となった。

② 入試以前

幼児保育学科と歯科衛生学科入学者の9割以上は高校時代に全く塾や予備校に通っていない一方で、看護学科入学者の2割超は、高校時代に何らかの形で塾等に通った経験があった（図18）。

本学を最初に知った時期としては、約9割が中学時以降と回答している（図19）。また、そのきっかけとしては、67%が家族・先生・友人等の人伝と回答しており、ポスター・パンフレット等の印刷物やWebサイトという回答は少数、テレビCMの回答はゼロであった（図20）。Studyplusトレンド研究所の調査²では、YouTubeを含むデジタルチャンネルがきっかけとなっているケースも多く、本学のデジタルチャンネルの強化が必要である。

進学する学科（専攻）を決めた時期については、幼児保育学科と看護学科では2割程度が高校入学以前に決めていた一方、歯科衛生学科では高校時に決めたと回答した比率が2学科より多い（図21）。

本学入学者のオープンキャンパス参加率は、3学科で8割を超えており（図27）、これはマイナビ調査³の69%に比べると高い。

I-4 学生生活とICT関連の施策（【資料2】）

① 教育目的と学修～令和5年度卒業時アンケート⁴から

本学の教育目的とそれに基づいて定められた学習成果について、学生の自己評価では3学科・専攻科とも達成されている（図3）。「在学期間中、身についたスキル」として、幼児保育学科・歯科衛生学科では、半数以上が「チームでの協働力」（図6、図7）を挙げた一方、看護学科ではこれに加え「相手の意見を丁寧に聴く力」「自ら行動する力」「社会のルールや約束を守る力」など多くのスキルを身につけている認識があることがわかった（図8）。また、成長を感じられたきっかけとしては、実習や国家試験が挙げられており、本学が重視することが成長への契機となってい

¹ 高知学園大学・高知学園短期大学の令和6年度入学生（専攻科を除く）を対象として、令和6年4月15日～30日にMicrosoft Formsでのアンケートを実施し、88.7%の新入生から回答を得たものである。

² 『“スマホ時代”の受験生進路モデル』（Studyplusトレンド研究所、2022）<https://www.trend-lab.studyplus.jp/post/20240305>

³ 2021年3月卒マイナビ進学メンバー対象高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査 調査報告書
<https://souken.shingaku.mynavi.jp/home/wp-content/uploads/2021/07/2021年3月実施高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート.pdf>

⁴ 高知学園大学・高知学園短期大学の令和5年度卒業生を対象として、令和6年3月16日～31日にMicrosoft Formsでのアンケートを実施した。

る(図 10)。

② 学生生活～令和 5 年度卒業時アンケートから

学生生活の満足度(5 件法)は、全学科及び専攻科で 95%以上が 5 点満点中 3 点以上を回答しており、大きな満足感を得て卒業している(図 11、図 12)。

「学友や同じ道を志す仲間は得られたか」の質問に対しては、95%以上は「たくさん」または「ある程度」得られたと回答しており、短大がネットワーク作りの場として機能していることがわかる(図 13)。

本学のよかったところでは、図書館、実習環境、キャリアサポートについて、昨年同様、高い評価となった。学食、学園祭などのイベント、自習環境は昨年よりも高いポイントとなっている(図 14)。これは、令和 5 年 5 月に新型コロナウイルス感染症の 5 類移行が実施されたことに伴い、学内の仕組み等に変更を行ったためと考えられる。

一方、本学の改善すべきところとして、昨年に続き、過半数が「トイレ」を指摘している(図 15)。また、「校舎」「PC・インターネット環境」も 3 割以上が改善すべきとしており、これらについては何らかの対策を検討する必要がある。

③ ICT 関連の施策について(情報企画部)

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、これまで発生(または発生疑い)時に学生・教職員を対象として行ってきた詳細な聞き取り調査とメールによる報告について、見直しを行い、症状のある本人についてのみ担当が検査結果を感染症発生報告の共有ファイルに記録し、毎日の集計が評議会の報告ファイルで共有される仕組みへの変更を実施した。このファイルは、コロナ及びインフルエンザについての検査結果と公欠期間が記録されるものであり、全学科の発生動向数の履歴を迅速に把握することができる。

短大の公式 Web サイトについて、経年により現在の Web スタンドにに対応できなくなっているため、新たなシステム(CMS)を導入し、リニューアル作業を実施した。新しいシステムは、全てのページがスマートフォン表示に対応しており、設定した複数のユーザが、ホームページ作成の知識がなくてもサイト内で記事を編集することができる。

④ ICT 関連の令和 6 年度の計画について(情報企画部)

学生募集強化に向けて、デジタルチャネルでの情報発信を強化するために、本学 Web サイトで以下の方策を計画している。

- (1) 記事作成体制を見直し、各学科の担当者及び委員会等に記事作成アカウントを付与した上で、それぞれの部署でイベント等の記事を作成、情報企画部で公開を承認するものとする。
- (2) IR 推進室で実施している各調査の結果について、再編集し、公開する。
- (3) GoogleAnalytics(サイトへのアクセス解析ツール)を導入し、その分析に基づいて、ページ構成やリンク構成を見直す。
- (4) サイト内各ページのキーワードとタグを整理し、リンクと関連ページの表示を改善する。
- (5) ソーシャルメディアでサイトの更新情報を発信する。
- (6) 高知学園大学・短期大学としてのブランド強化のために、公式 Web サイトを短大と統一する。(ドメインについては維持する。)

学内のインフラでは、教育 DX の基盤として、Wi-Fi ネットワークを整備する。学内でのノート PC やタブレット活用のための Wi-Fi 利用は、以前より学生からも要望が出ており、令和 6 年度中に、学生が自由にアクセスするための Wi-Fi コントローラを導入し、学内各所にアクセスポイントを設置する計画である(現在文部科学省に補助金を申請中)。

II. 出口の状況(就職及び国家試験)

II-1 就職状況(【資料 2】【資料 3】)

幼児保育学科では卒業生の 65%が保育士、24%が幼稚園・保育教諭、歯科衛生学科では 82%が歯科衛生士、6%が歯科助手、看護学科では 77%が看護師、3%が養護教諭で、学科の主目的とする職に就いている。また、専攻科については、全員が看護師または保健師として就職している。

学生の進路についての満足度は高く(図 1)、進路指導・サポートについての教職員の対応も学生から非常に高く評価されている(図 2)。

① 取り組みの成果と現状

- ・就職支援に関しては、大学・短大共にキャリアセンターで一人一人と面談をし、就職委員と事務局が連携をして進路指導を行った。
- ・進路支援に必要な求人情報の収集、周知、履歴書・ES の添削、面接指導(入退室)、お礼状文章指導などを日常業務として行った。
- ・進路先のデータ化(調査等で必要なため)
- ・就職活動が困難な学生については、カウンセリング委員と情報共有をし、個々に必要な支援を行っている。

- ・各学科で履歴書書き方指導、就職説明会、就職セミナー等、年1回実施している。
- ・卒業生からの相談に応じて就職支援として、情報の公開、求人の方針。
- ・取り組みの成果として、14年連続100%の就職率⁵。

令和5年度就職状況

学科	卒業生数	就職希望者数	就職決定数		その他	
			県内	県外		
幼児保育	56	53	53	51	2	進学 1、家庭 1、(就職を希望しない) 1
歯科衛生	35	26	26	26	0	家庭 1、(就職を希望しない) 8
看護	65	42	42	24	18	進学 21、(就職を希望しない) 2
地域看護	21	21	21	13	8	—

※進学状況：幼児保育学科(1)：東京未来大学

看護学科(21)：専攻科地域看護学専攻(20)、四国大学(1)

② 令和6年度の計画について

- ・SPI(適正検査)等、適性試験の対策強化として、過去の試験内容の情報提供、参考書の貸し出し、必要であれば、県内の公務員試験内容にあるクレペリン検査の実施指導を行う。
- ・次年度に向けて受験学生からの就職試験内容の聞き取りを強化する。
- ・就職情報のIT化では、ポータルサイトでの周知を行う。
- ・就職委員と事務局が連携して情報共有をし、進路支援に取り組んでいく。
- ・就職活動が困難な学生については、担任・学科長との連携を図り、職業訓練、若年者サポートセンターの利用も考える。
- ・早期化が進む就職活動に対して、学生の就職に対する早期意識付けを行い、各学科で就職委員をはじめ、学科長、担任、事務局が連携し学生への指導にあたる。

II-2 国家試験結果と令和6年度国家試験対策

① 歯科衛生学科(歯科衛生士国家試験)

➤ 第33回歯科衛生士国家試験(令和5年度)新卒

	受験者数	合格者数	合格率(%)
全国	—	—	92.4
高知学園短期大学	32	28	87.5

(参考)

関西女子短大	73	68	93.2
梅花女子大学	68	66	97.1

➤ 令和5年度取り組みの概要

- ・3年次7月：歯科衛生士国家試験問題集・・・自主学習
- 10月～：教員作成テキストの配布
業者模擬試験の実施(10,11,1月)及び随時、模擬試験の実施
- 1月：グループ分けと教員によるグループ別指導
- 2月：グループ指導と国試最終対策

➤ 令和6年度の取り組み(令和5年度の反省から)

- ・歯科衛生士国家試験問題集についての説明を加える。
- ・基礎教科(解剖学、生理学等)についての対策強化
- ・10～12月に教員の指導を増加

② 看護学科(看護師国家試験)

➤ 第113回保健師国家試験(令和5年度)新卒

	受験者数	合格者数	合格率(%)
全国	—	—	87.8
高知学園短期大学	63	59	93.6

⁵ 就職希望者数に対する就職決定数の割合

(参考)

高知県立大学	79	79	100.0
高知大学医学部	55	55	100.0
国立高知	39	38	97.4
幡多高看	23	23	100.0
龍馬学園	59	47	79.7

➤ 令和5年度取り組みの概要

ア. 令和4年度国家試験の状況を分析（全国平均を下回った）

- i. 模擬試験回数の結果をチューター共に検討としたが、実習や授業で不在が多く、上手く機能しなかった。
- ii. 3年生の実習中、実習が無い期間が有効に活用できていなかった。
- iii. 模擬試験の結果を分析できる学生は良いが、振り返る力が少ない学生は、自己評価が高く、モチベーションを上げる動機づけにならなかった。
- iv. (A~E 5段階の内) D, E ランクの学生の個人指導が行き届かなかった。
- v. 現役の留年生は1人だけであったが、学内の平均点 70 点 GPA が 2 前後の学生が、不合格であった。3 年での卒業に無理があったかもしれない。

イ. 令和4年度状況からの令和5年度の取り組み

- i. チューター制を前期、後期で担当者を決め、実習での教員不在を失くした。
- ii. 3 年生前期の実習中、実習が無い時にも登校し、過去問題を配布し、取り組んでもらった。
- iii. 模擬試験の回数を 5 回から 7 回に増やし、細目に分析し、学生の振り返りを促した。
- iv. 12 月からは模擬試験の結果から、A~E までの学生を午前中、DE ランクの学生を午後から学内の専任教員が各領域で集中講義を実施。講義内容は国家試験担当者が決定。講義を実施した。
- v. 10 月の模擬試験の結果、D, E ランクの学生の保護者に連絡し、国家試験の取り組みに対して協力依頼を行った。
- vi. 学生のモチベーションを上げる為、国家試験前 100 日からカウントダウンカードを学生が作成し、登下校時に目につきやすい場所に掲示した。

➤ 令和6年度の取り組み（令和5年度の反省から）

- ・ 1 年生からの国家試験への動機づけ
 - 国家試験についての概要説明
 - 解剖生理学ワークブックの作成、配布
 - 前期試験結果についての保護者面談
- ・ 各学年の定期試験成績確認
- ・ 各学年の模擬試験
 - 1 年＝低学年用の業者試験の実施
 - 2 年＝各学期末（全 2 回）
 - 3 年＝4, 5, 9, 10, 12, 1 月（12 月、1 月は各 2 回）
- ・ 各学年長期休暇期間の課題学習
- ・ 外部講師（東京アカデミー）による集中講義
 - 2 年次後期末
 - 3 年次 11 月

③ 専攻科地域看護学専攻（保健師国家試験）

➤ 第 110 回保健師国家試験（令和5年度）新卒

	受験者数	合格者数	合格率 (%)
全国	—	—	97.7
高知学園短期大学	21	21	100.0

(参考)

高知県立大学	—	—	100.0
高知大学医学部	—	—	100.0
徳島文理大学	—	—	96.0
四国大学	—	—	91.7
飯田短大専攻科	—	—	100.0
藍野大短大部専攻科	—	—	100.0

大和太白鳳短大部専攻科	—	—	100.0
-------------	---	---	-------

- 令和5年度取り組みの概要
 - ・学習進度に合わせた国家試験対策：前期の授業科目の進行に合わせた国試問題の解答・解説
 - ・苦手分野科目の克服と学習意欲の高揚：外部講師（東京アカデミー）による領域別の講義と、学内集中講座の実施（1月）
 - ・グループダイナミクスの活用：クラス内の協力体制の確立（学生同士の確認し合い）
 - ・習熟度を考慮した学習の実施と個別面談（全3回）
 - ・全国模試の実施：後期に全4回
- 令和6年度の取り組み（令和5年度の反省から）
 - ・模擬試験の追加
 - ・外部講師（東京アカデミー）の集中講義開催時期の変更：1月→12月
 - ・学内模試でのマークシート活用

Ⅲ. 今後の方策について

☆大学運営のベースとなる考え方 利益＝売上高－コスト（売上高を増やし、コストを減らす）

Ⅲ-1 売上高の増加：学生数、志願者数の増加

高校生や保護者から「選ばれる大学」になるために、学校としての「売り」（魅力：価値ある独自性）の再構築を図る。

〔具体策〕

- (1) 教育内容の充実
 - ・各学科の特色ある教育内容の企画・展開
 - ・各学科での留年率、休学率、退学率の減少の解決策の検討。
 - ・学科横断的な健康教育の推進（健康教育の授業の教育内容の精査とカリキュラムの検討）
 - ・FD活動の活性化による個々の教育能力の向上
- (2) 教員の研究活動の活性化
 - ＝研究の質と量を高めることが授業力を向上させ魅力の発信につながる。
 - ・教員の紀要等への投稿の推進
 - ・研究倫理教育の充実
- (3) ICT環境の整備によるICT教育の推進
 - ・ICT教育関連機器やTeamsなどを活用した授業の実施
- (4) 就職先の確保・開拓
 - ・「就職率100%」の継続 ←教職員による組織的・継続的な援助
- (5) 高知学園の総合学園としての強みの活用
 - ・高等学校との高大連携事業の再構築
 - ・専門職大学との教育的環境と人材の交流
- (6) 広報活動の強化
 - ・HPの充実
 - ・進学ガイダンスへの積極的参加
 - ・オープンキャンパスの再構築
 - ・入試の再点検

◎「入口戦略」の一環として、(1)～(5)を確実に進めながら、(6)で本学の魅力を積極的かつ効果的に情報発信を行っていく。

Ⅲ-2 コストの削減：経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の再点検

- (1) 1(1)の一環としての教員人事の再構築
- (2) 大学・短大として必要な施設・設備・備品の見直し
- (3) 1(3)による事務手続きの効率化とペーパーレス化の推進

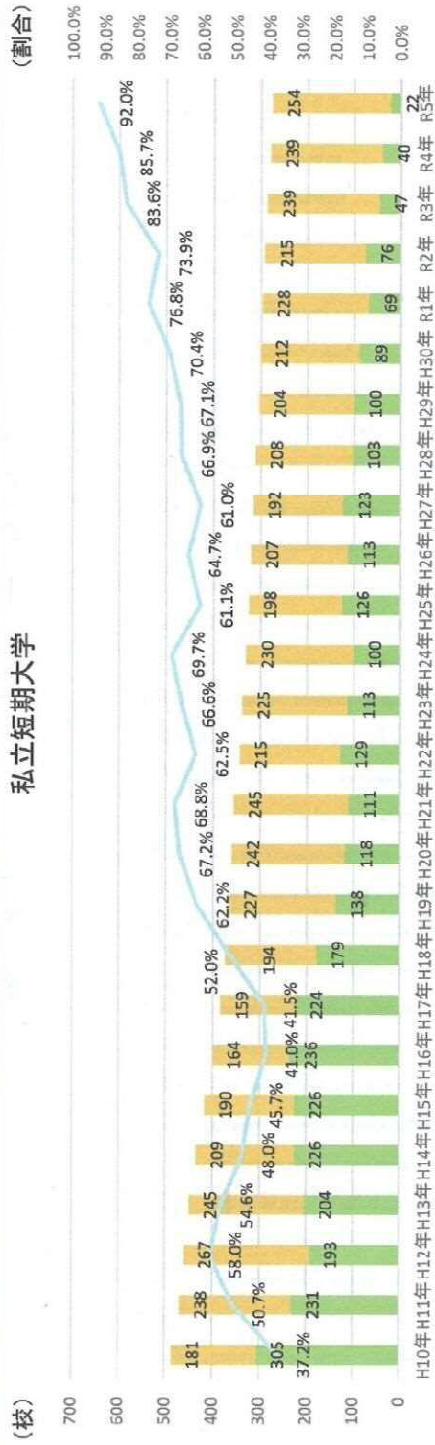
◎大学全体、学部・学科・専攻科、各事務局、さらには教職員一人一人が連携しながら進めていく。限られた予算の中で、どこに何を重点的に配分していくことを経営計画に基づき展開していく。

【喫緊の課題】（文部科学省からの指摘事項（大学））

- ① 収容定員未充足の改善 1を実施
- ② 教員組織編制の将来構想（高齢教員の多さの改善） 1(1)および2(1)を実施

【資料1】令和6年度私立短期大学協会春季定期総会資料より

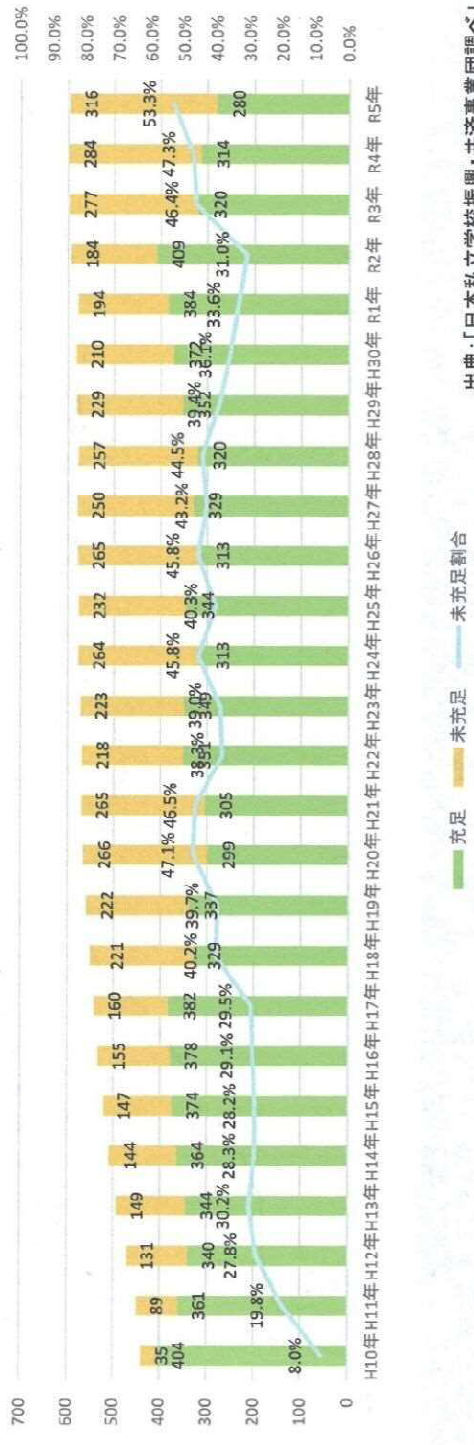
私立短期大学の入学定員未充足状況 (学校数)



(割合)

(参考)私立大学

(校)



出典:「日本私立学校振興・共済事業団調べ」

【資料2】

卒業時アンケートの結果（抜粋）

図 1 進路についての満足度評価：学科別平均

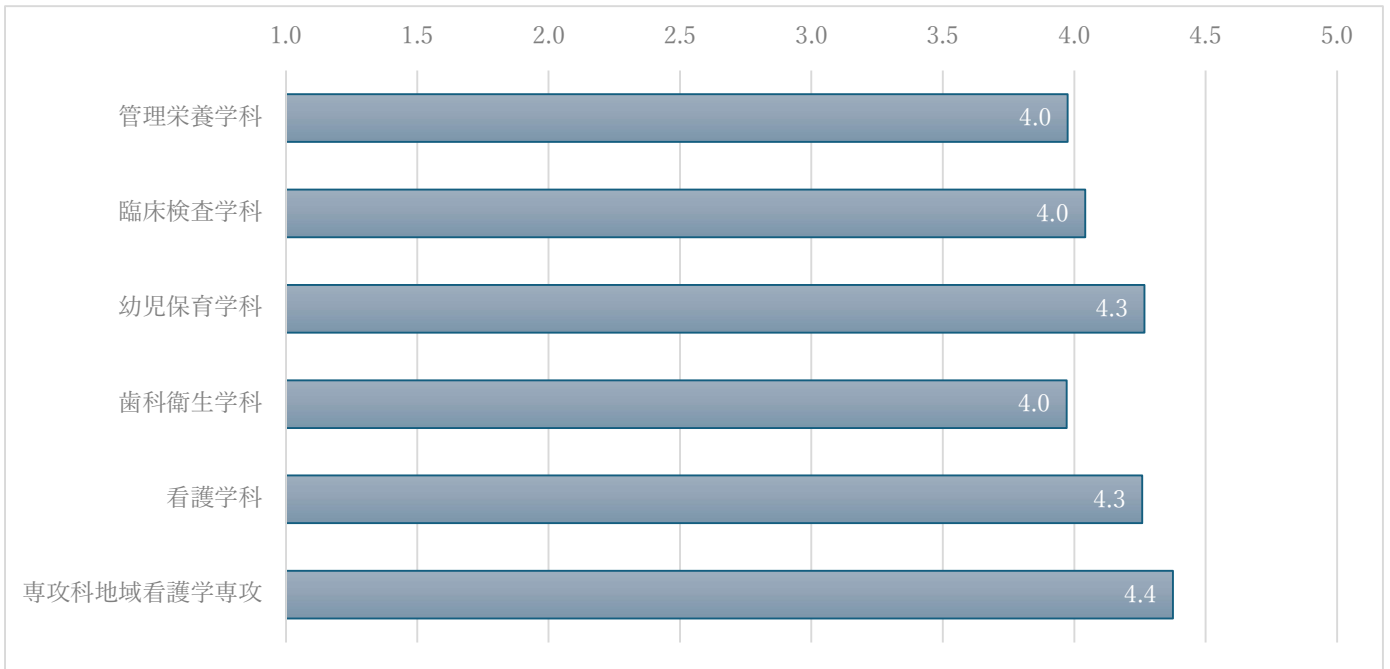


図 2 進路指導・サポートについての教職員の対応：学科別平均

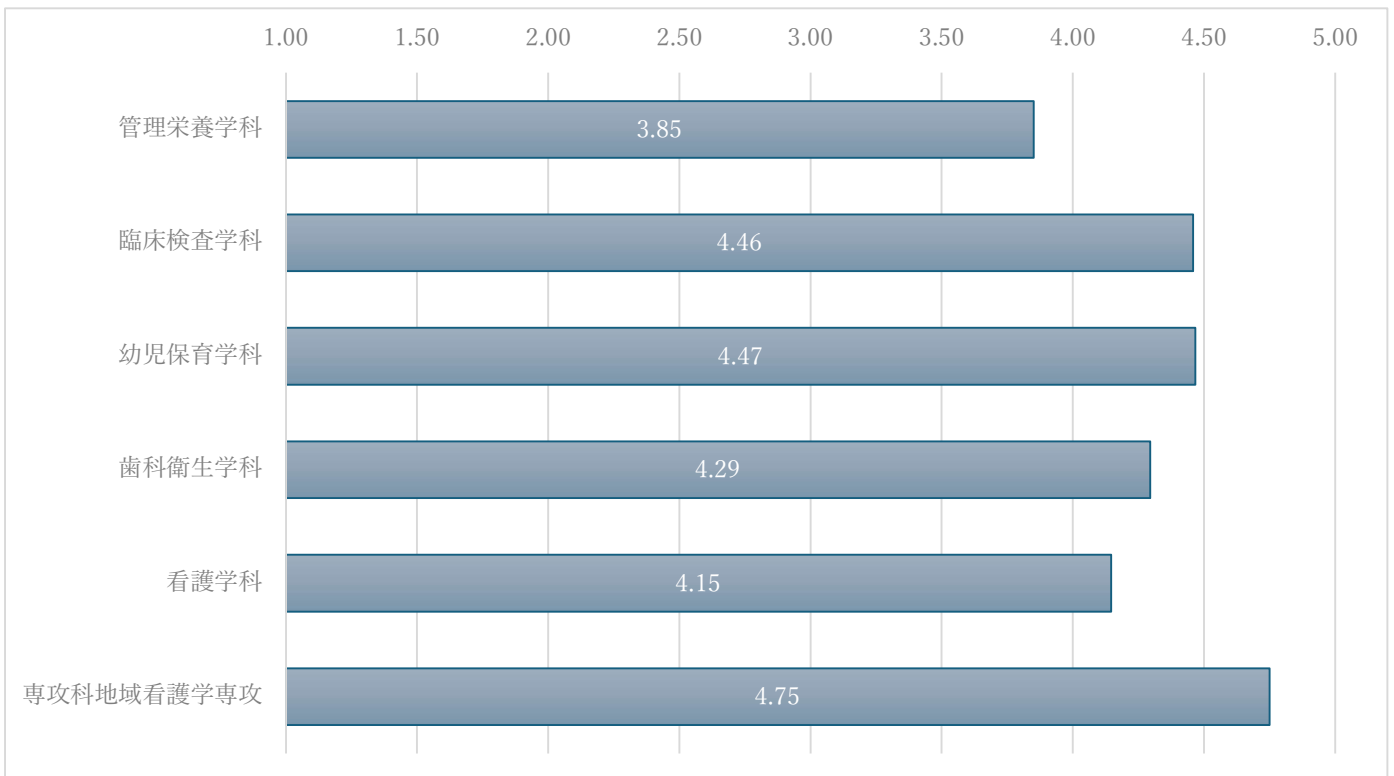


図 3 教育目的と学習成果：学科別平均

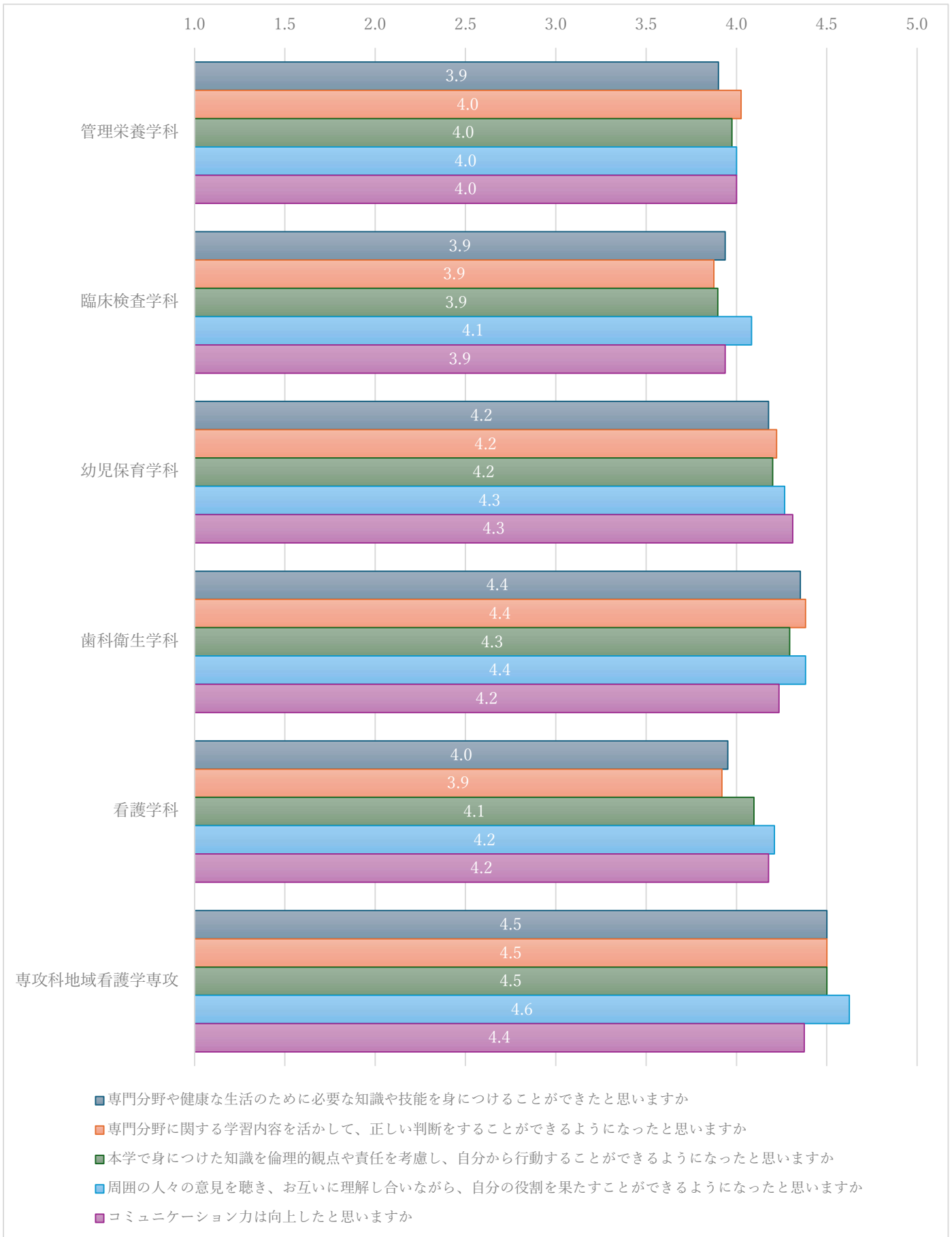


図 4 在学期間中、身についたスキル：管理栄養学科

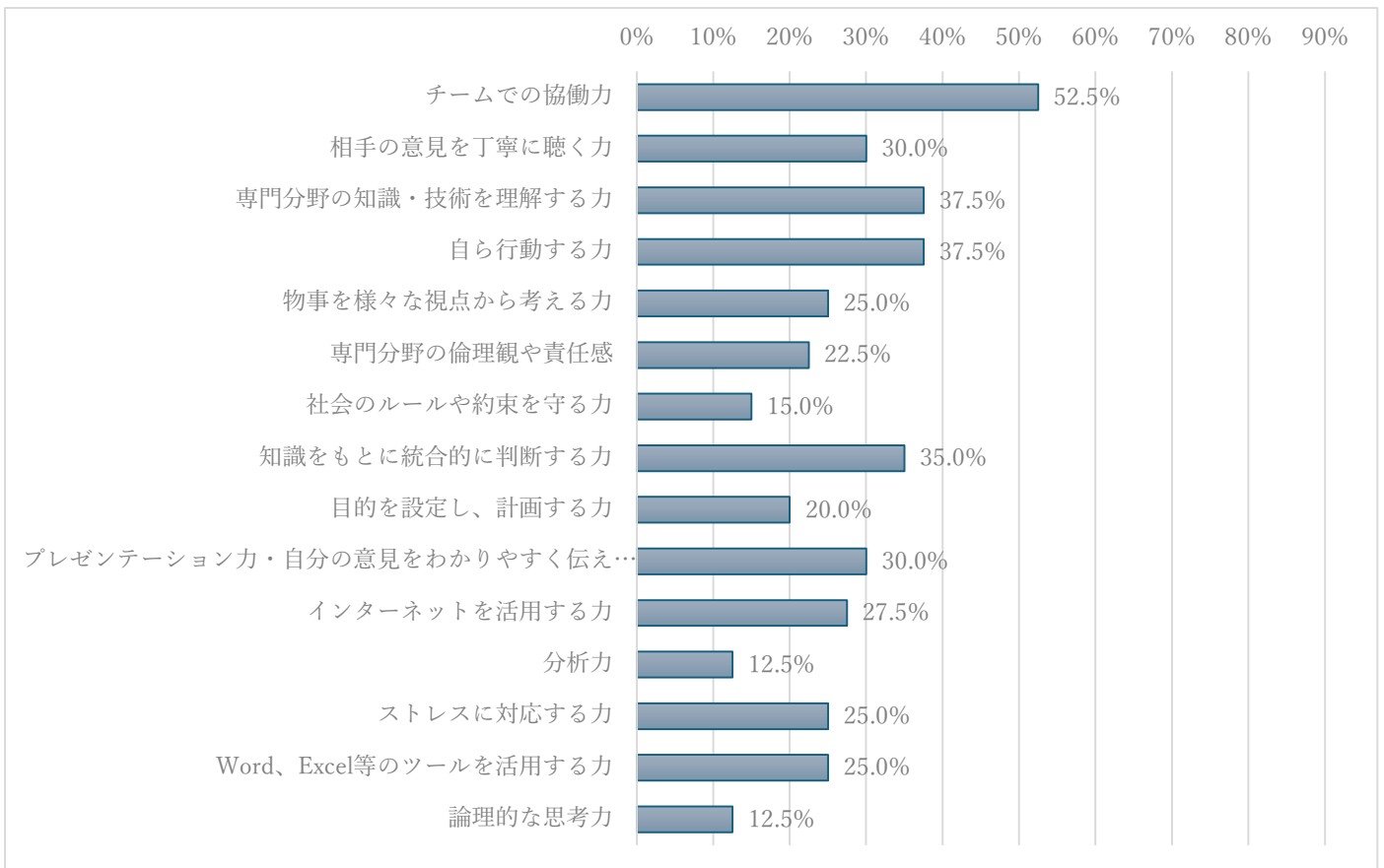


図 5 在学期間中、身についたスキル：臨床検査学科

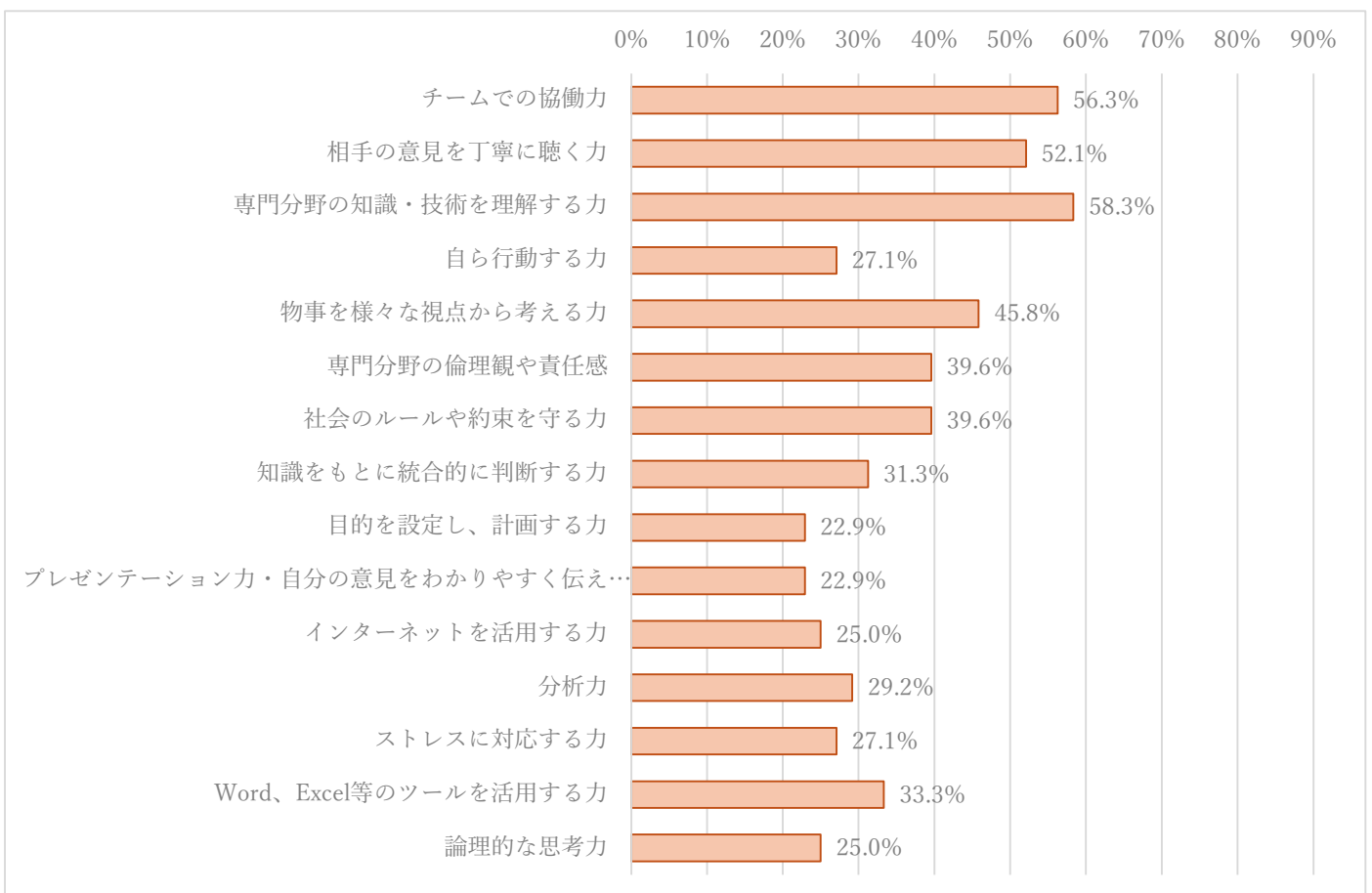


図6 在学期間中、身についたスキル：幼児保育学科

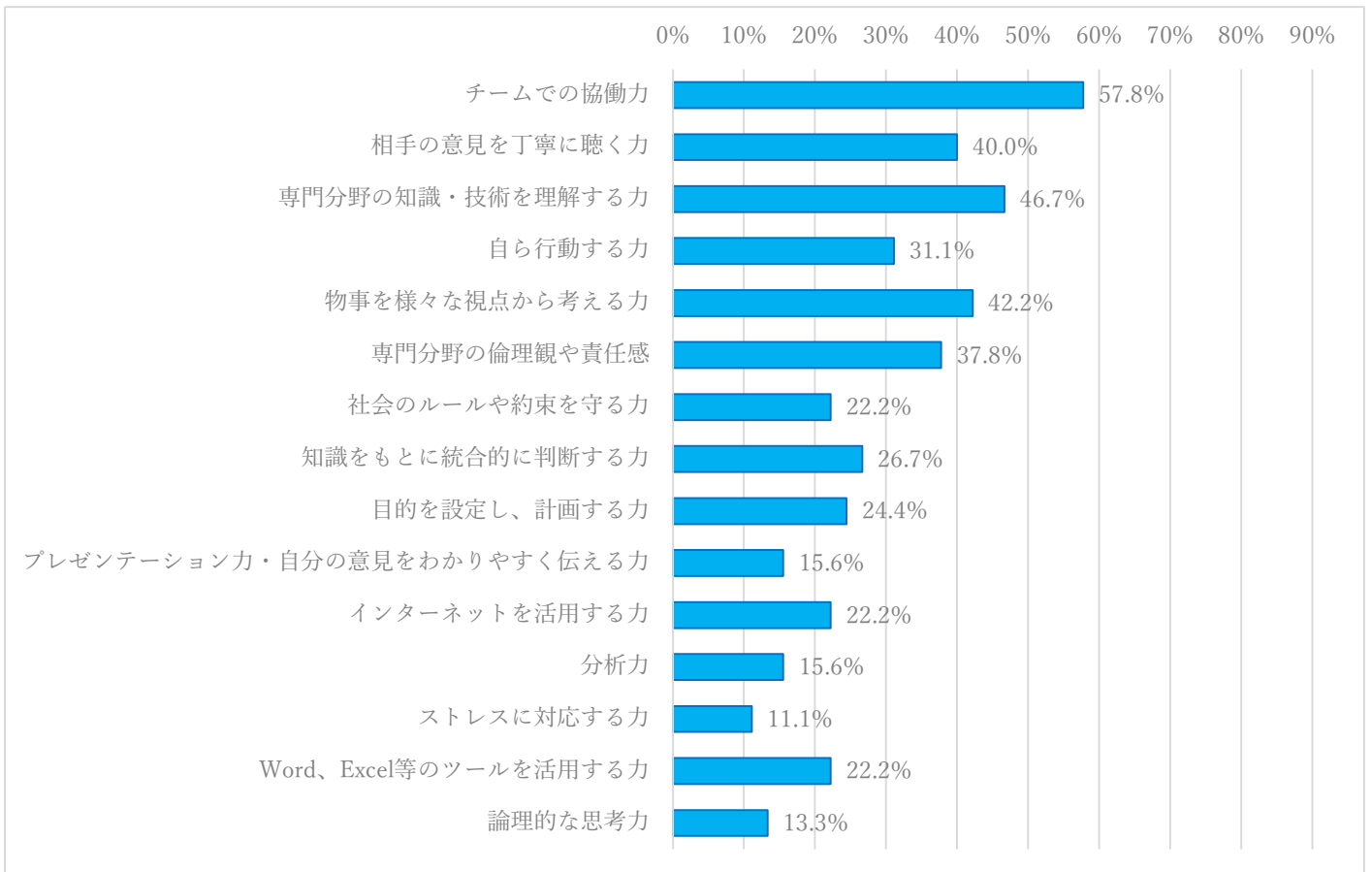


図7 在学期間中、身についたスキル：歯科衛生学科

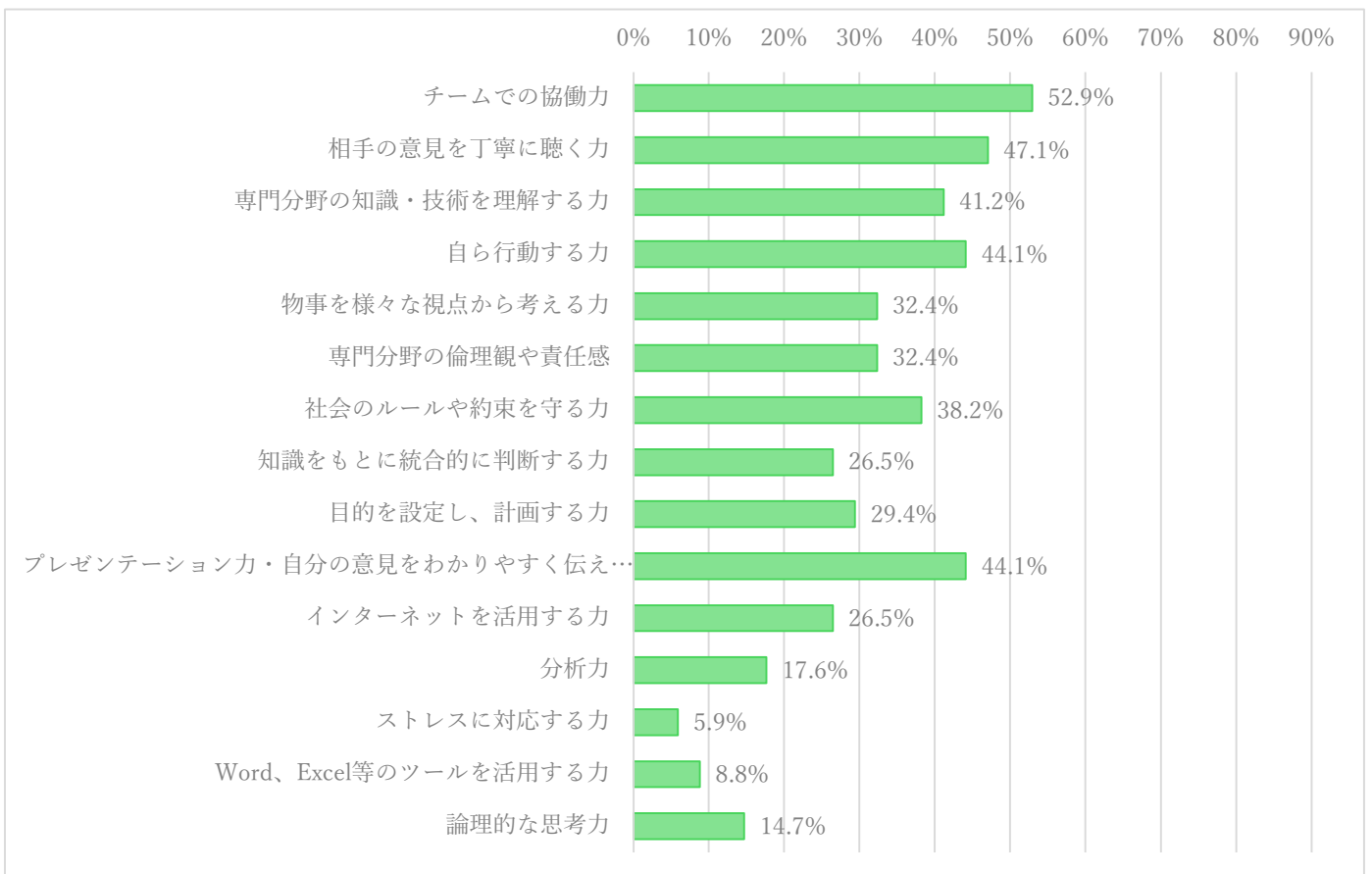


図8 在学期間中、身についたスキル：看護学科

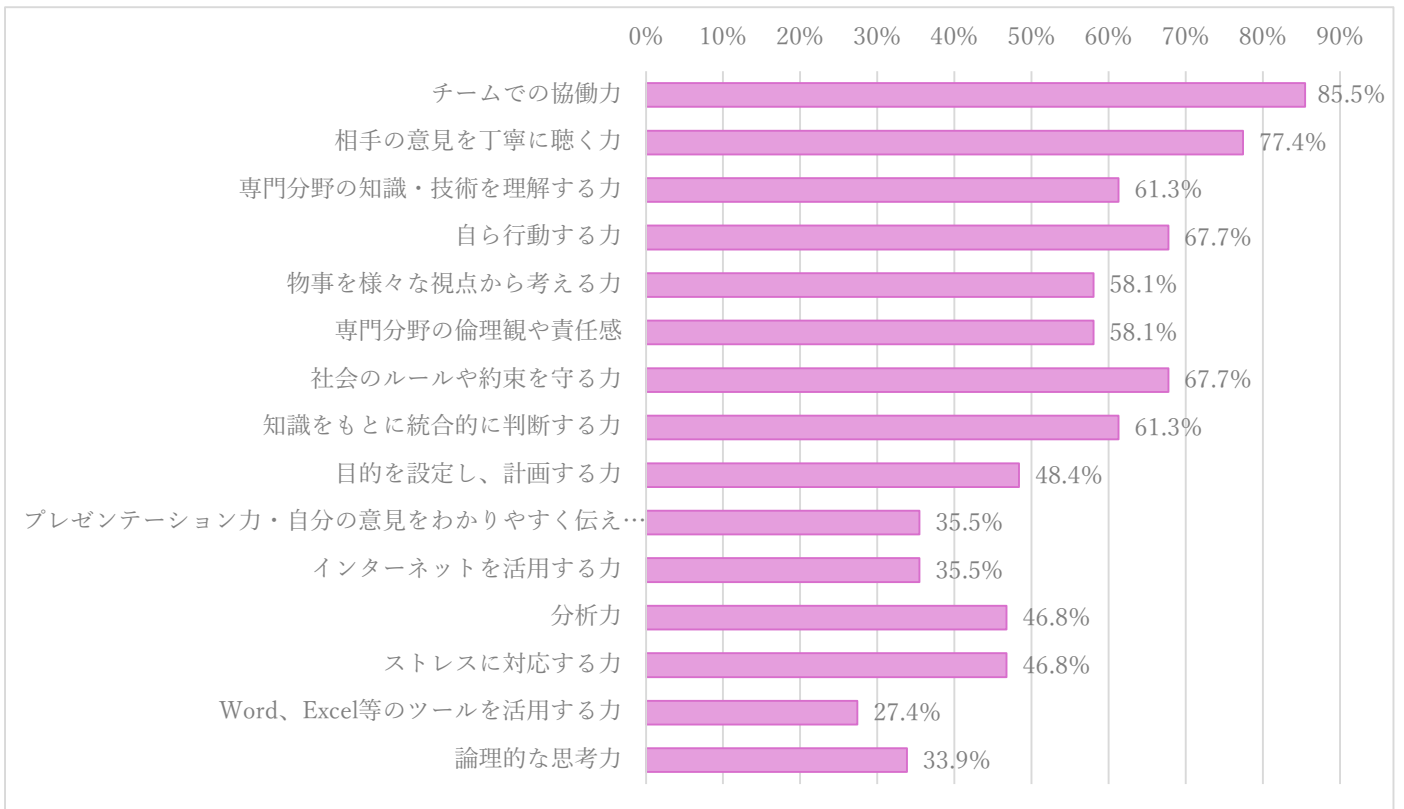


図9 在学期間中、身についたスキル：専攻科地域看護学専攻

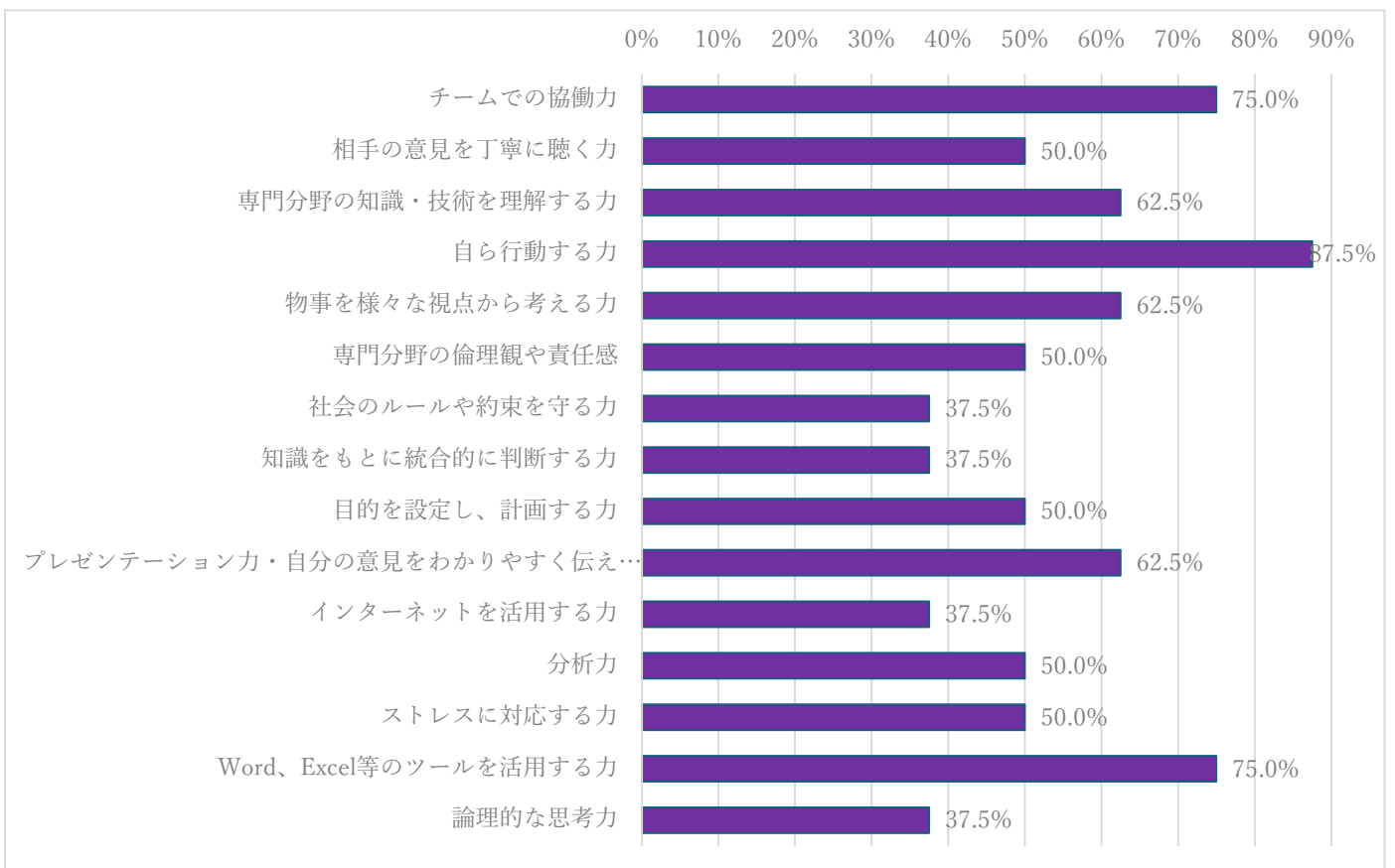


図 10 成長できたと感じられたきっかけ

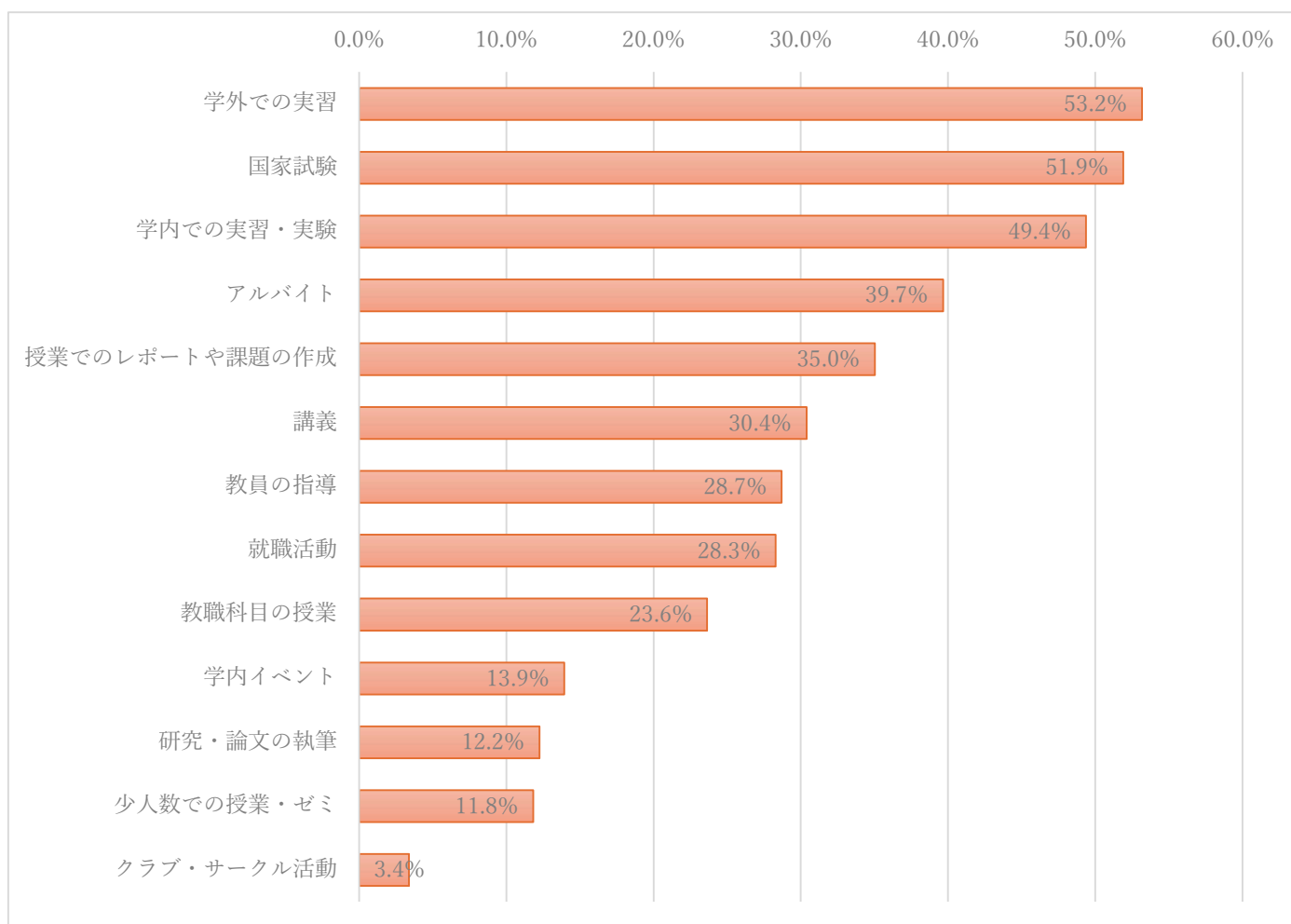


図 11 学生生活の満足度：学科別平均

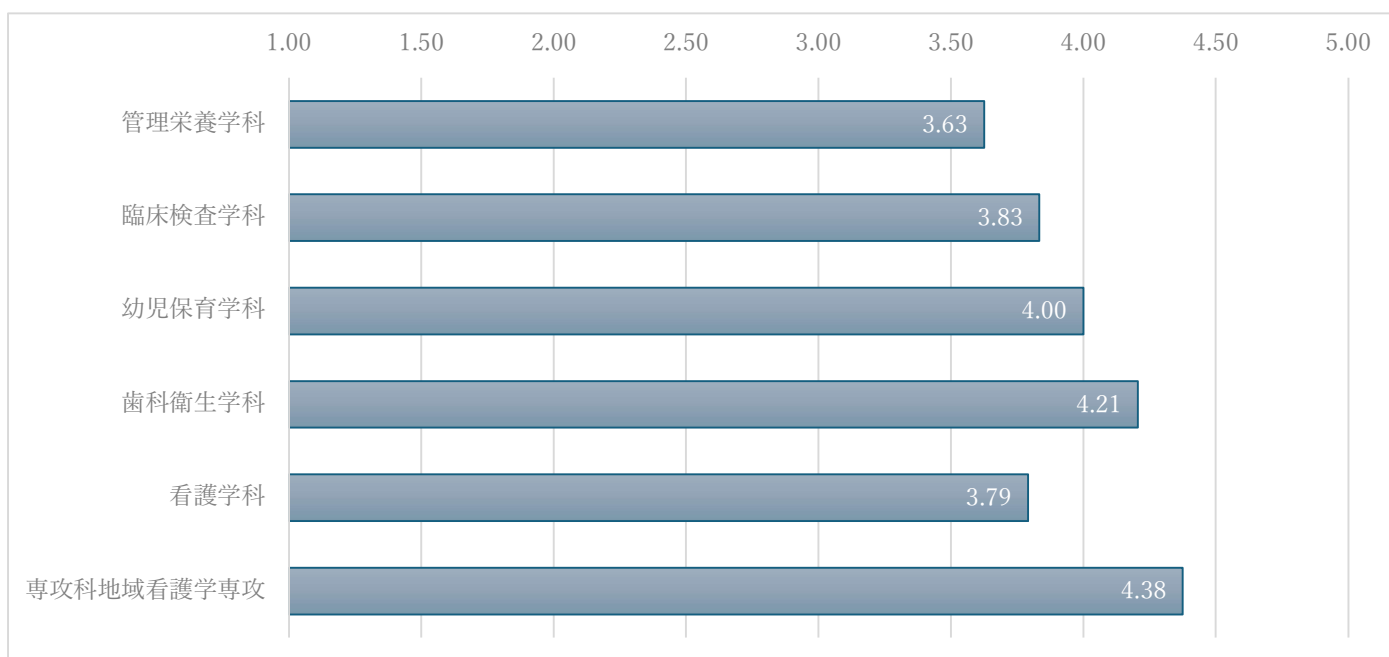


図 12 学生生活の満足度：学科別詳細

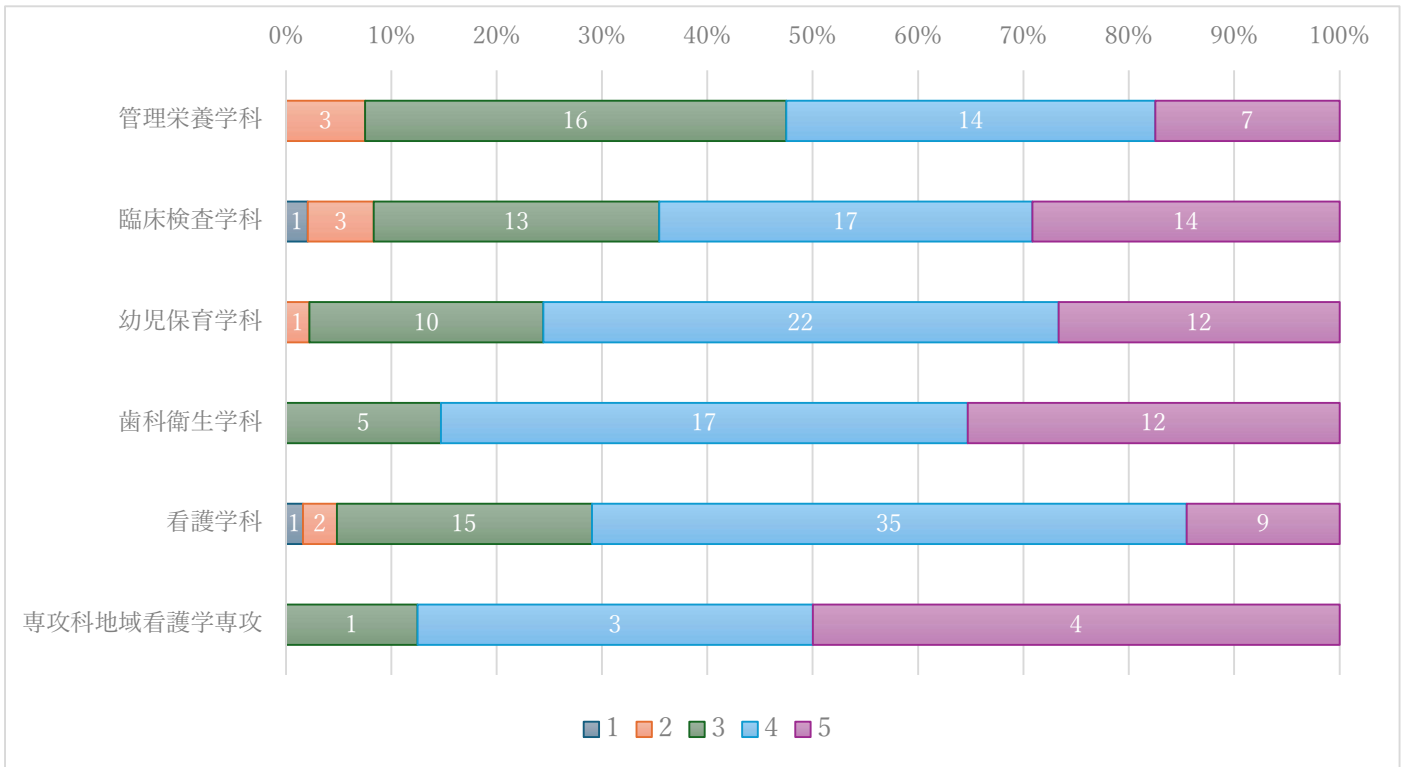


図 13 学友や同じ道を志す仲間は得られたか：学科別

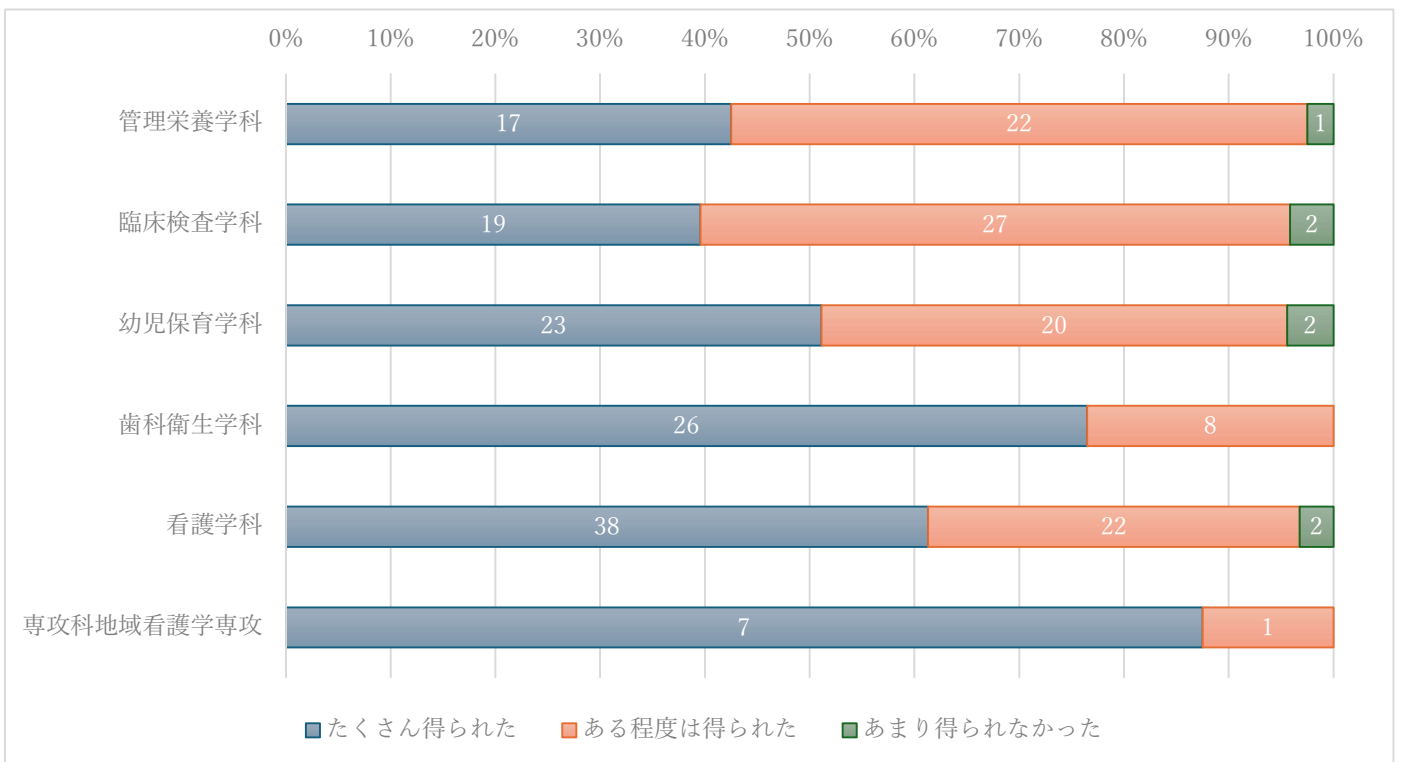


図 14 本学のよかったところ

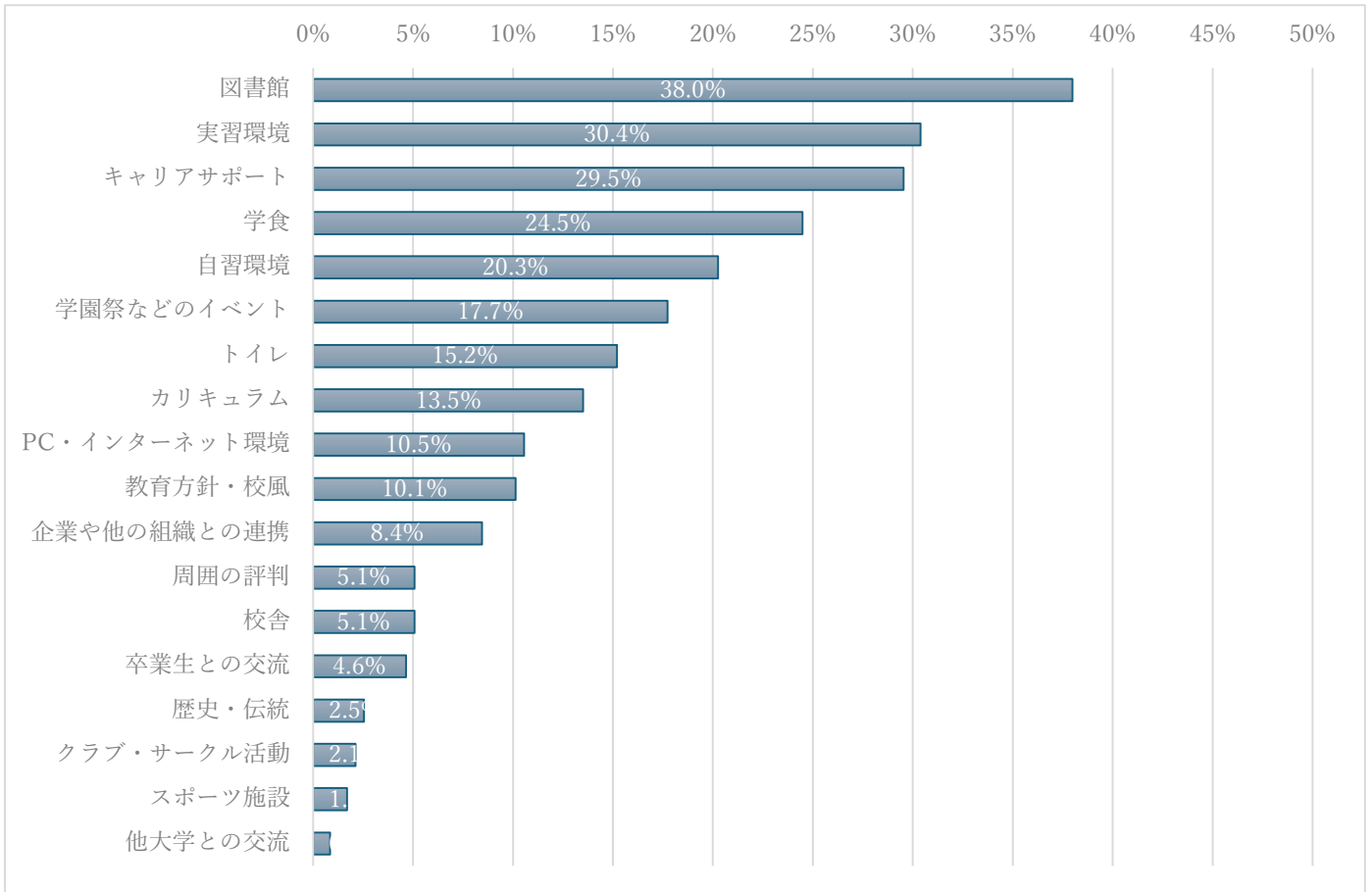


図 15 本学の改善すべきところ

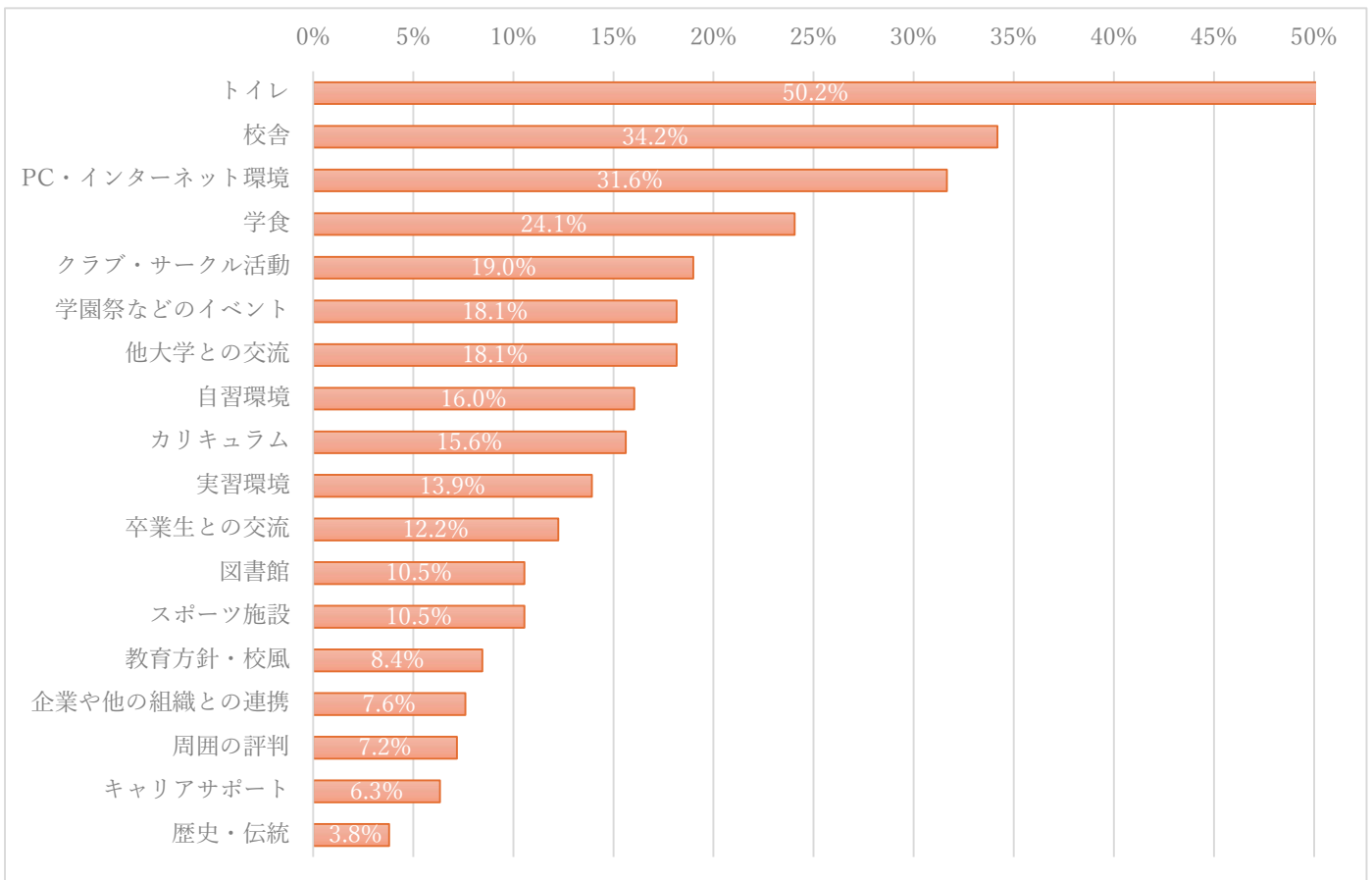


図 16 受験した入試の種類

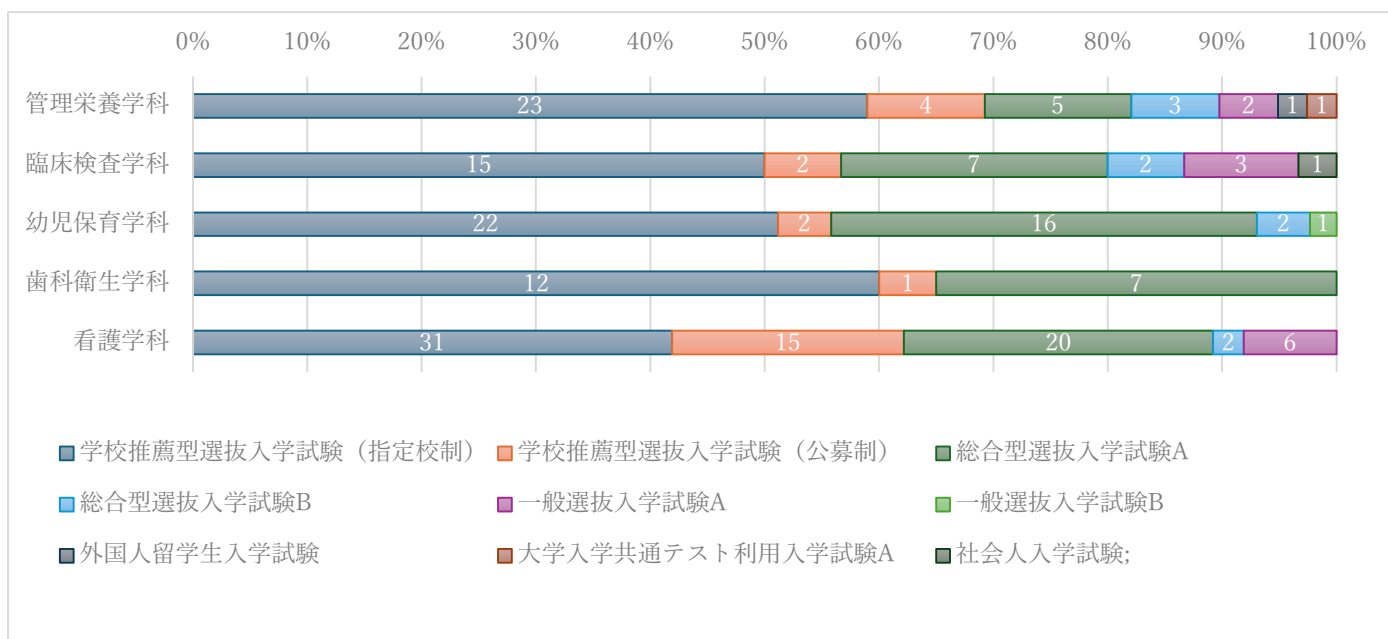


図 17 併願校

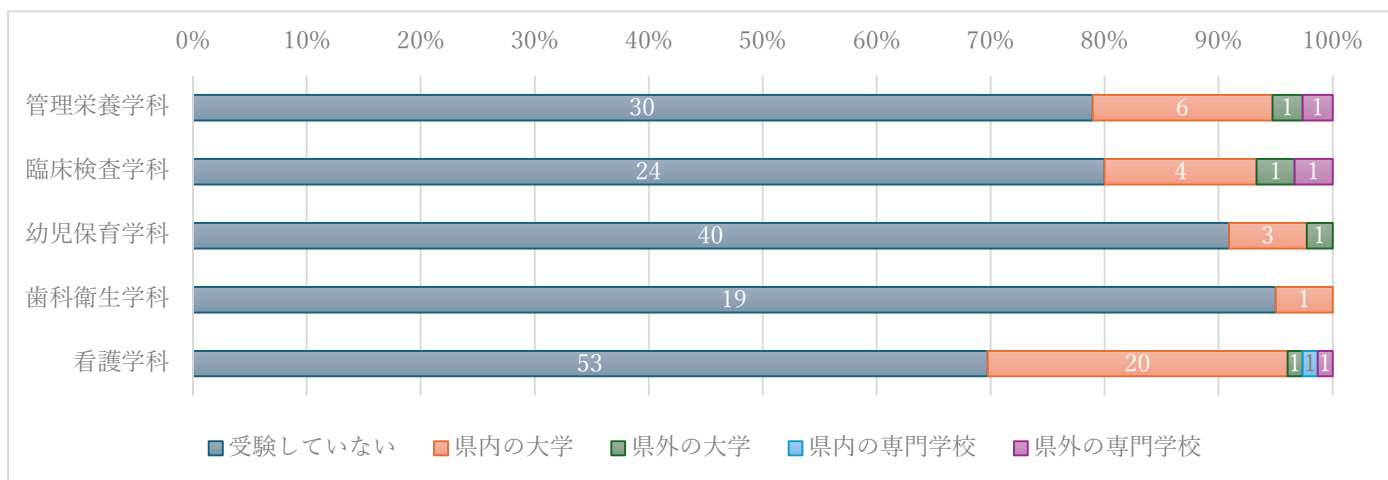


図 18 塾通い

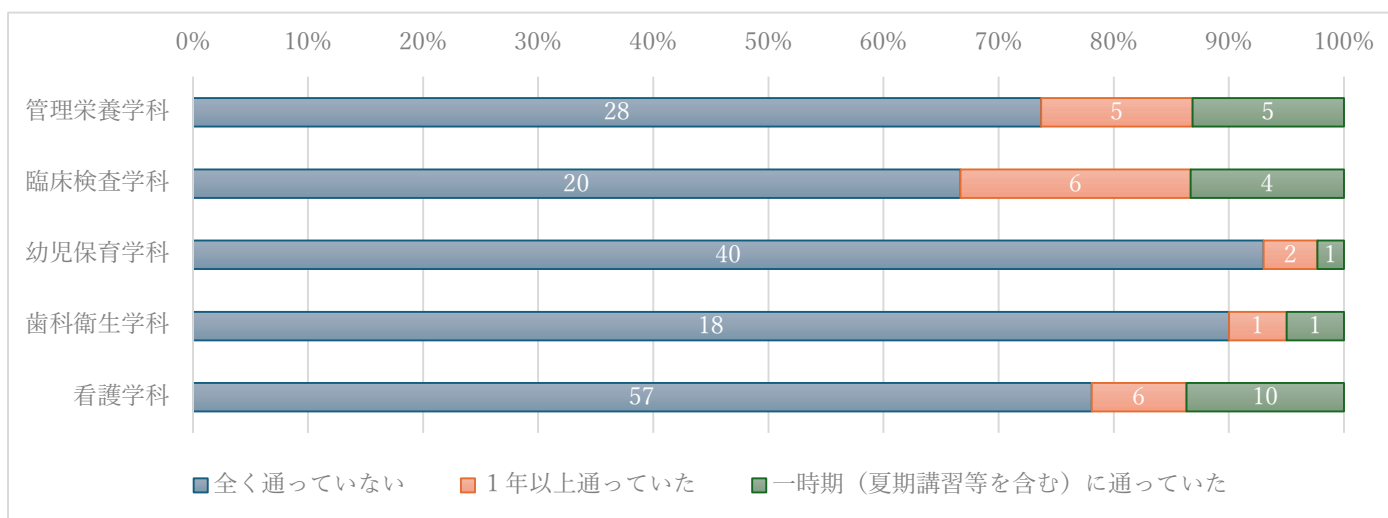


図 19 本学を知った時期

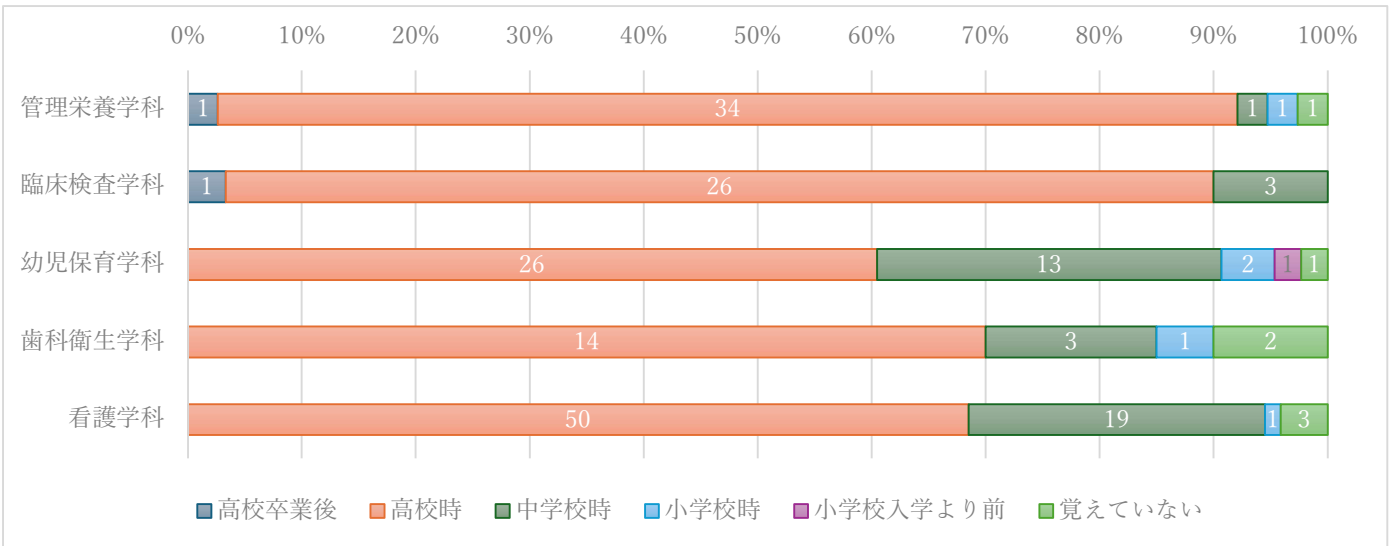


図 20 本学を知ったきっかけ

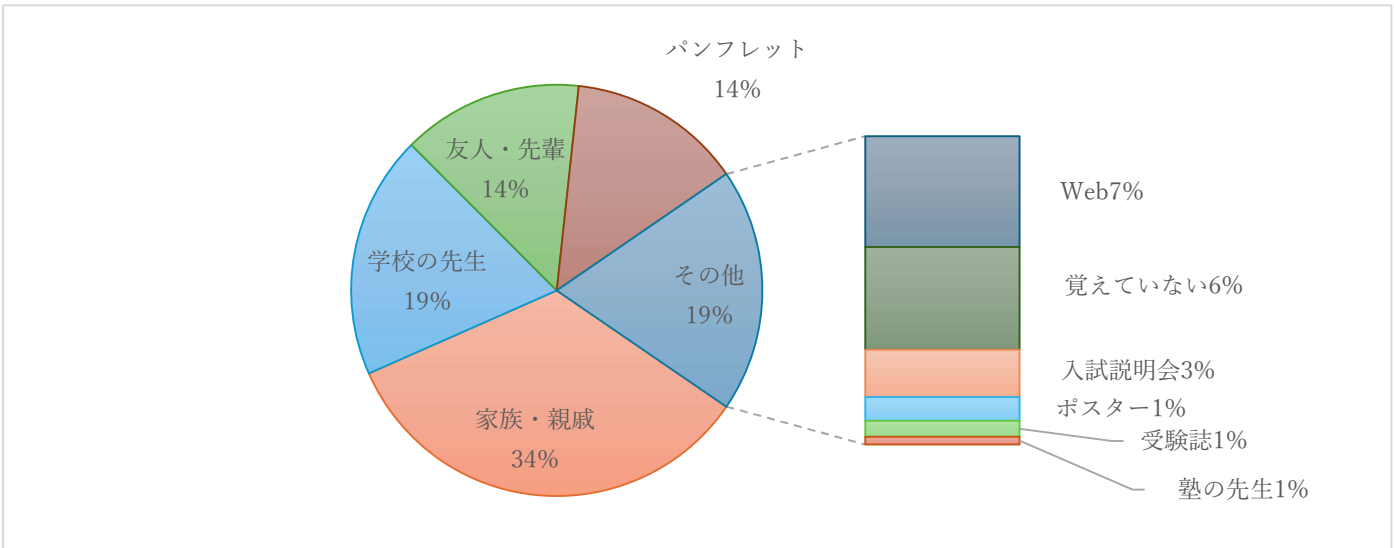


図 21 学科を決めた時期

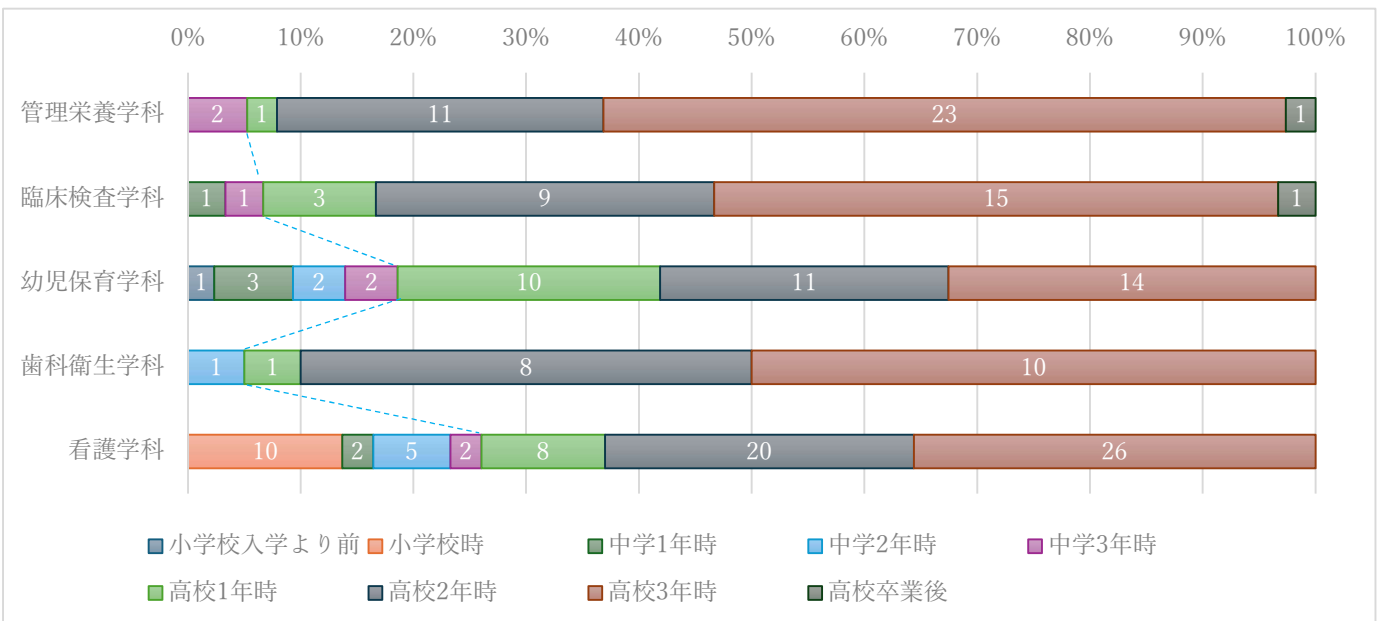


図 22 進学先選びで重視したこと：管理栄養学科

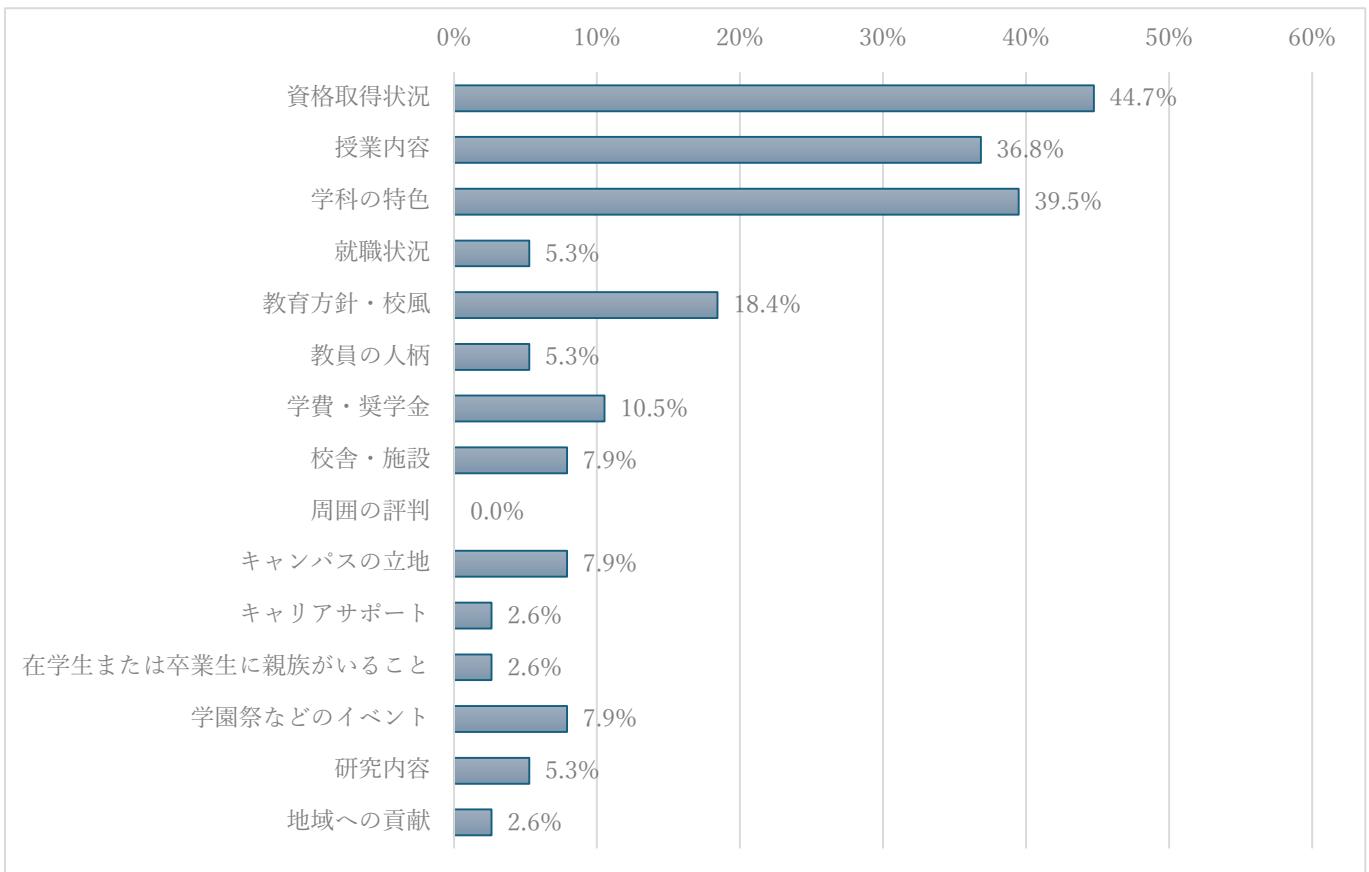


図 23 進学先選びで重視したこと：臨床検査学科

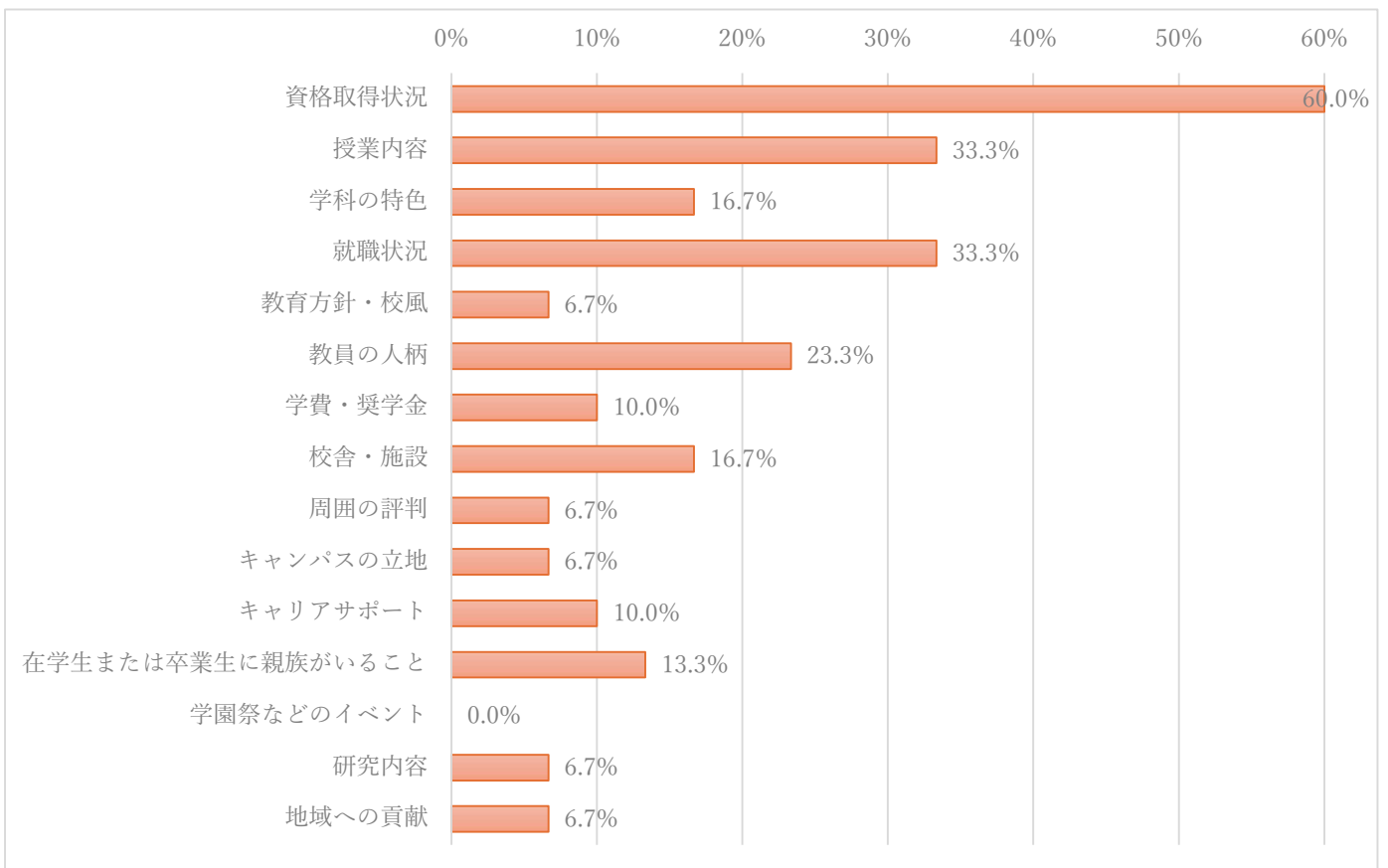


図 24 進学先選びで重視したこと：幼児保育学科

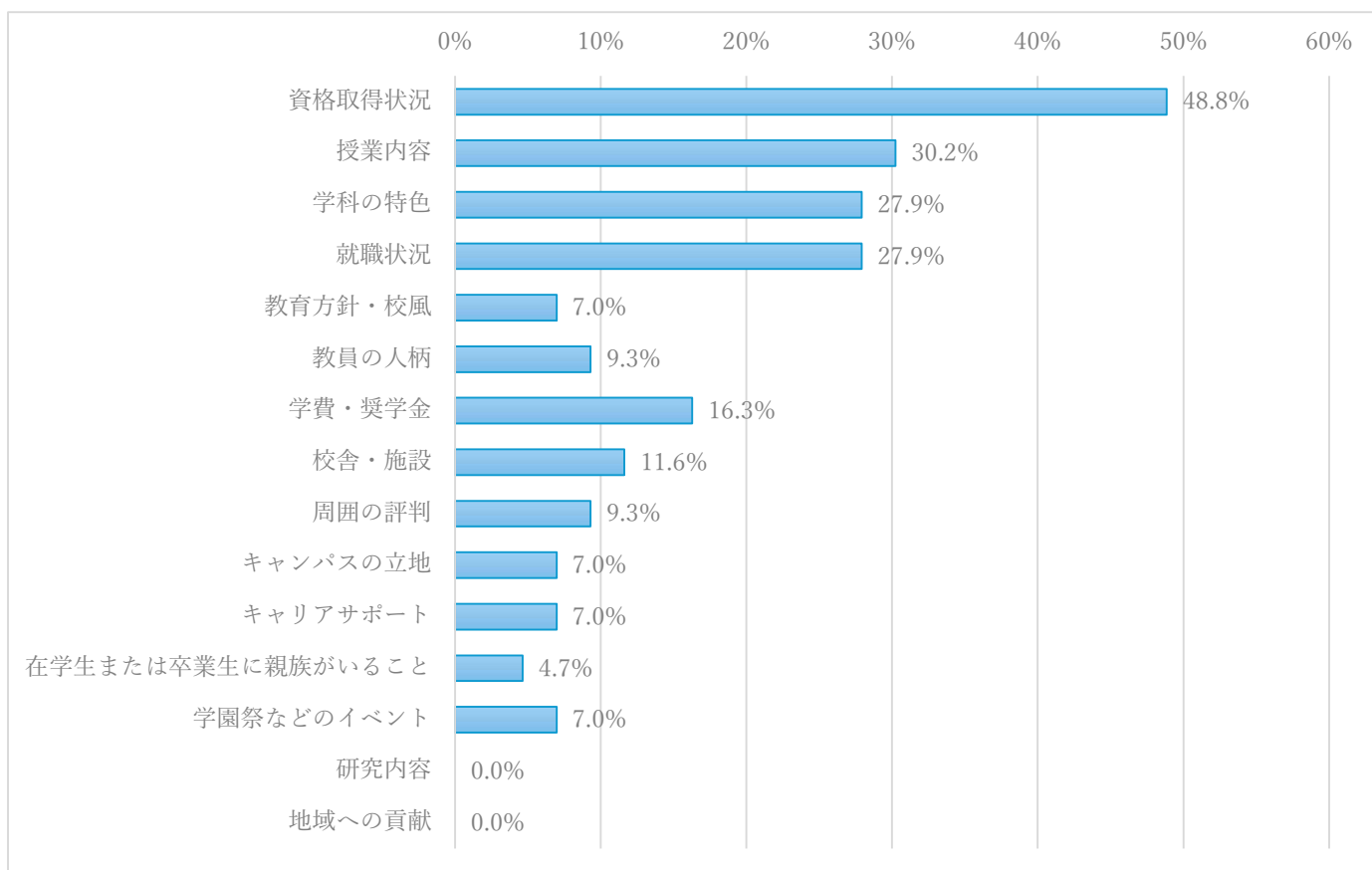


図 25 進学先選びで重視したこと：歯科衛生学科

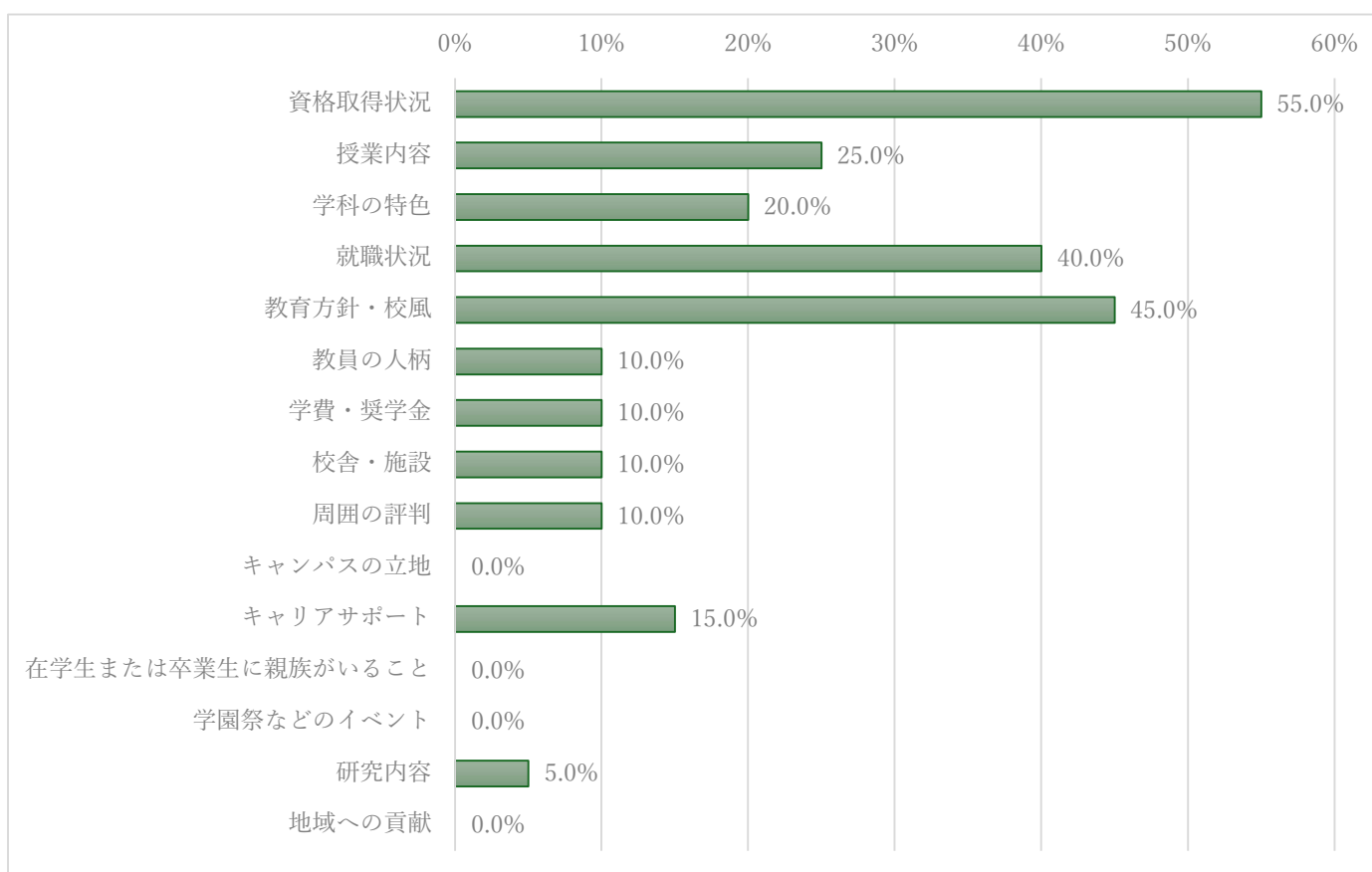


図 26 進学先選びで重視したこと：看護学科

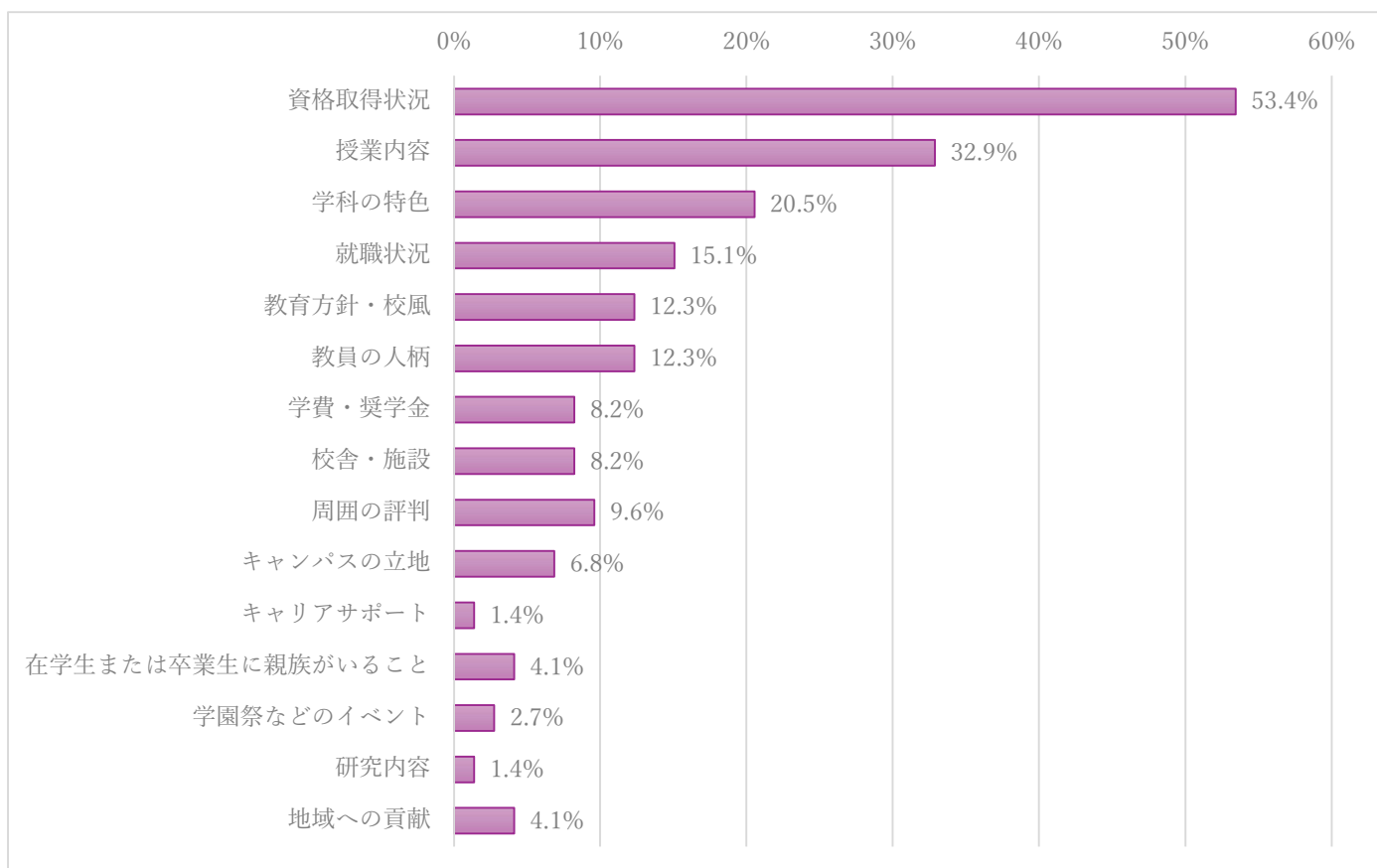
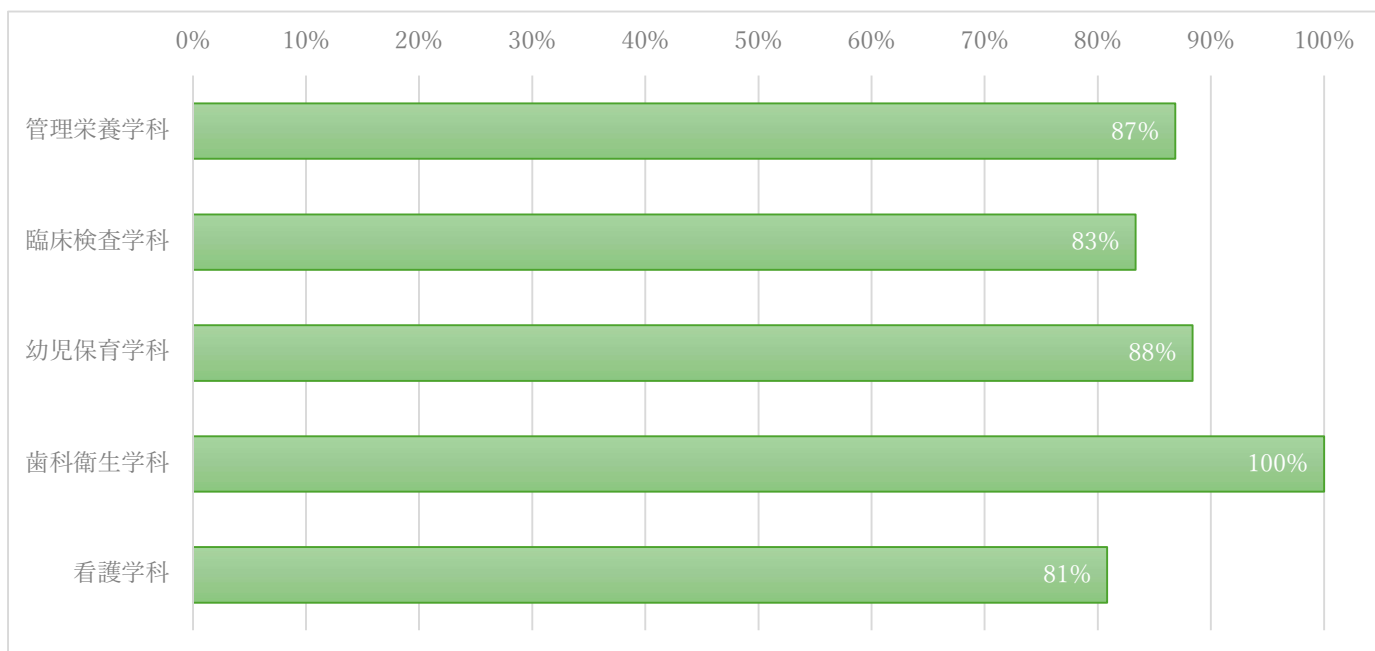
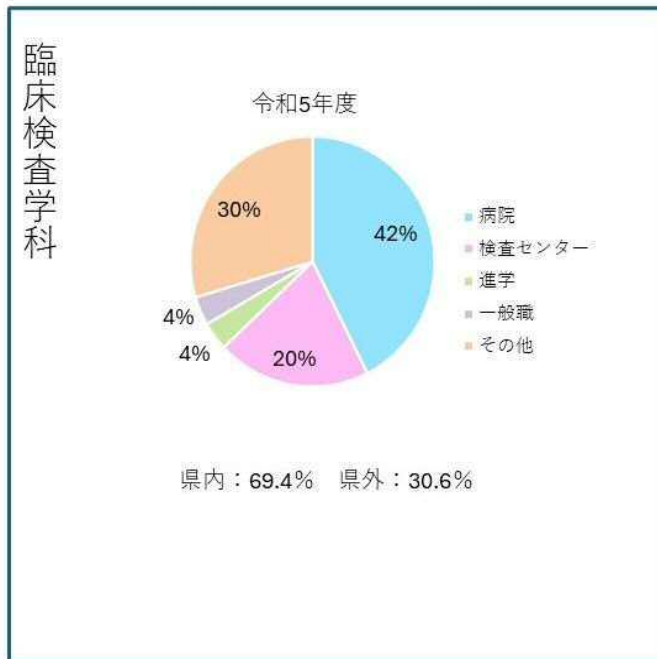


図 27 オープンキャンパス参加率：学科別

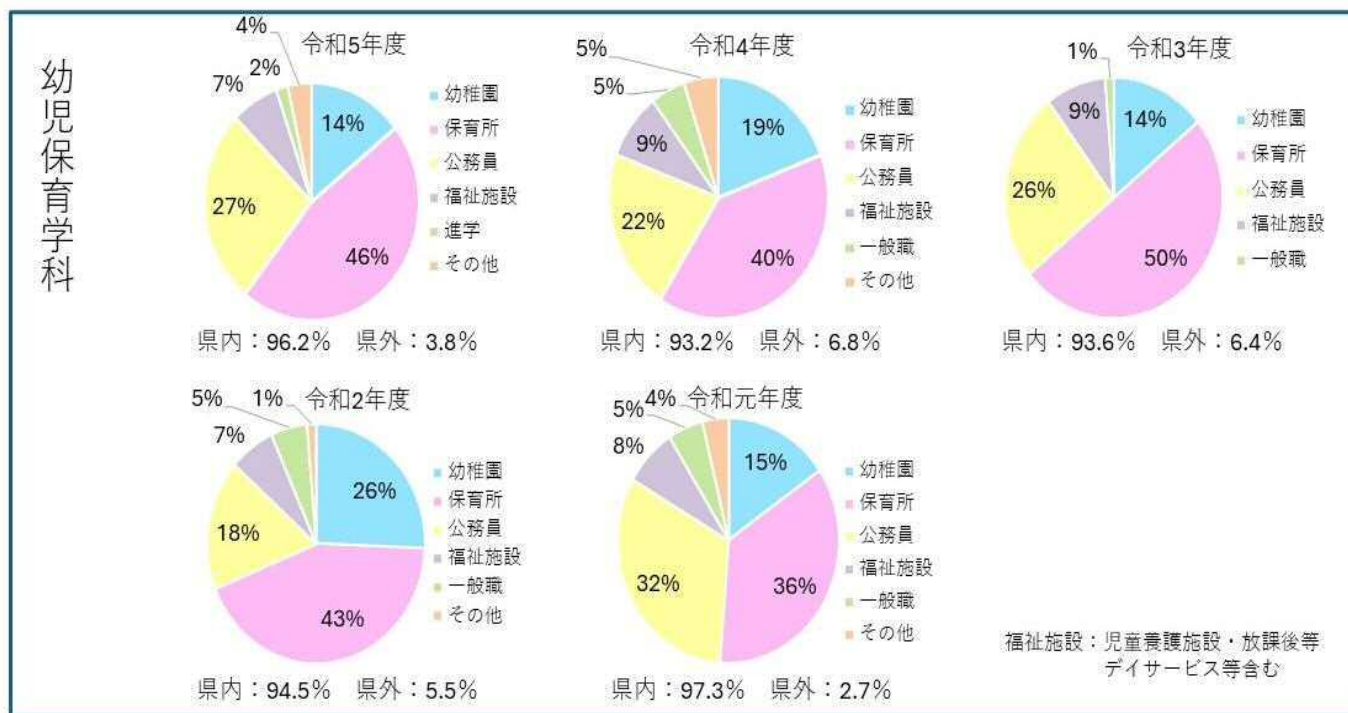


【資料3】進路状況

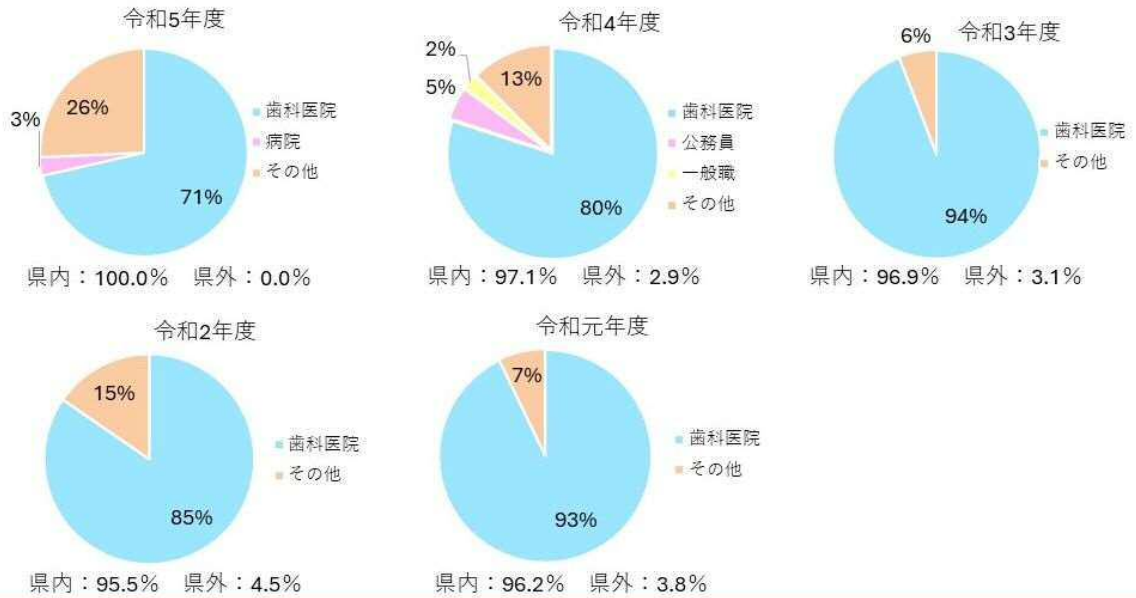
＜高知学園大学＞令和5年度進路状況



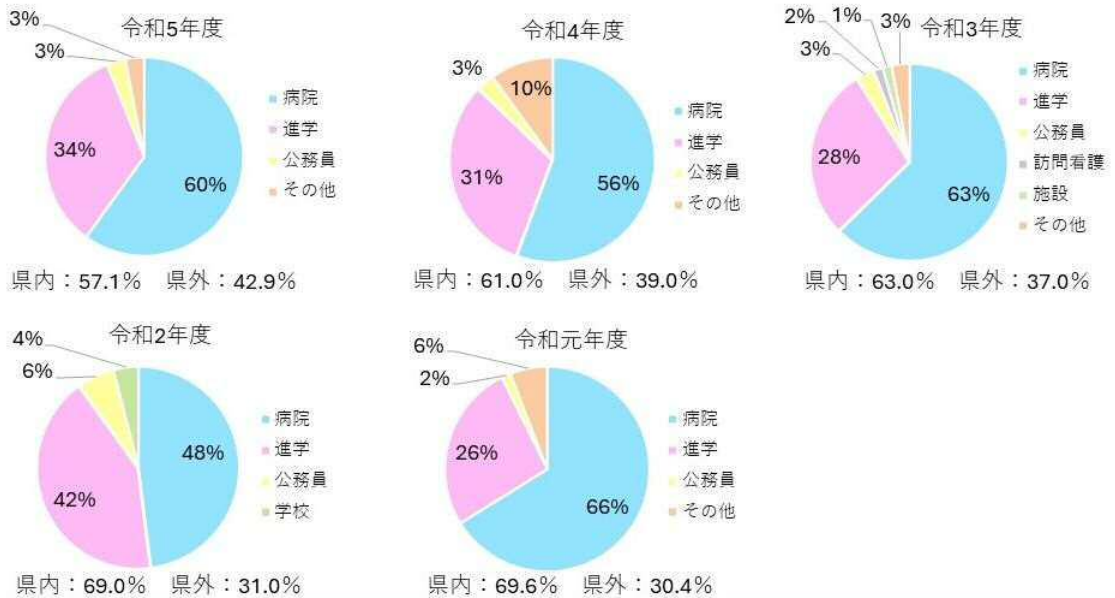
＜高知学園短期大学＞令和元年度～令和5年度 進路推移



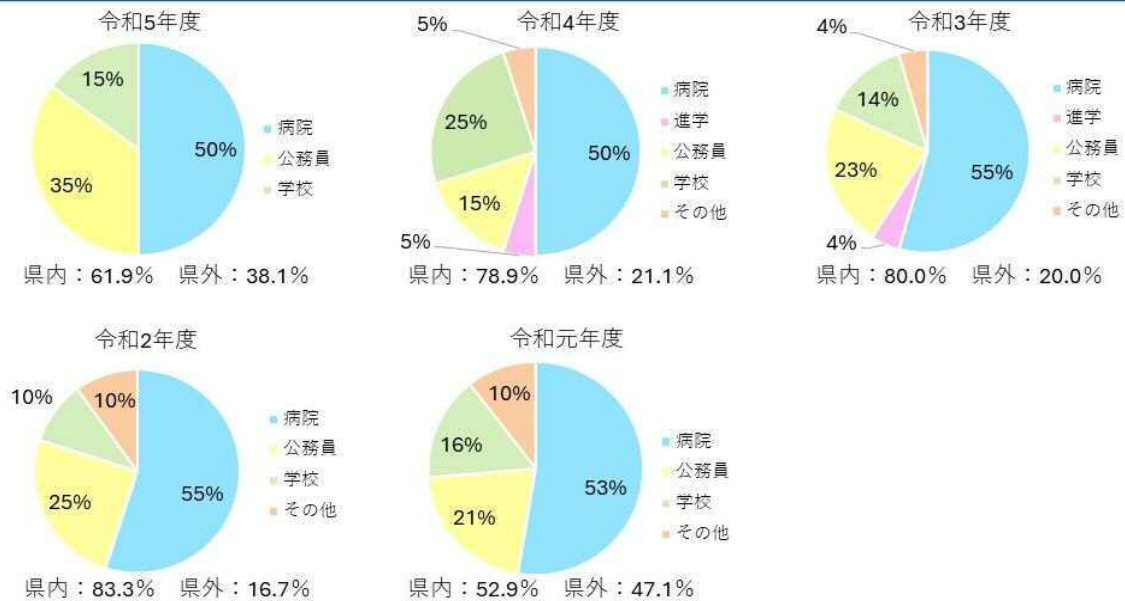
歯科衛生学科



看護学科



専攻科地域看護学専攻



Ⅲ 財務の概要

令和 5 年度決算の概要

(1) 資金収支計算書の状況

資金収支計算書は、当該会計年度（4月1日～3月31日）に行った諸活動に対応する全ての収入と支出の内容、当該年度に係る支払資金の収入と支出のてん末を明らかにするものであり、手持ち資金の増減の原因を分析するものとなっています。

【収入の部】

学生生徒等納付金収入は、前年度に対して59百万円増額の2,084百万円となった。

補助金収入は、国からの私立大学等経常費補助金や高知県からの私立学校運営費補助金などにより、前年度に対して53百万円増額の859百万円となった。

前受金収入は、前年度に対して130百万円減額の418百万円となった。

その他は、減価償却引当特定資産からの繰入収入などにより、△211百万円となった。

前年度からの繰越金1,158百万円を加えて、収入の合計は、4,308百万円となった。

【支出の部】

人件費支出は、定年及び自己都合退職による退職金支出などにより前年度に対して64百万円減額の2,306百万円となった。

教育研究経費支出は、前年度に対して15百万円増額の650百万円となった。

管理経費支出は、前年度に対して10百万円増額の151百万円となった。

借入金等返済支出は、44百万円となった。

施設・設備関係支出は、トイレ改修工事などにより、73百万円となった。

資産運用支出は、減価償却引当特定資産への繰入支出により、106百万円となった。

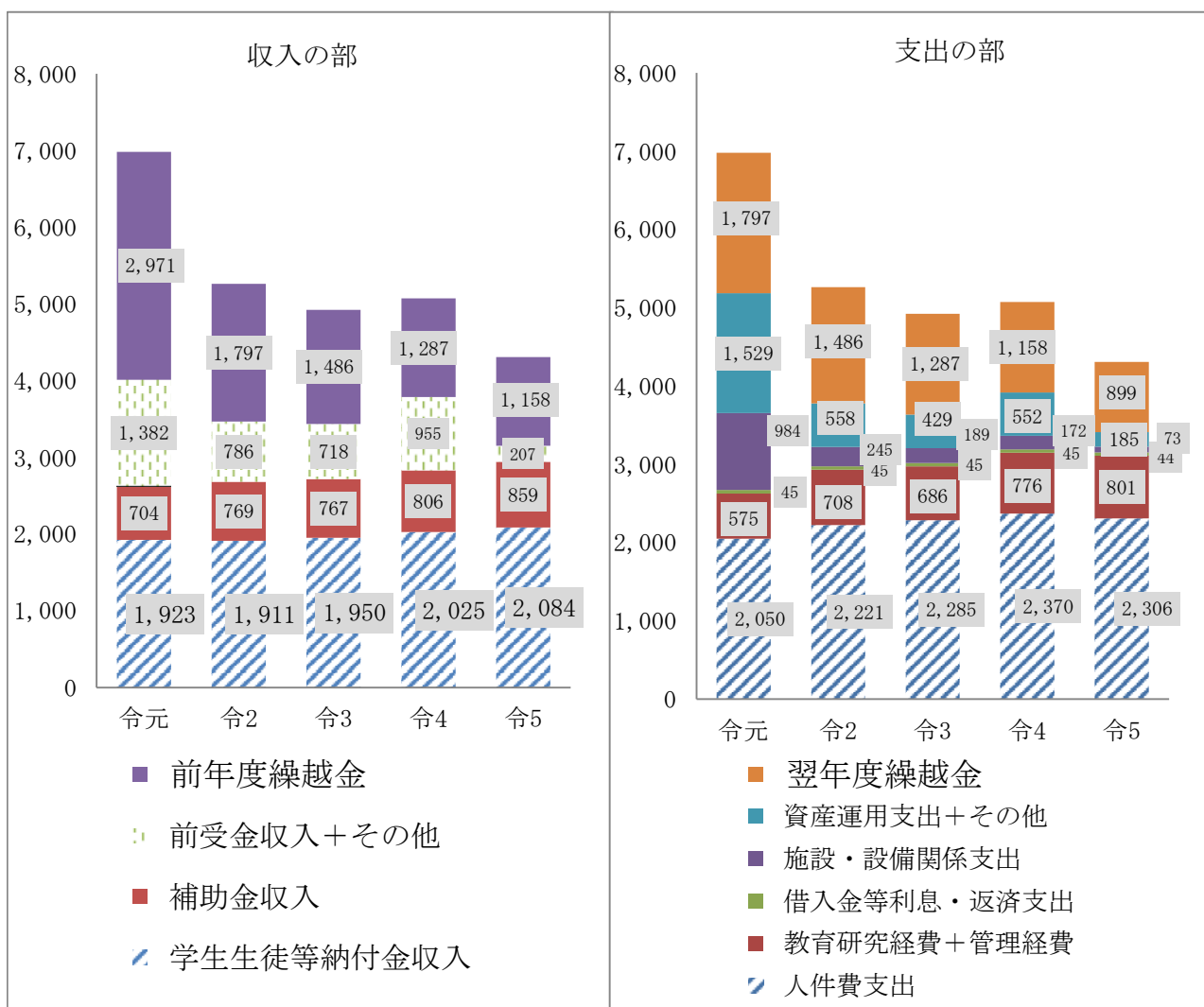
翌年度への繰越金899百万円を加えて、支出の合計は、4,308百万円となった。

令和5年度の資金収支計算書とその経年比較表

(単位：百万円)

収入の部					
科目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金収入	1,923	1,911	1,950	2,025	2,084
補助金収入	704	769	767	806	859
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	540	531	559	548	418
その他の	842	255	159	407	△ 211
前年度繰越金	2,971	1,797	1,486	1,287	1,158
収入の部合計	6,980	5,263	4,921	5,073	4,308

支出の部					
科目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	2,050	2,221	2,285	2,370	2,306
教育研究経費支出	435	542	530	635	650
管理経費支出	140	166	156	141	151
借入金等利息・返済支出	45	45	45	45	44
施設・設備関係支出	984	245	189	172	73
資産運用支出	1,528	537	384	680	106
その他の	1	21	45	△ 128	79
翌年度繰越金	1,797	1,486	1,287	1,158	899
支出の部合計	6,980	5,263	4,921	5,073	4,308



(2) 活動区分資金収支計算書の状況

活動区分資金収支計算書は、資金収入及び資金支出の決算額を①教育活動、②施設設備等活動、③その他の活動の3つの区分をもって表示します。

この活動区分資金収支計算書の区分は、企業会計のキャッシュ・フロー計算書の区分を参考にしたものであり、資金収支計算書にある資金収入と資金支出の決算額を活動区分別に記載することで、どのような活動で資金が増加もしくは減少したかがより明確になるようになっています。つまり、資金の増減及び保有額を重視した計算書といえます。

【教育活動による資金収支】

本業である教育活動による資金収支差額は、学納金収入や補助金収入の増などにより28百万円の収入超過となったものの、期末未収入金や前期末前受金等の調整勘定により、△126百万円となった。

【施設設備等活動による資金収支】

施設設備関係の寄付金や補助金等による収入と施設設備関係支出等の差額である、施設設備等活動資金収支差額は、トイレ改修工事などにより、△95百万円となった。

【その他の活動による資金収支】

財務活動の他、預り金の受払い等の経過的な活動などに係る、その他の活動による資金収支差額は、借入金返済支出などにより、△38百万円となった。

その結果、翌年度繰越支払資金は、前年度より259百万円減額の899百万円となった。

令和5年度の活動区分資金収支計算書とその経年比較表

(単位:百万円)

科 目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,923	1,911	1,950	2,025	2,084
		手数料収入	25	22	23	23	21
		特別・一般寄付金収入	7	5	25	1	1
		経常費等補助金収入	609	725	745	805	852
		付随事業収入	28	24	28	25	27
		雑収入	75	72	119	151	150
		教育活動資金収入計	2,667	2,759	2,890	3,030	3,135
	支出	人件費支出	2,050	2,221	2,285	2,370	2,306
		教育研究経費支出	435	542	530	634	650
		管理経費支出	140	159	155	139	151
教育活動資金支出計		2,625	2,922	2,970	3,143	3,107	
差引	42	△ 163	△ 80	△ 113	28		
調整勘定等	6	2	7	66	△ 154		
教育活動資金収支差額	48	△ 161	△ 73	△ 47	△ 126		
施設設備等活動による資金収支	収入	減価償却引当等特定資産取崩収入	1,141	304	401	357	106
		その他	95	45	22	1	6
		施設設備等活動資金収入計	1,236	349	423	358	112
	支出	施設・設備関係支出	984	245	189	172	73
		減価償却引当等特定資産繰入支出	1,391	304	384	357	106
		その他	0	0	0	0	0
		施設設備等活動資金支出計	2,375	549	573	529	179
	差引	△ 1,139	△ 200	△ 150	△ 171	△ 67	
	調整勘定等	△ 75	44	19	72	△ 28	
	施設設備等活動資金収支差額	△ 1,214	△ 156	△ 131	△ 99	△ 95	
小計 (教育活動資金収支差額+施設設備等活動資金収支差額)	△ 1,166	△ 317	△ 204	△ 146	△ 221		
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	0	0	0	0	0
		有価証券売却収入	8	2	33	38	0
		退職給与引当特定資産取崩収入	147	263	0	322	0
		立替金回収収入	16	11	5	5	4
		預り金受入収入	19	22	22	32	26
		差入保証金受入収入	0	0	0	0	0
		小計	190	298	60	397	30
	支出	受取利息・配当金収入	19	18	18	14	15
		その他	1	1	0	1	0
		その他の活動資金収入計	210	317	78	412	45
		借入金等返済支出	44	44	44	44	44
		有価証券処分差額支出	0	0	0	0	0
		退職給与引当特定資産繰入支出	137	233	0	322	0
	小計	預り金支払支出	19	19	22	22	32
		立替金支払支出	17	9	5	5	4
		差入保証金支払支出	0	0	0	0	0
		借入金等利息支出	1	1	1	1	0
その他		0	5	1	1	1	
その他の活動資金支出計	218	311	73	395	81		
差引	△ 8	6	5	17	△ 36		
調整勘定等	0	0	0	0	△ 2		
その他の活動資金収支差額	△ 8	6	5	17	△ 38		
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	△ 1,174	△ 311	△ 199	△ 129	△ 259		
前年度繰越支払資金	2,971	1,797	1,486	1,287	1,158		
翌年度繰越支払資金	1,797	1,486	1,287	1,158	899		

(3) 事業活動収支計算書の状況

事業活動収支計算書は、当該年度の「教育活動」、「教育活動以外の経常的な活動」及び「前記二つの活動以外の活動」に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、当該年度の基本金組入額を控除した当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにし、経営状況を表します。つまり、企業会計の損益計算書に類似した計算書となっています。

「教育活動収支」は、学校法人の教育活動によって得られた当該年度分の収入や現物寄付などが計上され、他人資金である借入金収入などは除外されます。また、教育活動収入を得るために必要な人件費等を支出として計上します。「教育活動外収支」は、経常的収支のうち、教育活動収支以外の財務活動や収益事業に係る活動による収支を計上します。「特別収支」は、資産の売却や処分による差額や、施設整備への寄付金等、特殊要因による臨時的な収支を計上します。

【教育活動収支の部】

学生生徒等納付金、経常費補助金収入など教育活動収入の合計は、前年度より 70 百万円増額の 3,033 百万円となった。

人件費は、資金収支計算書の人件費支出のうちから、退職金社団交付金収入との相殺表示が認められている退職金支出額を減じた額に、退職給与引当金繰入額を加えて 2,210 百万円となった。

教育研究経費は、965 百万円となった。(減価償却額 312 百万円含む)

管理経費は、183 百万円となった。(減価償却額 32 百万円含む)

教育活動支出の合計は、前年度より 39 百万円減額の 3,361 百万円となった。

その結果、本年度の教育活動収支差額は、△328 万円となった。

【教育活動外収支の部】

経常的な財務活動および収益事業に係る活動に関する事業活動収支である、本年度の教育活動外収支差額は、受取利息・配当金などにより+14 百万円となった。

【経常収支差額】

特殊な要因を除いた経常的な事業活動収入と事業活動支出の差額を示す、本年度の経常収支差額は、△314 百万円となった。

【特別収支の部】

特殊的な要因によって発生した臨時的な事業活動収支である、本年度の特別収支差額は、施設設備補助金などにより+10 百万円となった。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は△304 百万円となり、トイレ改修工事などに係る基本金組入額 130 百万円を差し引いた当年度収支差額は、434 百万円の支出超過となった。

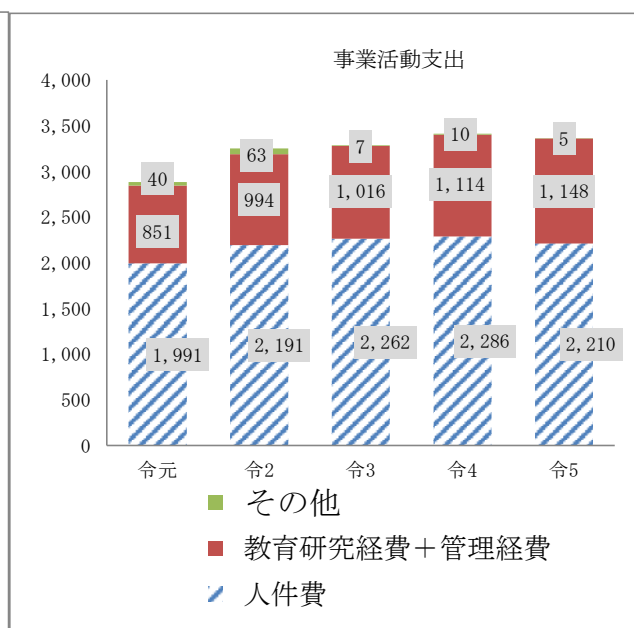
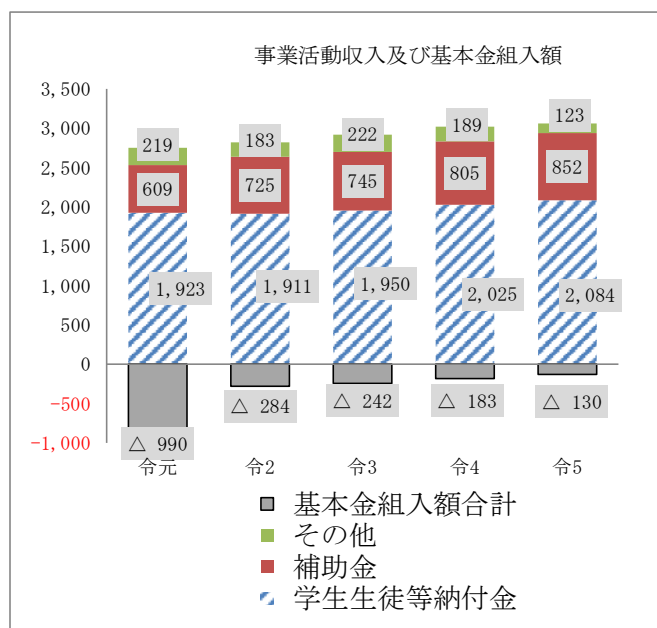
令和5年度の事業活動収支計算書とその経年比較表

(単位:百万円)

科 目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動収入	の事業					
	学生生徒等納付金	1,923	1,911	1,950	2,025	2,084
	手数料	25	22	23	23	21
	寄付金	9	6	25	1	2
	経常費補助金	609	725	745	805	852
	付随事業収入	28	24	28	25	27
	雑収入	30	48	70	84	47
教育活動収入計	2,624	2,736	2,841	2,963	3,033	
科 目						
教育活動支出	支事					
	出業					
	の活					
	部動					
	人件費	1,991	2,191	2,262	2,286	2,210
教育研究経費	683	802	831	942	965	
管理経費	168	192	185	172	183	
徴収不能額等	1	2	0	0	3	
教育活動支出計	2,843	3,187	3,278	3,400	3,361	
(A)教育活動収支差額		△ 219	△ 451	△ 437	△ 437	△ 328
科 目						
教育活動外収入	の動事					
	部収業					
	入活					
受取利息・配当金	18	18	18	15	15	
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	
教育活動外収入計	18	18	18	15	15	
科 目						
教育活動外支出	の動事					
	部支業					
	出活					
借入金等利息	1	1	1	1	1	
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	
教育活動外支出計	1	1	1	1	1	
(B)教育活動外収支差額		17	17	17	14	14
(C)経常収支差額(A) + (B)		△ 202	△ 434	△ 420	△ 423	△ 314
科 目						
特別収入	の動事					
	部収業					
	入活					
資産売却差額	9	4	33	38	0	
その他の特別収入	100	61	25	3	11	
特別収入計	109	65	58	41	11	
科 目						
特別支出	の動事					
	部支業					
	出活					
資産処分差額	0	18	6	0	0	
その他の特別支出	38	42	0	9	1	
特別支出計	38	60	6	9	1	
(D)特別収支差額		71	5	52	32	10
基本金組入前当年度収支差額(C) + (D)		△ 131	△ 429	△ 368	△ 391	△ 304
基本金組入額合計		△ 990	△ 284	△ 242	△ 183	△ 130
当年度収支差額		△ 1,121	△ 713	△ 610	△ 574	△ 434
前年度繰越収支差額		△ 2,342	△ 3,463	△ 4,176	△ 4,786	△ 5,360
基本金取崩額		0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額		△ 3,463	△ 4,176	△ 4,786	△ 5,360	△ 5,794

(参考)

事業活動収入計	2,751	2,819	2,917	3,019	3,059
事業活動支出計	2,882	3,248	3,285	3,410	3,363



(4) 貸借対照表の状況

貸借対照表は、年度末における総資産・総負債・純資産（基本金＋繰越収支差額）を把握し、財政状態を表します。資金収支計算書と事業活動収支計算書が単年度ごとの状況を表す一方、貸借対照表は、今までの学校法人の活動を行ってきた積み重ねの結果を表すものです。

【資産の部】

有形固定資産は、建物や機器備品の減価償却などにより、前年度より 268 百万円減額の 5,891 百万円となった。

特定資産は、前年度同額の 2,814 百万円となった。

固定資産の合計は、前年度より 268 百万円減額の 8,710 百万円となった。

流動資産は、現金預金や高知県私学退職金社団からの交付金の未収入金など、前年度より 246 百万円減額の 1,047 百万円となった。

その結果、資産の総額は、前年度より 514 百万円減額の 9,757 百万円となった。

【負債の部】

固定負債は、長期借入金の返済など、前年度より 50 百万円減額の 844 百万円となった。

流動負債は、当年度末退職者への未払金や前受金など、前年度より 160 百万円減額の 740 百万円となった。

その結果、負債の総額は、前年度より 210 百万円減額の 1,584 百万円となった。

【基本金の部】

基本金は、当期に取得した施設・設備の組入れなどにより、前年度より 130 百万円増額の 13,967 百万円となった。

【繰越収支差額の部】

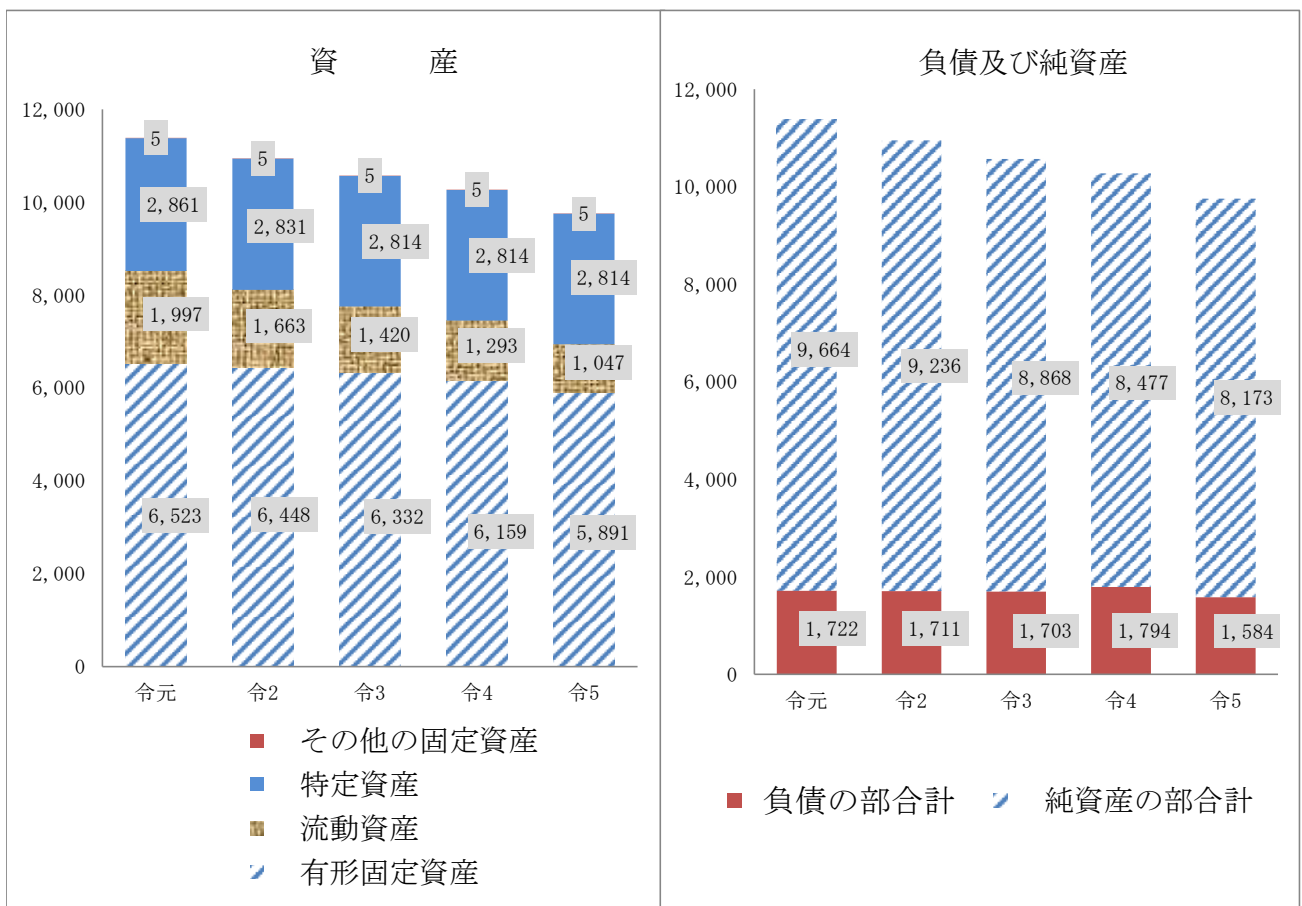
繰越収支差額は、支出超過額が前年度より 434 百万円増額の 5,794 百万円となった。

負債及び純資産（基本金及び繰越収支差額の合計）の合計は、前年度より 514 百万円減額の 9,757 百万円となった。

令和5年度末の貸借対照表とその経年比較表

(単位：百万円)

科 目	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
資産の部					
固定資産	9,389	9,284	9,151	8,978	8,710
有形固定資産	6,523	6,448	6,332	6,159	5,891
特定資産	2,861	2,831	2,814	2,814	2,814
その他の固定資産	5	5	5	5	5
流動資産	1,997	1,663	1,420	1,293	1,047
資産の部合計（総資産）	11,386	10,947	10,571	10,271	9,757
負債の部					
固定負債	939	932	914	894	844
流動負債	783	779	789	900	740
負債の部合計（総負債）	1,722	1,711	1,703	1,794	1,584
純資産の部					
基本金	13,128	13,412	13,654	13,837	13,967
第1号基本金	12,932	13,216	13,458	13,598	13,728
第2号基本金	0	0	0	0	0
第4号基本金	196	196	196	239	239
繰越収支差額	△ 3,464	△ 4,176	△ 4,786	△ 5,360	△ 5,794
翌年度繰越収支差額	△ 3,464	△ 4,176	△ 4,786	△ 5,360	△ 5,794
純資産の部合計	9,664	9,236	8,868	8,477	8,173
負債及び純資産の部合計	11,386	10,947	10,571	10,271	9,757



2. 財務比率比較

(1) 主な財務比率比較表

(単位：%)

	比 率 名	算 式	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	説 明
事業活動収支計算書関係比率	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入 (※1)}}$	75.3	79.6	79.1	76.8	72.5	この比率が特に高くなると、経常収支の悪化を招きやすくなり、低い数値が望ましい。
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入 (※1)}}$	25.8	29.1	29.1	31.6	31.6	教育研究活動の維持・発展のために、経常収支の均衡を崩さない限りにおいて、高い数値が望ましい。
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入 (※1)}}$	72.7	69.4	68.2	68.0	68.4	学生生徒等納付金は、経常収入のなかで最大の比重を占めており、安定的に推移することが経営的には望ましい。
	補助金比率	$\frac{\text{補助金 (※2)}}{\text{事業活動収入}}$	25.6	27.3	26.3	26.7	28.1	この比率が高いということは、自助努力による多様な取り組みが評価されている表れでもある。
	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入 (※1)}}$	-7.6	-15.8	-14.7	-14.2	-10.3	経営の健全性を表す代表的な指標であり、この比率が高ければ高いほど、経営に余裕があると考えられる。
	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-8.3	-16.5	-15.4	-14.7	-10.8	学校本来の教育活動による収支差額を表しており、本業である教育活動収入の範囲内で、どの程度余裕を持って運営できているかを把握することができる。
貸借対照表関係比率	特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	25.1	25.9	26.6	27.4	28.8	この比率が高いほど財政基盤が安定しているとされ、学校法人運営を計画的に行うことができる。
	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債+純資産}}$	84.9	84.4	83.9	82.5	83.8	この比率は、50%を割ると他人資金が自己資金を上回っていることを示しており、高い数値が望ましい。
	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債+純資産}}$	-30.4	-38.2	-45.3	-52.2	-59.4	学校法人の収支均衡状態を示す重要な指標であり、高い数値が望ましい。
	積立率	$\frac{\text{運用資産 (※3)}}{\text{要積立額 (※4)}}$	62.8	55.7	50.7	47.3	42.5	この比率が高いほど、「ヒト、モノ（施設設備）」に対する蓄えが出来ているという状態を表している。

(※1) 経常収入・・・教育活動収入計+教育活動外収入計

(※2) 補 助 金・・・経常費等補助金+施設設備補助金

(※3) 運用資産・・・特定資産+現金預金

(※4) 要積立額・・・退職給与引当金+第2号基本金+減価償却額の累計額

(2) 主な財務比率比較表のグラフ

